

# 宋代文人士大夫の詩文集にみる絵画関連資料

## 北宋編 1

竹 浪 遠

### 序説

本研究は、清の乾隆帝（在位1735～95）によって編纂された『四庫全書』（1781年成書）に収録される宋代（960～1279）の詩文集から絵画関係の記述を抽出し、一覧表として報告するものである。

宋は、約半世紀にわたる五代（907～60）の戦乱を収束させ、唐（618～907）までの貴族優勢の政治体制にかわって、科挙官僚である新興の士大夫層が皇帝を支えて政治を担っていく文治主義が確立した時代であり、政治経済のみならず思想や文化においても大きな変革をみたことは広く知られている。

絵画においても、関仝、李成、范寛の華北の三大家が五代・北宋前期（10世紀後半）～中期（11世紀前半）に活躍し、後期（11世紀後半）の郭熙、晩期（12世紀初）の李唐を経て、南宋院体画の馬遠、夏珪らが登場し、唐までは人物画中心であった絵画史の比重が山水画へと移っていく。また、花鳥画においても五代宋初の黄筌、徐熙とその子孫たち、後期の崔白、呉元瑜、晩期の徽宗（在位1100～25）とその画院画家たちにより、巧緻な院体画が成立し南宋へ受け継がれていった。また、北宋後期には蘇軾とその周辺の文同、李公麟、米芾等によって文人画が確立し、元以降の隆盛の基礎が築かれた。

これら多様な達成と、その後の絵画史に強い影響力を持った宋代の絵画は、現在もアジアや欧米の美術館・博物館で収蔵展示され、多くの研究成果が発表されている。ただ、優に一千年から七百年以上に及ぶ時間の経過によって、現存する作品は自ずと限られており、当時の画史画論の類もその数は多くないのが実状である。そのような資料の制約は、僅かな優品と大家に研究が集中する傾向を生んでいることは否めないであろう。

私は、東洋絵画史の中でも黄金時代と称される宋代の絵画について、それがなぜ興り、どのような意味をもって展開していったのかが知りたい。優れた作品を生み出した画家たちと、それを鑑賞した人々は、どのような思いを抱いていたのだろうか。とりわけ、当時の文化の担い手であった文人士大夫たちにとって、絵画とは何であったのかを明らかにしたい。

以前に『全唐詩』を通覧し、唐代山水画に関する記述を抜き出す作業を行ったのも<sup>(1)</sup>、唐から宋への山水画の変遷を探る意図からであり、海図、松石図といった既に失われた画題の表現やイメージ、鑑賞状況を知る上での大きな手がかりとなった<sup>(2)</sup>。唐代に比べ、宋の詩文は膨大に残っており、それらを活用すれば現存作品、画史画論に限りのある宋代絵画史を、より広く多角的に捉えなおすことができるとの思いを強くした。以上が本研究を行うにいたった経緯である<sup>(3)</sup>。

『四庫全書』に収録される北宋時代の詩文集は124種、総数約3300巻余りを数える。本号ではこのうち最初である徐鉉『騎省集』から釋重顕『祖英集』にいたる計28人の詩文集を採録した。概ね北宋前

期の太祖（在位960～76）・太宗（在位976～97）朝から中期の真宗（在位997～1022）・仁宗（1022～63）朝に活躍した人物であり、南唐から宋に帰順した学者の徐鉉。北宋前期の新興科挙官僚である張詠、王禹偁。真宗朝における文豪の楊億と隱逸詩人の林逋。後世に理想の治世とされる仁宗の「慶曆の治」の中心人物である晏殊、范仲淹、韓琦。書家として著名な蔡襄など多彩な文人士大夫が顔を並べている。宰相である同中書門下平章事、副宰相に当たる参知政事、軍政の長である枢密使、詔勅の起草を担当する翰林学士などの要職を務めた者も多く含まれる。

以下、その採録の方針と凡例について述べておく。

各詩文集は『景印 文淵閣四庫全書』（台湾商務印書館、1986年）の収録順に、作者（生没年）『書名』巻数を挙げたうえで、著者の略伝を付した。

その上で、抽出した絵画関連の記事を順に掲載した。**第1列**（最左列）にその文集ごとの記事の順番を挙げ、**第2列**に収録巻数を記載し、**第3列**に詩文の題名を挙げた。

そして**第4列**に本文を引用した。短いものや必要と判断したものは全文を挙げ、省略可能なものについては節録した。長文の引用が多いと感じられるむきもあろうが、絵画関係の記述は題名に表れず、本文中にのみ記載があることもしばしばで、文脈が分かる形でなければ意味をなさないためである。また、参照の便からも本文を収録する以上は全体を載せる方がよいと判断した結果である。

記事は、実作品、画家、制作、收藏、鑑賞に関するものを中心に採録した。「図」と表記されるものは、地図や系図なども含め、なるべく拾うようにした。また、「如画」のような、絵画を引き合いに出した修辞は頻出するため、それが例えば水墨山水、名所図のような何らかの具体性を持つ場合には載せることとし、漠然と絵画を指す場合は原則省略した。絵画と関わりの深い書や文房具、あるいは彫刻、工芸、考古、造園、園芸等の記事も、紙幅の範囲で極力掲載するように務めた。

第3、4列とも原典の割注には〈〉を用い、省略や報告者による補足には（）を用いた。用字については新字体を原則とし、標点については主に『全宋詩』（北京大学出版社、1991～98年）、『全宋文』（安徽教育出版社・上海辞書出版社、2006年）、『全宋词』（中華書局、1979年〔1940年初版〕）を参考に「、」「。」を付した。

**第5列**には、なぜその記述を引いたのかを示す主要な語句を載せた。前後の文脈が必要な場合、詩句や文章ごと引用したものもある。絵画関連以外で立項された記事を含む場合に限り〔 〕の中にそのカテゴリーを付した。読者には、まずこの項目を参照していただきたい。

最後の**第6列**には、その文献が『全宋詩』、『全宋文』、『全宋词』に収録される巻数（全宋词は冊数）を記載した。

個別の善本によらずに『四庫全書』を用いたことには批判があるかもしれない。私自身、校訂等も考えたが、いざ作業をはじめてみると通覧と情報の整理だけでも膨大な時間を要することがみえてきた。また、本研究の主眼は北宋絵画研究に新たな素材を紹介することであり、校訂や精読は概要が明らかになった上で重要度を見極めつつ行うべき作業と考えるため、むしろ台湾商務印書館影印本、文淵閣四庫全書電子版（上海人民出版社・迪志文化出版有限公司、2000年）の刊行によって広く閲覧できるようになった『四庫全書』が最適と判断した。また、『全宋詩』、『全宋文』、『全宋词』には、さらに多くの資料が収載されているが、それらは編集の過程で本来の詩文集の配列から変更が加えられており、広く普及しているとも言いがたいため、やはり『四庫』によるのが最適と考えた。

通覧には往復3時間ほどの通勤の車中を当てるが多かったが、実際、表にして順に眺めていると、宋代へと時間旅行しているような感覚に駆られる。喩えるならば、本研究は、清朝考証学が敷設した宋代詩文集の軌道を列車に乗って旅し、車窓からの眺めをカメラに収め、撮影順にアルバムにしたものと言えるであろう。シャッターを余分に切ったり、逆に切りそこなったりと拙い点多々あると自覚しているが、車窓から見える風景であることに変わりなく、読者はこのアルバムを眺めて、これはという風景があれば、ぜひ列車を降りて街並みを散策していただきたい。いわば個々の詩文集は宋代へと我々を誘う駅であり、個々の記事は、その街の訪ねるべき名所旧跡である。本報告は、その旅行手引書として活用されることを望んでおり、筆者自身この報告を続けながら、宋代の様々な人士、作品に出会い、学びたいと願っている。

いささか長文の序となったが、北宋だけでも完結には5年を要する目算であり、言を出した以上、身の及ばざるを恥じることはないよう、自らへの戒めとする故である。読者には本研究への理解と向上への叱正を請い願う。

#### 註

- (1) 拙稿「唐代山水画の主題に関する研究—神仙山水と樹石画を中心に—」(『鹿島美術研究(年報第22号別冊)』、2005年)。
- (2) 拙稿「唐代の海図—その主題内容と絵画史上の意義をめぐって—」(『古文化研究』2号、2003年)。拙稿「唐代の樹石画について—松石図を中心に—」上・下(『古文化研究』5、7号、2006、2008年)。
- (3) 北宋の山水画風の中心を担った李成については、既に現存作品・文献資料の双方から考察を行い、具体的な位置づけを示したが、宋代絵画史の総体を把握するために、他の画家や画題、作品へと考察を広げてゆきたい。拙稿「(伝)李成「喬松平遠図」(澄懷堂美術館)について—唐代樹石画との関係を中心に—」(『国華』1369号、2009年)。拙稿「北宋における李成の評価とその文人画家像形成について—子孫・鑑賞者・李郭系画家との関わりから—」(『古文化研究』9号、2010年)。

なお、江戸時代の漢詩文集については、同僚の杉本欣久氏が調査を行い、次の報告を公表している。「江戸中期の漢詩文にみる画人関係資料—事項一覧編—」(『古文化研究』9号、2010年。10号に補遺あり、2011年)。国籍・時代は異なるが、問題意識には共通するところが多く、その成果は本号掲載の同氏「八代将軍・徳川吉宗の時代における中国絵画受容と徂徠学派の絵画観—徳川吉宗・荻生徂徠・本田忠統・服部南郭にみる文化潮流—」にも反映されているので、併せて参照されたい。

## 表 宋代文人士大夫の詩文集にみる絵画関連資料 北宋編 1

### 1 徐鉉（917～92）『騎省集』三十卷

字は鼎臣。揚州広陵（江蘇省）の人。初め五代十国の呉に仕えて校書郎となり、南唐では翰林学士、吏部尚書などを務めた。後主・李煜が宋に下ると開封へ同行し、学識を買われて登用され、散騎常侍に任じられた。文字学に詳しく、篆隸を善くし、『説文解字』の校訂者として知られる。『宋史』441。『全宋詩』4～10。『全宋文』15～37。

1	巻1	賦得綵鸞	縷綵成飛燕、迎和啓蟄時。翠翹生玉指、繡羽扞文楣。詎費銜泥力、無勞剪爪期。化工今在此、翻怪社來遲。	〔工芸〕 綵鸞	詩4
2	巻2	題画石山	彼美巉巖石、誰施黼藻功。回巖明照地、絕壁爛臨空。錦段鮮須濯、羅屏展易窮。不因秋蘚綠、非俛晚霞紅。羽客藏書洞、樵人取箭風。靈蹤理難問、仙路去何通。返駕帰塵裏、留情向此中。迴瞻画図畔、遙羨面山翁。	画石山	詩5
3	巻3	送写真成処士入京	伝神踪跡本来高、澤畔形容媿彩毫。京邑功臣多佇望、凌煙閣上莫辞勞。	写真	詩6
4	巻14	野老行歌図賛	昔在陶唐、光宅万国。不識不知、帝乎何力、鼓腹擊壤、嬉遊無極。自然而然、忘適之適。中古道薄、親仁懷德。末世政乱、姦宄寇賊。淳風不還、可以嘆息。丹青志石、存諸往則。嗟爾有位、鑑兹玉式。	野老行歌図	文26
5	巻14	四皓画賛	君子道行、必資其位。邈哉四賢、隱居救世。皤皤之貌、丹青佞志。爾無素飧、觀此知愧。	四皓画	文26
6	巻14	高侍郎画像賛	穆穆清真、不溜不磷。文高学富、道直誠純。昭質已邈、斯猷愈新。丹青画像、以永光塵。棠陰峴首、瞻仰霑巾。	高侍郎 画像	文26
7	巻18	（御製春雪詩）後序	昔者、漢宮故事、著成王負辰之図、魯殿宏規、紀黃帝垂衣之象。用能昭文昭物、雖十世而可知、如玉如金、更百王而不易（中略）。奕奕世之耿光、為中朝之盛觀。固当騰之竹帛、飾以丹青、襲六芸以同明、与天文而共麗。皇太弟重離普照、博望凝思、敦古道以致君、法前經而作事、命千秋而指画、召立本以趨馳。粲然後素之功、焯爾彰施之象、煦如就日、肅不違顔。万国式瞻、若奉衣裳之会、群臣仰止、似聞輿馬之音。盛德形容、於斯大脩者也（後略）。	成王負辰之図 （闕）立本	文21
8	巻23	文房四譜序	聖人之道、天下之務、充格上下、綿亘古今、究之無倪、酌之不竭、是以君子学然後知不足也。然則士之处世、名既成、身既泰、猶復孜孜於討論者、蓋亦鮮矣。昔魏武帝独歎於朱伯業、今復見於武功蘇君矣。君始以世家文行、貢名春官、天子臨軒考第、首冠群彦。出入數載、翱翔青雲、綵衣朱紱、光映里閭、其美至矣。而其学益勤、不矜老成、以此為樂。退食之室、図書在焉、筆硯紙墨、余無長物。以為此四者為学之所資、不可斯須而闕者也。由是討其根源、紀其故實、參以古今之變、繼之賦頌之作、各從其類、次而譜之、有条不紊、既精且博。士有能精此四者、載籍具焉往哉。愚亦好学者也、覽此書而珍之、故為文冠篇、以示來者。	〔文房具〕 文房四譜	文22
9	巻24	安金藏画像賛	心腹腎腸、所以為人。安公感激、捨此求仁。既已得之、不愆厥身。眉壽高位、惟天所親。咨爾百世、仰之愈新。	安金藏画像	文26
10	巻24	参政李公至字言幾年三十八真賛	金玉其相、若子之容。廟堂之器、多士攸宗。謀先帷幄、道合雲龍。絶景横鶩、干霄直上。黑頭三公、風流宰相。人具爾瞻、惟肖之像。	参政李公（李至） 年三十八真賛	文26

### 2 柳開（947～1000）『河東集』十五卷

字は仲塗。若くして韓愈、柳宗元の古文を慕い肩愈と名のり、紹先と字した。号は東郊野夫、補亡先生。大名（河北省）の人。開宝六年（973）の進士で、太宗、真宗朝に地方の知事を歴任した。北宋の古文復興の先駆者とされる。『宋史』440。『全宋詩』54。『全宋文』119～129。

1	卷13	内供奉伝真大師元諱自写真讚（並序）	諱公来自蜀、以写真事求見上、上愛之。自上而下、王公卿大夫士聞于時者、皆写之。上命曰、若能自写乎。曰能。既成、觀曰善。柳開見之、為作讚云、他人写真、能写他人。諱公自写、如他人也。凝睇隱默、纖無差忒。至芸天乎、超今邁古。立名宋朝、万世之標。	元諱 自写真	文127
2	卷13	真讚（並序）	淳化四年、開為諱師自写真与作讚、諱為開自作讚与写真。讚曰、仰匪高、俯寧厚。識寡偶、志難就。東西師、溪岩友。審形義、非妍陋。聖如知、慶無咎。	（元）諱 （柳開の）真	文127

### 3 田錫（940～1003）『咸平集』三十卷

字は表聖、諡は献翼。嘉州洪雅（四川省）の人。太平興国三年（978）の進士。直諫の士として知られ、左拾遺、直史館から地方の知事を経て右諫議大夫となった。『宋史』293。『全宋詩』41～46。『全宋文』80～99。

1	卷28	翰林図画待詔夏侯延祐可廬州巢巢令	勅、具官夏侯延祐、早以芸能、列於禁署、每聞恭恪、克守官箴。可以命之親民、觀其莅事。遂爾上章之意、勿辜非次之恩。清廉可以保躬、畏慎所以無過。繪事後素、是為礼獻。能達斯言、必善為政。	翰林図画待詔 夏侯延祐	文82
2	卷29	翰林書画琴阮医薬等待詔加恩	勅、籍田之礼久廢、今朕行之、慶澤之恩既普、与衆同之。某等技芸精通、履行純謹、各奉禁林之職、夙彰芸圃之名。覃恩既洽於涵濡、祇寵勿忘於惕勵。	翰林書画琴阮医薬 等待詔	文83

### 4 潘閔（？～1009）『逍遙集』一卷

字逍遙（一説に号）、大名（河北省）人（一説に広陵〔江蘇省揚州〕人）。はじめ都で薬を売っていたが、詩にたくみで、王繼恩の推薦により太宗から進士第の資格を賜るも、性格が狂妄とされ一時官を追われた。真宗朝に許されて滁州参軍となった。『宋史』466。『全宋詩』■～■。『全宋文』163～■。

1	卷1	過華山	高愛三峰挿太虚、掉頭吟望倒騎驢。旁人大笑從他笑、終擬移家向此居。	『図画見聞誌』卷四、許道寧条に「潘閔倒騎驢（図）」あり。	詩56
---	----	-----	----------------------------------	------------------------------	-----

### 5 張詠（946～1015）『乖崖集』十二卷

字は復之、号は乖崖、諡は忠定。濮州鄆城（山東省）の人。太平興国五年（980）の進士。知益州となり、大乱のあった蜀の治世に実績を上げた。大中祥符三年（1010）に礼部尚書に至った。『宋史』293。『全宋詩』48～51。『全宋文』108～112。

1	卷4	依韻答人九華山図	每憶眠雲處、当簷列翠屏。有時聊極目、尽日坐忘形。去此心惟苦、懸図眼忽醒。数峰秋欲活、虚籟夜重聽。地鎮三吳遠、天連万古青。幾人曾得道、是草即通靈。松鶴間窺鼎、龕僧暗誦經。終須卜長往、迴首謝明庭。	九華山図	詩50
2	卷5	請人画嵩山図	嵩陽三十六峰寒、向為時明隱道難。却顧事繁思不及、如何与作画図看。	嵩山図	詩51
3	卷6	異獣図賛（並序）	昔人好怪者、指是方朔所説、纂録海荒之外怪禽異獸、図而宝之。或得鳳之一毛、麟之一角、肖人而体雜、混混醜怪、総命曰異獣図。蓋四氣不合而生、生故不具、而不得容于中国也已。嗚呼、天之限物、率偶然爾。知獣怪而遠之、不知人醜獸者不遠之、天果無心也已。抑図記之設、非紀則戒天下之醜行者焉。人誰明之。系以為賛。賛曰、混元運行、与物為形。形氣不淑、以獣為名。爾形大醜、爾心或否。海荒之外、恣其所有。人誰図之、觀心駭。雜中国而醜行者、彼何人斯。	異獣図	文112

4	卷8	益州重修公署記〈並梁周翰係〉	(前略) 王建、孟知祥、迭称偽号。乾德初、王師弔伐、申命參知政事呂余慶知軍府事、取偽冊勳府為治所。淳化甲午歲、土賊李順扼有州城、偏師一興、尋亦殄滅(是年降府為州)(中略)。至道丁酉歲、某始議改作、計工上請、帝命是俞(中略)。自夏徂冬、十月畢工(中略)。其東、因孟氏之文明庁為設庁、廊有樓、庁後起堂、中門立戟、通于大門。其中、因王氏西樓為後樓、樓前有堂、堂有掖室、室前迴廊。廊南煥庁、屏有黃氏〈名筌〉画双鶴花竹怪石在焉、衆名曰双鶴庁。庁次南涼庁、壁有黃氏画湖灘山水、双鷺在焉(其画二壁洎鶴屏、皆于壞屋移置)。因名曰画庁。涼暖二庁、便寒暑也(後略)。	黄筌 双鶴花竹怪石(屏) 湖灘山水(壁画) 双鷺(壁画)	文111
---	----	----------------	---	---------------------------------------	------

## 6 寇準 (961~1023) 『忠愍集』 三卷

字は平仲、諡は忠愍。華州下邽(陝西省)の人。太平興国五年(980)の進士。太宗朝に同知樞密院事、參知政事などを歴任。景德元年(1004年)、同中書門下平章事(宰相)となり、遼との戦いに真宗を親征させ、「澶淵の盟」締結に導いた。萊国公に封じられたが、宰相の丁謂と合わず雷州司戸參軍に左遷され、同地で没した。『宋史』281。『全宋詩』89~92。『全宋文』182。

1	卷上	御製乃眷儲闈方崇學術錫群書於冊府勵至業於承華日命近班同觀盛事七言十韻詩一首奉聖旨次韻	景命昭章宥德基、元儲敦裕協祥期。寢門劬志常無怠、學肆多聞記有疑。金玉騰音鏘睿律、簡編申錫振良規。河圖奧秘言誠訓、芸圃優柔善益資。玉宇清風伝密詔、蓬山雲委錫芳蕤。天顏不遠回宸眷、肉味都忘聽寶辭。燕翼詒謀欣教盛、上庠隆道慶才奇。叨逢華旦居黃閣、久侍宣遊近赤墀。恩厚洊承三書接、力微寧致百工熙。東闈疏問英猷遠、聖慮乾乾更念茲。	〔學術〕 冊府	詩89
---	----	--	--	------------	-----

## 7 王禹偁 (954~1001) 『小畜集』 三十卷

字は元之。濟州鉅野(山東省)の人。太平興国八年(983)の進士。左正言、翰林学士などを歴任し、『太祖実録』の編纂に預かるも、硬骨な言動によってしばしば左遷された。『宋史』293。『全宋詩』59~71。『全宋文』141~162。なお、『四部叢刊』には、『小畜外集』も収められ、「李太白真讚〈并序〉」、「潘閔詠潮回讚〈并序〉」、「柳賛善写真讚〈并序〉」が録されている。

1	卷4	五哀詩 故国子博士郭公〈忠恕〉	汾陽飽經術、賦性甚坦率。在昔举神童、広場推傑出。尚書誦在口、何論落自筆(公応挙時、口念尚書、手写論語)。綵角取科名、弱冠紆纓紱。早佐襄陰幕、漢鼎入周室。矢志罷屠龍、佯狂遂捫虱。周行亦黽勉、吏隱多放逸。滑稽東方朔、図画王摩詰。古文識蝌蚪、奥学弁萍実。字窮蒼頡本、篆証陽水失。王績醉為郷、伯倫居無正。俸錢乏一囊、宦路従三黜。朱衣多不著、白髮仍慵櫛。漸老羈旅年、方見昇平日。忽以伎術名、此意殊鬱鬱。放口忤無鬚、何門求造膝。遁逃終見捕、譴逐道中卒。遺孤落閭閻、荒塚鳴蟋蟀。手澤漸難求、誰家耀箱帙。弔投焚此詩、九原原有物。	郭忠恕 王(維)摩詰	詩60
2	卷7	贈探訪使閤門穆舍人	經略十三州、東南帝不憂。二年辞玉砌、幾夜夢珠旒。旌旆雖遐適、江山是勝遊。風謠隨処採、民瘼尽心求。報国機鈴密、供吟景象幽。煮茶溪畔寺、望月海辺樓。步武思龍尾、琴書在鷁舟。聽泉調玉軫、拓石試銀鈎。古画多収買、新詩寡和酬。酒醒聞瀑響、睡起見潮頭。奉使時將久、歸朝礼必優。一麾先出守、万户待封侯。遇主当宜賁、遺材亦合収。此身居下位、無路画良籌。已悔田園廢、堪驚髮髮秋。憑誰念寒苦、祇是擬帰休。僻甚陶元亮、貧過魯仲由。品題殊不濫、清濁肯同流。復命期三接、陳詩説四愁。薦雄如有便、還解殺身酬(穆好琴、頗善書札)。	探訪使 古画多収買。	詩63

3	卷7	送鞠評事宰蘭溪	東下蘭溪數十程、幾多山水入函經。科名旧捷仙人桂、 鼎界遙看婺女星。琴院靜籠江樹綠、勅樓高對海峰青。 三年吏隱無嗟嘆、百里封疆似画屏。	山水入函經	詩63
4	卷8	御書錢	謫官無俸突無煙、惟擁琴書尽日眠。還有一般勝趙壹、 囊中猶貯御書錢。	〔貨幣·書〕 御書錢	詩64
5	卷9	偶置小園田題二首（第 二首）	偶營菜圃為盤殮、淮瀆祠前水北村。泉響靜連衙鼓響、 柴門深近子城門。濛濛細雨春蔬甲、臺臺寒流老樹根。 從此商於地圖上、書工添箇舍人園。	從此商於地圖上、 書工添箇舍人園。	詩65
6	卷8	寄題洛南秦供奉新樓	多羨新樓上、公余寓望間。數峰迷華岳、一面是商山。 棋暗幽雲過、簷喧宿鳥還。万重蒼翠裏、百尺沈寥間。 嵐破分樵徑、沙明認釣灣。望秦晴蠹蠹、清洛夜潺潺。 平遠長安道、微茫函谷關。吟哦生古意、图画寄朝班。 何日隨高步、乘秋豁病顏。銷憂吾祖事、會待共躋攀 〈望秦、嶺名〉。	图画寄朝班。	詩64
7	卷9	霽後望山中春雪	誰種離離碎玉苗、曉樓吟望興偏饒。白雲作伴宜長在、 紅日無情已半銷。聚映早霞明野寺、散隨春水過溪橋。 世間安得王摩詰、醉展霜縑把筆描。	山中春雪 王（維）摩詰	詩65
8	卷11	送宋澗処士之長安〈內 翰舍人弟〉	簪笏盈門獨紉蘭、卧龍潛在八龍間。鶴原任說朝賢貴、 鶴豎惟称処士間。靜按僊經燒大藥、狂挨僧壁画遙山。 老郎見作婦休計、分取圭峰並掩關。	宋澗 僧壁画遙山	詩67
9	卷14	画紀	古者自天子至士、皆有家廟祭祀其先、以木為神主、 示至敬也。唐季以來、為人臣者、此礼尽廢。雖將相 諸侯、多祭於寢、必囙其神影以事之。淳化甲午歲、 予小子實罹大罰、洛陽処士楊丹写我頭考中允府君、 神像尽妙。恒日、思其居處、思其笑語。思之見見、 則或形於夢。夫夢者有時、而神交不可常得、矧其恍 惚冥昧、不能審諦乎。未若約形取貌、宛然如生。歲 時朔望、拜起瞻仰、以慰罔極之心。祇肅視之、第不 語爾。嗚呼、楊丹有大造於吾家也。復念吾家苦貧、 而無厚幣以飽丹欲。丹亦好事者也、從吾乞言。吾以 乘筆不文、請俟服闋。今大祥已竟、可以鼓琴、贈之 斯文、命曰画紀。	神影 楊丹 神像	文156
10	卷17	潭州岳麓山書院記	（前略）崇文広武聖明仁孝皇帝嗣位之明年、詔以供備 庫副使隴西公知武安軍府事。公自以当不次之用、臨 至劇之郡、思樹殊迹、以答奇遇（中略）。初、開宝中、 尚書郎朱洞典長沙、左拾遺孫逢吉通理郡事、於岳麓 山抱黃洞下肇啓書院、広延学徒。二公罷歸、累政不嗣、 諸生逃解、六籍散亡、絃歌絕音、俎豆無覩。公詢問 黃髮、尽獲故書、誘導青衿、肯構旧址。外敞門屋、 中開講堂、揭以書樓、序以客次。塑先師、十哲之像、 画七十二賢、華袞珠旒、縫掖章甫、畢按旧制、儼然 如生（中略）。記以斯文、拙於敘事、聊書興廢、用紀 歲時而已。大宋咸平三年某月日記。	〔画·彫刻〕 潭州岳麓書院 塑先師、十哲之像 画七十二賢	文157
11	卷17	黃州重修文宣王廟壁記	世之有人以儒為戲者、謂文宣王廟慎不可修、修之必 起訟。復有郡隍長吏、奸賊自汙、畏儒不治而獲罪者、 適以修廟時契。由是中人以下謂信然也、故廟貌益毀。 黃州文宣王廟旧殿三間、阨危不可入、以十數柱扶持之、 猶懼其顛覆。以至遷像設於門廡之下、拆之則瓦木朽解、 十不存一。前知州、国子虞博士、廉勤之吏也。率同 僚属官泊郡之縫掖者、得數十千、市木於山、桴江而下、 屢為風濤漂泊、材植僅有至者。未幾、坐度僧過限、 又坐納監不如法、連被制劾、非時受代。留郡聽命者 百余日、窮窘不得去、或以為修廟起訟不誣矣。某自 西掖謫守是郡、觀其事、歎曰、先師若是凶耶、吾將 試焉。因其旧貲、鳩工揆日、命左都押衙丁文燧督其役、 月余而殿成。素王十哲、咸新其像、彩繪金碧、煥乎 有光。又取上都国学贊文、請從事曾碩書之、刊石鏤板、 實於神座。俾夫春秋積奠、有所瞻、仰塞戲儒之口、 刷先聖之恥、亦無媿孔門之徒也。至述先師之道、則 孟軻所謂、生民以來、未有如夫子者、其功不在舜禹下。 韓吏部曰、天下通祀者三、唯社、稷与夫子廟。某敢 輕議哉。故予書修建之由而已。時大宋咸平二年月日記。	〔画·彫刻〕 黃州重修文宣王廟 素王十哲、咸新其 像 彩繪金碧	文157

12	卷18	上史館呂相公書	<p>月日、右正言、直史館王某謹齋戒拜書、有言於相公執事、某累日前、以久不修謁求見相府、相公以某館中諸生召坐與語。某竊不自料、遂以書日歷為請。相公因及史氏廢墜、闕人編修、且因國子博士李覺屬以修撰二朝政事。某雖對以梗槩、曾未畢辭、退食徬徨、不自寧處、何哉。古者守道不如守官、故以弓招虞人而不進者、不見皮冠之故也。某雖不才、忝在史職、至於記簡牘之事、定褒貶之文、不為僭也。李覺位列國庫、當教胄子以詩書禮樂、講誦誨誘而已、又安得授之史筆哉（後略）。</p>	李覺（李成の子）	文150
13	卷19	周易彩戲圖序	<p>先師曰、飽食終日、無所用心、難矣哉。不有博奕者乎。為之、猶賢乎已。此言心無所拋、則淫慾生焉、故雖博奕可也。自博而下、戲之雅者、有李邵彩選、士子多為之。復有參陰陽家流、列神仙之事、為銷夜選仙圖者、亦行於世。蓋為戲不同、同歸於無益也。戲而有益者、其周易彩戲圖之謂歟。同州節度推官、試大理評事岐君賁、登進士第、尚奇好古、独行寡合。文學之外、尤耽易象、善戲善誘、製為此圖。取大易六十四卦三百八十四爻、除乾六爻、君象也、人臣不敢為戲、自余每爻當碁子一路。爻有吉凶、子有賞罰。遇謙謙君子者、終局有賞而無罰、遇以訟受服者、終局有罰而無賞。周旋曲折、至於大方。此圖勢也。以骰子二隻、得陽九、陰六之數者先之、此局例也。又以黃裳元吉、人道之具美、遇之有不爭而勝矣。以至龍戰於野、其血玄黃、則贏輸未可知也。得陽九之數者勝焉、故起於屯而終於坤也。俾夫消息盈虛之道、吉凶悔吝之理、談笑抵掌、斯須不離、易象不習而自精、人心雖戲而無蕩。大哉、岐君之用心也、可與投壺、鄉射揭而並行、比夫雜戲遠矣。好事君子、得不家藏而時習乎。</p>	周易彩戲圖 銷夜選仙圖	文154
14	卷21	為宰臣謝御書錢樣表	<p>臣等伏蒙聖慈、賜御書三体字樣錢各一貫文者。五銖新樣、貨泉將布於人間、三体成文、筆札互彰於天縱。出爐冶而首家頌賜、望冕旋而共積兢榮。伏惟尊号皇帝陛下、道極至玄、學探衆妙。宸居多暇、書九府之錢刀、御筆摘華、奪三辰之文彩。盡真草隸行之法、在方員肉好之中。通流將遍於溥天、固殊當百、錫賚先霑於近位、其數且千。臣等佞翫為榮、收藏至寶、荷天光而悚惕、對聖作以兢慙。臣無任云云。</p>	〔貨幣・書〕 御書錢樣 御書三体字樣錢各一貫文	文145
15	卷21	謝賜御製逍遙詠秘藏銓表	<p>臣等言、伏蒙聖慈、賜臣等御製秘藏證逍遙詠共四十一卷者（中略）。伏惟聖号皇帝陛下思妙玄沙、心遊赤水、因民設教、自天比崇（中略）。示万機之多暇、表三教之精通、定可以指迷悞於群生、扇穆清於四海。豈比夫劉莊、蕭衍、但多佞佞之心、漢武、秦皇、空作求仙之術（中略）。謹當披持誦誦、抃舞歡呼、少遵善誘之心、庶助無為之化。臣無任云云。</p>	御製逍遙詠秘藏銓	文145
16	卷21	謝賜御草書詩表	<p>臣某言、今日五日、伏蒙聖慈、賜臣紅綾上御草書趙嘏南亭絕句詩一首。絳綉半幅、霞舒舞鶴之紋、宸翰三行、雲繞迴鸞之勢。天恩曲被、凡目榮觀、佩服戰兢、神魂飛越（中謝）。伏惟尊号皇帝陛下、書窮八法、學洞九流。英斷睿謨、運元功而多暇、飛文染翰、縱草聖以為娛。問裁浙水之綾、爰寫渭南之句。宮中刀尺、剪雲霧於赤城、筆下風雷、走龍蛇於碧落（後略）。</p>	〔書〕 御草書詩	文145
17	卷21	謝賜御書字樣錢表	<p>臣某等今日月二十三日於學士院分賜得御書三般字樣淳化元寶錢者。洪鑪新樣、通行將遍於万方、御筆摘華、神妙互分於八體。頒宣非次、佞習知榮（中謝）。伏惟尊号皇帝陛下留意貨泉、精心筆札。書紀年之大号、用煥錢神、逞上聖之多才、爰彰墨妙。盡返鸛迴之法、掩天龍地馬之名。莊山、歷山之金、可齊重寶、開元、乾元之字、莫比神蹤。將大濟於兆民、仍分霑於兩制。臣等名慙夷甫、才謝魯褒、突趙囊而空荷君恩、探禹穴而難窮聖作。周太公之圖法、自合包羞、歐率更之筆、精從茲掃地。永言感遇、空極兢榮、臣等無任云云。</p>	〔貨幣・書〕 御書字樣錢	文145



## 8 趙湘 (959~93) 『南陽集』 五卷

字は叔靈。南陽（河南省）の人。衢州（浙江）に居し、同地の人となった。淳化三年（992）、進士に及第し、廬江尉を授けられたが、翌年、官に卒した。『全宋詩』75~77。『全宋文』170~171。

1	卷2	贈水墨蠻上人	講余精小筆、深院竹脩脩。試墨因磨雨、思山忽写秋。靜曾窮鶴趣、高亦近詩流。更擬緣清思、和雲狀沃州。	水墨 蠻上人	詩76
---	----	--------	--	-----------	-----

## 9 楊億 (974~1020) 『武夷新集』 二十卷

字は大年、諡は文。建州浦城（福建省）の人。淳化年間に翰林の試験を受け進士及第の資格を得た。真宗朝には左正言、知正誥、判史館などを務め、『冊府元龜』の編修に預かった。その後、翰林学士に抜擢され、工部侍郎に至った。詩を善くし、晩唐の李商隱の詩風を継ぐ西崑体の代表的人物。『宋史』305。『全宋詩』115~122。『全宋文』282~303。

1	卷1	宣召赴龍閣觀太宗御書應制（五年十月）	非煙葱蔚蒼龍闕、紫府深沈大帝居。群玉中天開策府、神龜洛洛薦圖書。珠宮岑寂經行處、金簡熒煌拭目初。曾是先朝受恩者、因探禹穴涕漣如。	〔書〕 太宗御書	詩115
2	卷2	次韻和太僕錢少卿寄贈編修主人宋承旨李舍人之什	春官宗伯魯諸生、翰苑綸闈占大名。一代典謨資潤色、滿朝文物仰懸衡。分班月殿趨金馬、侍宴天池見石鯨。即日雲屏應隔坐（鄭弘任太尉拳第五倫為司空每見曲躬自卑詔置雲母屏風分隔焉）、不須東觀待書成。	雲母屏風	詩116
3	卷2	省中當直即事書懷兼簡閣長李舍人（李公北門之望稍濃）	兩掖深沈大帝居、紫微西省掌泥書。天閣啓鑰趨朝後、侍史焚香起草初。五吏援毫才思少、萬錢分膳食無余。鳳池苟令連賓閣、騎省潘郎對直廬。煙氣霏霏生屋瓦、雷聲隱隱度宮車。滄波滿壁浮蘭櫳、修竹當軒蔭綺疏（南牆有董羽畫水、舍人李程為之贊。北軒有竹數百竿）。性懶無堪過叔夜、思遲多病似相如。繚垣直北銀台路、拭目看君侍玉除。	董羽畫水	詩116
4	卷3	石硯	磊磊澗中石、成形本一拳。墨池遺号古、筆陣用功偏（筆陣以硯水為城池）。得在燕台側、採從岷嶺巔。剖非藏趙壁、鍊合補媧天。偶自他山上、來參絳帳前。光榮登玉案、揮灑助花箋。注水蟾蜍滴、題詩玳瑁筵。如何班定遠、發憤便輕捐。	〔文房具・画〕 石硯 筆陣圖	詩117
5	卷4	建溪十詠（第五首）梨山廟（李頰也）	唐季臨茲郡、生祠已薦馨。聲詩伝樂府、廟貌載凶經。画壁流塵暗、金碑古蘚青。細民時請福、搗鼓賽遺靈。	廟貌載凶經。 画壁流塵暗。	詩118
6	卷4	因与西厅参政侍郎奕棋予輸紙筆硯三物以詩見徵属宣毫適尽但送蜀箋端硯繼以此章	多年燥吻蒼苔砌、秃尽江南石上毫。五色蠻箋猶有剩、一拳端硯豈勝勞。蕭齋幸預談賓末、謝墅深降奕思高。微物供堂方猶子、丹青筆下枉風騷。	〔文房具〕 紙筆硯三物 宣毫 蜀箋 端硯	詩118
7	卷4	又以建茶代宣筆別書一絕	青管演綸都已竭、文楸争道恨非高。輒將花苑先春茗、聊代山中墮月毫。	〔文房具〕 宣筆	詩118
8	卷6	婺州開元寺新建大藏經樓記	（前略）開元寺者、茲郡之大招提也（中略）。乃有本寺僧文靖、与本州都知兵馬使曹維旭、同發志誠、共營勝利。爰以淳化中、相率詣闕、擊登聞鼓、求方借版、摹印真文。奏牘上聞、帝俞其請。逮至道初、維旭等始共鞏置楮墨之直、聿來京都。詔免闕市之征、授以要券。繕造既畢、護持而歸。特給上計之迴舟、俾達金華之本郡。維旭等又相与刻軸以文木、織条以色糸。香芸染籤、丹漆塗匣、崇飾既以備矣、誓願既已已矣。而經台旧基、圯毀滋久、軒廡摧撓、墁繪踏駁。維旭等遂請於郡閣、躬詣屬城、徧募有情、共成衆善。鳩工度費、即旧謀新、建重樓、開法藏。其上級置盧舍那、文殊、普賢及十六大阿羅漢之像、中級設虎座、作八神王箕踞捧持、其下象七金山、法四大海。宝地平布、祥雲周繞。締構彫鏤、殫匠石之精能、像設焚修、見天龍之護衛。（中略）予固從事於空宗者也、隨喜稱讚、豈有恡焉。削簡含毫、茲用無愧云耳。時景德二年、歲次乙巳、十二月朔日記。	〔彫刻〕 婺州開元寺 盧舍那、文殊、普賢 十六大阿羅漢之像 八神王 七金山、法四大海	文296

9	卷11	殤子述	(前略) 初、疾愈、東室中北壁有画仏像、每過其門、必引入身入焉、視其画而笑、若相對語者、乃喜甚。儻家人拒之、必号哭偃蹇(後略)。	画仏像	文302
10	卷13	代人乞太宗御書表	臣某言、臣世受国恩、名參閩籍、竊仰先朝之述作、欲期私室以秘藏、輒露愚衷、上干聖聽。臣某中謝。臣伏見太宗皇帝御製御書等、思窮造化、妙絕古今、与六籍以攸同、非二王之能及、固已勒於琬琰、揭在蓬萊。名山大川、深藏於副本、石室金匱、首冠於群書。皆所以博綜儒玄、跌宕文史。立言不朽、乃孔氏春秋之徒、懸法授人、實唐堯歷象之比。汾水之宸遊雖遠、羽陵之墜簡多存。如臣忝荷箕裘、幸塵簪紱。犬馬之志、敢忘於糜捐。龜龍之文、徒思於鑽仰。輒削章而有請、實味死以無疑。伏望尊号皇帝陛下念先臣際会之由、察賤子勤拳之懇、特詔金滕之府、許求玉字之書、賚及下臣、光生寒族。威神如在、固共畏於軒台、教化所資、誓永藏於魯壁。祈恩之至、伏切愚衷。	〔書〕 太宗御書	文283
11	卷18	謝宣召赴龍圖閣宴會及觀御製御書狀	右、臣今月某日、伏蒙聖慈召赴龍圖閣、觀太宗之御製御書、及聖製碑贊、并四庫圖書、仍賜御詩、兼預宴会者。上帝藏書、肇開冊府、聖人有作、爰勒金碑。許拭目以榮觀、寔捫心而知幸。伏惟皇帝陛下順考古道、啓迪人文、執左契以御庶邦、運太鈞而播群品。車書無外、咸歸輿地之囿、弓矢載囊、式開仁壽之域。而乃講求前訓、潤色大猷。擬石渠、天祿之舊規、聿新層構、搜汲冢、羽陵之墜簡、並集群言。敦奉先思孝之心、顯繼志守文之盛。恭以先朝之述作、為後世之楷模、率手泐于縑緗、窮筆精于翰墨。秘宸編于延閣、用垂示于方來、奮睿藻於貞珉、式翰揚于盛美。金石頌德、實曠古之無階、雲漢成章、亦群生之共觀。眷惟近列、首獲仰瞻。側管窺天、寧測蓋高之量、聞韶忘味、徒萌竊抃之心。矧又賜玉笋之醴醪、示柏梁之絕唱。飲河之腹、既嘆于屬厭、下里之音、靡容於緘默。並陳巴拙、上黷皇明。雖蒙善下之仁、終抱黷尊之媿。內循孱薄、曲荷恩私。閱東序之圖書、奉文思而知幸。陪西清之宴予、沐慈惠以難勝。唯共誓于糜捐、庶少酬于臨照。	〔書〕 御製御書	文290
12	卷18	代中書請依詔頒行画龍祈雨法狀	臣等伏以先天合德、易象攸稱、勤雨憂民、策書所紀。恭惟皇帝陛下光膺駿命、奄宅中區、視百姓以如傷、慮三時之有害、博訪弭災之術、期臻阜俗之方。或稍屬於亢陽、即徧走于群祀、恭修禳禱、薦獲感通。蝕石与雲、俄千里而雨集、力田望歲、果百谷以秋成。信雩祭之有徵、由穹玄之降祐、式頒明詔、誕告庶邦、永消愆伏之虞、同躋仁壽之域。臣等叨居輔弼、仰奉憂勤、變調之効無聞、將順之誠弥切。願奉宣于睿旨、庶大庇于群黎。伏請付有司雕印、頒行天下。	画龍	文290

## 10 林逋 (968~1028) 『林和靖集』 四卷

字は君復、諡は和靖。杭州銭塘(浙江省)の人。西湖の孤山に隠棲し、梅を愛し鶴を飼って、城市に足を踏み入れないこと二十年に及んだという。真宗が彼をたたえ、仁宗によって諡が与えられた。『宋史』457。『全宋詩』105~108。『全宋文』211。

1	卷1	閔師見写陋容以詩奉答	顧我丘壑人、煩師与之写。北山終日懸、風調一何野。林僧忽焉至、欲揖頃方罷。復有条上猿、驚窺未遑下。	閔師 陋容(林逋像)	詩105
2	卷1	小隱自題	竹樹繞吾廬、清深趣有余。鶴閑臨水久、蜂懶得花疎。酒病妨閒卷、春陰入荷鋤。嘗憐古囿画、多半写樵漁。	古囿画 写樵漁	詩105
3	卷1	寄胡介	憶著胡居士、長看古仏書。衡門惟老母、一飯共寒蔬。墨迹多囿鶴、山名愛話廬。幾回曾会宿、風雪滿庭除。	墨迹多囿鶴。	詩105

4	卷1	寄輦下佉神法相大師	禁寺諸供奉、如師芸學稀。粉輕昏古本、羅重拆秋衣。淨齋生餅暈、連陰長竹圍。算底支遁馬、毛骨苦無肥。	佉神法相大師	詩105
5	卷1	詩將〈贈張繪秘教九題〉	風騷推上將、千古聳威名。子美嘗登拜、昌齡合按行(瑠璃堂因以王昌齡為詩夫子)。籠紗疑旆影、擊鉢認金聲。唱和知誰敵、長驅勢已成。	瑠璃堂因	詩105
6	卷2	禱輿四首(第四首)	掉臂何妨入隱淪、高賢底總貴全真。次山有以稱聳叟、魯望兼之佉散人。泓水遠天孤榜晚、夾村微雨一溪春。不知因画誰名手、狀取江湖太古民。	不知因画誰名手、狀取江湖太古民。	詩106
7	卷2	孤山後寫望	水墨屏風狀絳非、作詩除是謝玄暉。溪橋裊裊穿黃落、樵斧丁丁斫翠微。返照未沈僧獨往、長煙如淡鳥橫飛。南峰有客鋤園罷、閑倚籬門忘却歸。	水墨屏風	詩106
8	卷2	孤山寺端上人房寫望	底處憑闌思渺然、孤山塔後閣西偏。陰沈画軸林間寺、零落棊枰葑上田。秋景有時飛獨鳥、夕陽無事起寒煙。遲留更愛吾廬近、祇待重來看雪天。	陰沈画軸林間寺。	詩106
9	卷2	西湖	混元神巧本無形、匠出西湖作画屏。春水淨於僧眼碧、晚山濃似佉頭青。樂榼粉堵搖魚影、蘭杜煙叢閣鷺翎。往往鳴榔与橫笛、細風斜雨不堪聽。	匠出西湖作画屏。	詩106
10	卷3	和酬周啓明賢良見寄	治世誰能弔屈平、且披細帙散幽經。春陽尽吐芊芊草、霄極長垂兩兩星。半壁烟嵐因太華、一筇風雪訪支硎。雅吟為惠將何比、明月珊瑚海氣腥。	半壁烟嵐因太華。	詩107
11	卷3	酬画師西湖春望	笛声風煖野梅香、湖上憑闌日漸長。一樣樓台困佉寺、十分煙雨簇漁鄉。鷗橫殘葑多成陣、柳映危橋未著行。終約吾師指芳草、靜吟閑步岸華陽。	画師西湖春望	詩107
12	卷3	復贖前韻且以陋居幽勝詫而誘之	画共藥材懸屋壁、琴兼茶具入船扉。秋花挹露明紅粉、水鳥衝烟濕翠衣。石磴背穿林寺近、竹烟横点海山微。百千幽勝無人見、說向吾師是洩機。	画共藥材懸屋壁、琴兼茶具入船扉。	詩107
13	卷3	謝馬程先生輩惠蜀箋	數幅丹霞夾白雲、封題何事寄幽人。虧君視草禁中客、乞我浣花溪上春。且与巾箱為玩好、更無篇什写清新。我來臥病還多感、一筆蛛糸滿硯塵。	〔文房具〕蜀箋	詩107
14	卷3	壽陽城南望寫懷歷陽故友	楚山重疊蠹淮濱、堪与王維立画畵。白鳥一行天在水、綠燕千陣野平雲。孤崖佉閣晴先見、極浦漁舟曉未分。吟罷騷然略迴首、歷陽詩社久離群。	王維	詩107
15	卷4	僧有示西湖墨本者就孤山左側林蘿秘邃間狀出衡茅之所且題云林山人隱居謹書二韻以承之	泉石年來偶結廬、冷挨松雪瞰西湖。高僧好事仍多芸、已共孤山入画因。	西湖墨本	詩108
16	卷4	乘公橋作	晚峰橫碧樹梢紅、數榜魚罾水影中。憶得江南曾看著、巨然名画在屏風(巨然僧尤妙山水)。	巨然名画在屏風	詩108
17	卷4	予頃得宛陵葛生所茹筆十餘筒其中復得精妙者二三焉每用之如麾百勝之師橫行於紙墨間所向無不如意惜其日久且弊作詩二篇以錄其功	江南秋兔老毫疎、數字鍾王尚買余。因說退之毛穎佉、可憐今日不中書。神功雖欠力終存、架琢珊瑚欠策助。日暮閑窓何所似、灞陵憔悴故將軍。	〔文房具〕筆	詩108
18	卷4	閱上人以鷺鷥二軸為寄因成二韻	閒廳粉糸荷華外、數声惟欠叫秋陰。虛堂隱几時懸看、增得滄洲趣更深。	閱上人鷺鷥二軸	詩108
19	卷4	和謝秘校西湖馬上	表裏湖山極目春、挾鞍時此避埃塵。蒼蒼烟樹悠悠水、除却王維少画人。	王維	詩108
20	卷4	筆〈監郡吳殿丞惠以筆墨建茶各吟一絕以謝之〉	犀利鋒鋩敵五兵、夢中青鏤未為靈。空山日午南窓暖、擬写黃庭内景經。	〔文房具〕筆墨	詩108
21	卷4	墨(同上)	青暈時磨半硯雲、更將書帖搨秋塵。衰羸自顧空多感、不是臨池苦學人。	〔文房具〕墨	詩108
22	卷4	茶(同上)	石輾輕飛瑟瑟塵、乳香烹出建溪春。世間絕品人難識、問对茶經憶古人(陸羽撰茶經而不載建溪者、意其頗有遺落耳)。	〔茶〕	詩108

### 11 穆修 (979~1032) 『穆參軍集』 三卷

字は伯長。鄆州汶陽（山東省）の人で、蔡州（河南）に居した。大中祥符二年（1009）の進士。泰州司理參軍となったが、性格が狷介で官途は不遇であった。柳開とともに古文の復興者として知られ、また宋学の先駆者としても重要である。『全宋詩』145。『全宋文』322~323。

1	卷上	和毛秀才江墅幽居好十首（第十首）	江墅幽居好、人間晚最孤。魚臨谿樹釣、鳥隔水烟呼。野竹掛薜荔、山花眠鷓鴣。画工能状出、羞殺輞川図。	画工 輞川図	詩145
2	卷下	明因院羅漢像新殿記	去渠治之東南越三十里、有浮屠居曰明因、本淳化中之錫名也。浮屠師業者紹居之、能勤飾其軀靡懈、以衰力於民之里、召塑工為五百像、積謂之羅漢者、加新其殿構而納之。辛亥歲夏五月告畢工師、求記之以文（後略）。	〔彫刻〕 明因院羅漢像新殿 五百像（羅漢）	文323

### 12 晏殊 (991~1055) 『元獻遺文』 一卷

字は同叔、諡は元獻。撫州臨川（江西省）の人。幼少より文章の才で知られ、景德初めに真宗から同進士出身を賜る。翰林學士、三司使、樞密使などを経て、慶曆二年（1042）、同中書門下平章事に任じられた。人材を見出すのにすぐれ、范仲淹、韓琦、富弼らを登用し「慶曆の治」の支柱となった。『宋史』311。『全宋詩』171~173。『全宋文』397~398。

1	卷1	進兩制三館牡丹歌詩狀	臣准伝宣劄子、奉聖旨令兩制三館賦後苑諸殿亭牡丹歌詩者。化合天人、祥開卉木。協風靈雨、散為膏壤之滋、共帶并柯、布在密青之圃。畫品難形于卓異、瑞図不尽於芳妍。乃詔儒臣、各摘華藻。匪太平之特異、豈榮遇之及茲（後略）。	画品 瑞図	文397
---	----	------------	---	----------	------

### 13 夏竦 (985~1051) 『文莊集』 三十六卷

字は子喬、諡は文莊。江州德安（江西省）の人。父の恩蔭から官界に入り、翰林學士、參知政事、三司使、樞密使などの要職を歴任した。英国公に封ぜられ、さらに鄭国公に進んだ。文章に優れたが、権臣の王欽若、丁謂と親しかったため評判は芳しくなかった。『宋史』283。『全宋詩』155~161。『全宋文』333~357。

1	卷4	賀昭応宮成表	（前略）尊三清之正位、載嚴真祖之庭、範二后之晬儀、爰設百靈之象（後略）。	昭応宮 百靈之象	文337
2	卷8	謝宣召觀聖像表	臣某等言、真馭俯臨、載形於繪事、宸慈曲被、俾預於榮觀。載瞻章漢之文、共積逢辰之幸。中謝。伏惟尊位皇帝陛下欽順景靈、務昭於翼翼、紹宣先烈、載極於蒸蒸。自備受於元符、実交修於盛節。皇穹是輔、密命有開。降雲瀾於中宸、論塔源於太古。簡冊肇尊於徽号、樵蒸式展於鴻儀。而睿志弥虔、精心允迪、爰令哲匠、恭写睟容。玉相金姿、凝嚴而如在、瑞雲仙衛、炳煥而咸分。爰形美述之文、祇叙降真之蹟、用極形容之妙、誕昭積累之祥。臣等獲綵樞機、親逢旦暮、曲荷聖明之睠、獲瞻繪素之儀。載仰威靈、共增榮感。更誓自公之節、少酬逮下之仁。	聖像	文340
3	卷8	謝批答允賜御書表	臣某言、玉宸觀像、肇啓於殊庭、雲漢分暉、仰承於俞詔。中謝。伏惟尊位皇帝陛下參侔闔闢、包舉芸文。陰偶陽奇、玩義文而滌慮、天五地六、憲周德以宣英。鼓聖域之芳風、騁書林之珍駕。流徽金石、鋪藻縑緗、妙萬化以為言、布羣方而成誦。矧清都之載敞、惟上士之咸依。但瞻曲密之規、未識昭回之采。臣等幸逢嘉会、誤備攸司、再竭丹情、仰祈睿製。榮河開奧、預降於糸言、恭館凝祥、將藏於鳳蘊。佇導迎而協吉、唯舞詠以知榮。	〔書〕 御書	文340

4	卷8	謝賜御書表	伏蒙聖慈以臣所乞御書特蒙頒賜者。昭回散彩、方謝於頌宣、雅輿垂文、載形於敦論。捧窺榮抃、循省震惶。中謝。恭惟尊位皇帝陛下上德淵冲、聖謨光大、体雷雨之甘潤、象日月之昭明。成茲既富之民、被以乃文之化。每裁制於物力、致蕃衍於貨財。竊惟內府之興、實自先朝之畫、皆以節用於已、因儉於豐。取六尚之美贏、為九年之備預。至於優賞降附、梟翦寇戎、厚慶賜於勲勞、廣鴻儀於祭享。国有經費、民無暴征。允属昌辰、益隆先訓。况復方隅罷警、年穀順成、貨殖阜通、京坻饒衍。務省乘輿之服御、愈豐帑藏之資儲。爰命增修、以登輪委。復復史臣之請、特摘神筆之文、述儲峙之通規、昭祖宗之懿範。鸞龍奮藻、雲漢為章。固宜刻石填金、並三辰而垂耀、經天緯地、冠九德以流芳。成湯篆刻於盤盂、夏后鏤銘於簠簋、莫擬範圍之妙、徒居象繫之先。臣叨備攸司、誤蒙殊眷。慚對天而測管、固游聖以無階。自慶遭逢、弥增踴躍、遂奏尺牘、以陳寸誠。豈謂鴻私、俯頒優詔。穹旻不宰、惟下濟於光明、螻蟻無能、難上禱於覆露。但持頑朽、少效涓塵。	〔書〕 御書	文340
5	卷8	謝賜御書并御宝表	臣某言、今月五日、入內侍省內侍殿頭楊余懿到州、伏蒙聖慈賜臣御書文字、御宝封全者。孤寒際會、早奉於龍潛、睿哲哀憐、遠頒夫宝篆。兢榮拜賜、感懼交懷。中謝。伏惟皇帝陛下典學生知、聖能天縱。自東華之毓德、宣先聖之詒謀。博貫七經、誕彰百行。仰属代明之始、弥隆繼志之心。躬決万幾、兼該六芸。矧乃飛毫之妙、尤精弘素之書、回鸞鳳於筆端、越天人於意表。俄成宝字、遠錫旧臣、念犬馬之前勞、慰江湖之遠宦。齋心仰止、若對於威顏、拳族自量、何勝於聖念。	〔書〕 御書	文340
6	卷9	乞降御製御書於昭應宮表	臣某言、竊以殊庭肇啓、載嚴曲密之規、上土咸臻、未識昭回之采。合仰祈於帝製、冀永暢於真風。臣誠懇誠願、頓首頓首。伏惟尊位皇帝陛下學本生知、聖惟天縱。布安安之化、率育於群黎、宣郁郁之文、紹隆於先志。而自增高云岱、報本河汾。朝氣祖之晬儀、歷省方之靖館。感鴻禧之茂委、敷睿思以誕彰。凡属神明之区、徧垂金玉之刻。至若頒宗範於藏書之閣、紀元符於錫瑞之門、刊宝訓於東庠、叙嘉猷於內府。發慈悲之大願、著告戒之宸辭。篇溢西清、卷盈東壁。固以發揮經教、疏暢化源。激雅俗以還淳、道懷生而底善。况靈宮之既就、繫羽服之攸依、苟共遂於瞻虔、實倍增於榮慶。伏望聖慈特賜御製御書曾賜臣寮者各一本、於玉清昭應宮集禧殿左右鋪掛取掌、許道衆觀仰。是冀鈞天秘籙、常聆九奏之音、紫府深沈、永煥八龍之篆。精虔懇至、實倍常鈞。	〔書〕 御書 昭應宮	文341
7	卷10	代寇相公謝詔允百官国学觀先皇御書表	臣某言、睿辭從欲、温詔日俞。祇誦已還、兢榮交集。中謝。伏惟尊位皇帝陛下宝慈宣化、克已敦仁。翼翼因心、茂著聿追之孝、孜孜典學、誕隆載郁之文。式眷虞庠、肇宮軒閣。闕先朝之睿迹、緘以金籙、昭善繼之聖謨、垂之玉刻。俾多方之仰視、彰累盛之流徽。臣等謬籍金闈、未趨璧水。爰祇章而列奏、願澡雪以榮觀。遽承出綍之言、特允叩門之請。交趨動色、觀能事而有期、誓節盟心、報鴻私而無地。兢惶感忭、倍万常鈞。	〔書〕 先皇御書	文342
8	卷10	謝宣示綿州進彰明崇仙觀柏木文彩像道士七星儀形表	臣某言、今月十日、崇政殿伏蒙聖慈宣示綿州所進彰明崇仙觀柏木柱上有文彩像道士、形儀分明、可高七尺、兼北斗一座者。美材薦祉、靈像成文。祇觀以還、慶榮交至（後略）。	彰明崇仙觀 柏木文彩像道士 七星儀形	文342

9	卷11	宮使乞降御製書表	臣某等言、伏以西崑之府、實秘於帝文、小有之天、或藏於龍篆。惟密都之肇啓、而睿製之未頒。敢俯罄於虔祈、庶永諧於伝宝。臣中謝。伏惟皇帝陛下繹清心照、濬發天資。典六学以宣英、綏三才而觀輿。爰自奉符梁趾、瘞玉鄴丘、按金輅以省方、詣殊庭而尊道。歷上儀而悉叙、鋪往烈以咸觀。煥衍蒼崖、馨香翠琬。以至誕敷瑞命、挺紀先謨。著論弁之格言、發慈悲之大願。或冠篇於芸圃、或度曲於薰弦。橫汾水以摘辭、坐柏梁而伝唱。青緗屢溢、藥簡常盈。名以万殊、蓋百王之能事、理惟一貫、乃五教之彝倫。固已包拳国章、發揮政本。勉論勤請、嘗下濟於私門、敦勵時風、已載刊於東序。豈琳宮之允備、而鳳藟之未藏。式揆群心、尤為闕典。伏望聖慈特賜御製御書、應曾出賜臣寮者各一本、於玉清昭応宮集禧殿左右嚴密収掌、許道衆觀仰。今後御製並乞降一本、令本宮編次。是冀敷宣茂実、演暢真詮。游鈞天者、聞広楽之音、登暘谷者、識若木之采。百靈潛衛、佇集於鸞輪、太一下觀、將伝於月筆。誓共諧於誠誦、期永播於無疆。	〔書〕 御書	文343
10	卷15	挾令佐奏	(前略) 方今令佐弊居叢脞、或醫師画工之訴貧窶、或京百司吏之論久次、貴游子弟之序資蔭、京朝職官之遭削奪者、皆得調授州県之間。吏道益雜、率多不善文法、罕諳政事。(中略) 伏願陛下軫念元元、垂意令佐。挾其材能、除其不肖(後略)。	画工	文346
11	卷15	洪州請断祓巫奏	臣聞左道乱俗、祓言惑衆、在昔之法、皆殺無赦(中略)。奇神異像、図絵歳増、邪籙祓符、伝写日夥(中略)。所有首納、祓妄、神像、符籙、神衫、神杖、魂巾、魂帽、鍾角、刀笏、沙羅等一万一千余事、已令焚毀及納官詔(後略)。	奇神異像 図絵 神像	文347
12	卷16	進瑞稻図状	伏以嘉蔬吐秀、黔首告祥。初擢一茎、異劉欽之界内、乍分三穗、疑蔡茂之夢中。既介祉於清流、爰考靈於瑞牒。此蓋尊位皇帝陛下四方無事、万国可封。嘉雨霈乎仁恩、陽春流乎惠沢。河洛図書而並至、元符黄瑞以偕臻。將讓徳於岱宗、致耀祥於嘉穀。足使維揚昔日、追媿稽生、南海遐方、遙慚九熟。未讓奇於穎麦、詎貽誦於兩岐。掩周祖之維糜、陋漢宣之靈稷。臣叨提郡印、獲觀国祺。既当列状以升聞、敢不奉図而称獻。天孫助祭、願陪百里之禾、清廟薦新、敢繼神倉之穀。	瑞稻図	文347
13	卷16	再進瑞稻図状	伏以一茎三穗、已告靈休、踰月再生、益符馨烈。祥經闕載、鴻策靡聞。陋唐侯異畝之祥、冠周室盈車之瑞。此蓋尊位皇帝陛下儀三五之景鏤、憲八九之明光。當時龍半漢以爰飛、致嘉穀歲蕤而薦秀。臣敢不重図瑞穎、再貢丹墀。願隨縮酒之茅、広備泥塗之礼。	瑞稻図	文347
14	卷16	謝賜御書詩状	右、臣今月二十四日、宣和門御閣蒙恩面賜臣御書侍宴詩一首者。宸極凝暉、方參於進牘、奎躔分曜、猥奉於匪頒。蹈躍相趨、慶榮交及。伏惟皇帝陛下文明繼志、剛健承天。暢謨訓於七經、精字書於八体。每罷華光之講、即抽路扈之毫。載揮魚網之牋、屢竭金壺之墨。翻回鸞鵲、盈溢纒緗。言念侍臣、曲記龍潛之旧、特推恩賚、俾瞻鶴企之蹤。但伝世以宝藏、固無階而報塞。歡呼感抃、倍萬常鈞。	〔書〕 御書	文347
15	卷16	乞脩南京大内状	右、臣伏觀大中祥符七年二月一日敕勅節文、応天府升為南京、正殿以婦徳為名。臣到職後、躬詣大内、謹視筦籥。其正南内門上、有先朝題其榜曰重熙頌慶之門。樓皆損動、其下只是依旧双門、未変列郡之制。雖有兩闕雉堞、又無架樓。内城之中並無婦徳之殿、但是頽垣茂草。内有真宗皇帝御製御書南京頌躡詩碑石一片、小屋遮蔽、未曾建立。其東北隅小亭子一座、内有先皇御製御書駐蹕詩四首、粉版門牖不蔽、塵埃所闇(後略)。	〔書〕 御書	文347

16	卷21	御書慈孝寺碑額記	<p>慈孝寺成、朝廷命史官頌故實、將昭銘於金石、永垂耀於文象。聖上穆清之暇、熏祓以觀、且曰、先帝大猷、太后聖德、備在茲矣。非天下之妙翰、孰為奇麗之觀。非朕躬之親筆、罔罄寅威之禮。由是上自題額、命翰林學士授書文。百工相趨、萬區載躍、以為極帝王之能事、敦恭愛之大本、英華聖域、焜耀國經、巍巍乎亘千古而不朽者也。皇太后歎嘉睿志、濬發慈旨、申命史氏、識諸碑陰。臣聞聖人因親嚴以教民、故能感天地、本文治以化下、故能緯風俗。然則召至和之心、成惟幾之務、垂世烈而潤皇業者、必繇斯道。洪惟上聖、天縱多能。厥初啓朱藩、踐震邸、典學時敏、博志大成、及乎集丕統、迪詒謀、益復研精書林、垂思芸圃。探七經之奧蹟、鑑百王之治亂。非仁義不圖於政、非禮樂不訪於朝。而又師臣勸講之余、碩儒進說之暇、寶跗在御、晝漏移刻。秦峰之篆、韻篇之楷、倒薤之妙、弘素之工、出自生知、動超神品。嘗以為開元以降、御題碑榜、標桐柏以尊道、揭麗正以崇儒、未足以移雅俗之風、恢至要之體。故是寺之建也、飛白崇真之額、所以奉先猷、據永慕、昭定陵之遺烈、以繼文而教天下也。玉篆慈銘之首、所以宣懿鑠、闡慈訓、尊長樂之美業、以愛親而訓四海也。昔義畫八卦、以啓人文、禹錫九疇、以贊皇極。參之聖功、偕為盛矣。若乃翔翬結宇、液金填畫。騰虬龍於螭首、潤雲露於翠珉。映調御之相光、陰詞臣之妙墨。奎躔婉其鈎曲、珠斗煥乎闌干。固將太一下觀、百靈潛衛、為億祀君臣之法、昭兩宮孝愛之德也哉。臣忝忝近樞、荐拜嘉詔、仰欽累盛之懿、彌負重陳之怯。唯頌次典則、勒諸左右云。天聖六年八月朔日謹記。</p>	〔書〕 御書 慈孝寺碑額	文352
17	卷21	青州龍興寺重修中仏殿記	<p>左海瀕、右岱峽、沂蒙亘其南、河濟徑其北、厥壤廣衍、惟青州焉。唐以盧水平地、置平盧軍（中略）。中有仏囿、實曰龍興寺（中略）。寺中有殿、宋元嘉二年建。甲子十周、棟宇隳圯。常坐比丘畫樞、化青人、得鏹三百万以新之。又鏹以石階、繚以鞶檻。後增二亭、左以蔭銘識、右以藏鼓格。世佻孟嘗飯客、以鼓為節、其格存焉。載祀寢久、木石剝脫、但上画飛仙、殆非當時器、而寺僧寶之、以佻疑焉（中略）。予嘗守茲境、目樞之勤、聊紀勝因以刊石。時景祐四年八月朔日記。</p>	青州龍興寺 画飛仙	文352
18	卷24	大中祥符頌	<p>崇文広武聖明仁孝皇帝陛下即位之十二年春正月乙丑、大中祥符三篇降于左承天門、書瑞応也（中略）。伏羲以文物未作、朝章汨亂、天授以囿、始啓其政。夏后以水灾未乂、下民昏墊、天授以書、始啓其功。炎宋以太平方至、帝道有融、天授以符、爰建其中。是則政也、功也、中也、同為至道、考其異則中也可以兼於政功矣。囿也、書也、符也、同為嘉瑞、考其異則符也可以冠於囿書矣。河也、洛也、汴也、同為靈川、考其異則汴也可以加於河洛矣。犧也、禹也、宋也、同為上聖、考其異則宋也可以跨於犧夏矣。故八卦之始画也、其象隱晦、仲尼讚之、乃著於經、九疇之始類也、其文草昧、箕子衍之、乃列於典。我大中三篇、其則不然。宛有章句、政教出焉。天作之、天述之、授我皇帝、以七六籍、以錫明命、為万世法。故天不敢畀龍馬、授神龜、負於河、薦於洛。乃命使者奉而降汴魏闕之下、禁門之上（中略）。當是時、天雖欲秘囿籙、爰符命、其可得乎。然則符瑞之至、以五行而言、皆有象也。臣以列為三章者陽數也、封黃帛者中色也、時以春者仁也、降承天門者承天嘉号也、門、聽政之象也。天意若曰、王者体陽德、御中道、行至仁、則有囿書之瑞、応之以承天之祐、而聽万国之政也（中略）。恨無文辭以広称述、謹昧死望闕再拜頌曰（後略）。</p>	〔書〕 大中祥符三篇降于 左承天門、書瑞応 也。	文353

19	卷25	潁州蓮華漏銘	<p>(前略) 天聖中、有今龍岡閣直學士給事中燕君肅、始考七經載籍、作蓮華漏于梓潼、來獻闕下。其制為四分之壺、參差置水器于上。刻木為四分之箭、箭四觚、面二十五刻、刻六十分、四面百刻、總六十分、以效日。凡四十八箭、一氣一易。鑄金蓮承箭、銅烏引水下注、金蓮浮箭而上。有司唯謹視而易之、為行漏之始。又依周官水地置臬之法、考二交之景、得午時四刻一十分為五正、南北景中以起漏焉。時予備職樞府、弗獲熟視。君未幾作藩青社、建茲漏於白樓。予出守汝陰、亟往代君、因得細睹其制、精妙參神。景祐中、君復厭承明、求刺于潁。予亦內徙睢陽、封圻接畛、慶問時通。因請更為潁漏、以廣其傳。君由是再考晷度、以梓潼在南、比古法晷增一刻、夜損一刻。青社稍北、晷增三刻、夜損三刻。潁處梓青之間、晷增二刻、夜損亦如之。仍作屋祕漏、得天愈密。予旧隸史局、粗親此學、以為乾體左旋、七曜運舍、皆動物也。赤道橫帶、黃道斜截、復有進退。夫物動而有進退者、勢久必差。故昔賢制術、以天度乘晷夜漏、減三百而一為定度、以減天度以為明、加正度以為昏、所以追晷景之實、防節氣之差。然三百歲斗歷改憲而異人出焉、今燕君其當之乎。夫六芸群書、唯天文數術探蹟索隱、鉤深致遠、最為難明。若心所不達、雖通人前識詎測其方。而世之俗儒或以為非薦紳先生之所稱道、何其誤歟 (中略)。銘曰、(中略) 猗嗟燕君、文學余力、博貫旧章、肇新景式 (後略)。</p>	<p>〔画·工藝〕 蓮華漏 燕肅</p>	文352
20	卷27	大安塔碑銘 (奉勅撰)	<p>有宋封禪後十祀、建大安塔於左街護國禪院、從尼廣慧大師妙善之請也。今上宝元体天法道欽明聰武聖神孝德皇帝在有之十有七載、詔史臣書其事、從尼慈懿福慧大師道堅之請也。妙善、長沙人、姓胡、字希聖。(中略) 遂依洛陽天女寺、剃髮受具。往來兩京、高行著聞。太宗皇帝以椒塗之旧、錫以懿名、被之華服。大姓袁溥捨第起刹、賜額妙覺禪院、令妙善主之(中略)。天禧元年(中略)、妙善遂求建今塔、特詔許之。会江寧府長干塔成、繪圖來上、促召妙善於護國、將賜之。道堅在妙覺、地近先至、訪对称旨、受圖以歸。首事創規、實始於此。由是涓日置臬、肇基宝甃、冶金礪石、作於地宮、將秘莊獻明肅太后所賜馱都、逮妙善曩得仙骨。会妙善示滅、尽以塔事囑累道堅。妙善享年七十有六、尼夏五十有五。宮闈震嗟、賻贈加品、建坊立刹、賜額宝勝、以道堅兼主之。道堅尽礼蒼黻、入謝扃禁、且陳妙善遺誓云、此塔今世不成、來生願就。先帝惻然、賜以潛邸珍玩三千万直、仍命内侍分董其役。明年春、法堅製金襯宝函、納前舍利等入奉於内道場。贊唄三夕、兩街威儀導自滋福殿、帝薦香以送之。季商協吉、藏於石室。五年、繼賜乘輿副物貨銀万緡、以供余費。乾興初、又以塔心殿棟須合抱修幹、既選未獲、貫於皇帝。上方以天下為公、且重違其請、莊太后時為皇太妃、乃以奩金五百万輸於内府、市材以施之。天聖改元、内出明德太后宝器價二百六十万、泊莊獻服用千余万付之公帑、易金銅、鑄輪蓋以施之。美哉。四門九級、岌巖天中、十盤八繩、晃曜雲際。道堅又以坊墻雖畢丹采、剖剝未完、徧募檀信、獲緡一万八百。泊法堅稟給余貲三百二十万以備其工。上繼志有嚴、奉先惟孝、宅心凝覺、追福太宮。由二級而上、命奉安禰廟至宣祖皇帝四室神御、並列環衛、拱侍左右。自余緣塔功德未具者、皆省服御成之。由是賢劫之象、薩埵之容、五佐星緯、八部人天、分次峻層、罔不咸備。七年功畢、詔賜茲額金榜、始嚴闢軒。臨視談贊五尼、寶紫方袍、并賜近院官舍九十区、儻直充供。明道二載、上給白金五十鎰、俾營獻殿。先有陳元虔捨僧伽像、張延沢施羅漢像、顏極精巧、道堅復建二殿夾峙於塔以奉之。又營諷法華、孔雀經二殿以次之。景祐中、上賜錢千万、創二樓於塔前、右安特旨所賜龍藏作香輪以軫千函、左挂莊惠所捨鐘樹彫格以維九乳。其斜廊壁繪羅漢迦文像、亦莊惠之施。粵自營創、逮夫円成、則有宗藩施三門泊無量寿像、鄧国貴主施報身像、尚宮武氏施法身像、朱氏施藥師像、何氏施下生像、晋国夫人張氏施工繪獻、殿壁潁川郡君韓氏捨圃於西、戈水杜航捨地於東、及其季尚繼獻金録寿、春文文献緡錢、義學比丘端琛指教相文字、比丘惟儼著塔録、吳門庾德興為匠石、皆道堅願力所召、共周能事者也 (後略)。</p>	<p>大安塔碑銘 地宮 賢劫之象 薩埵之容 五佐星緯 八部人天 僧伽像 羅漢像 繪羅漢迦文像 無量寿像 報身像 法身像 藥師像 下生像</p>	文354



21	卷29	故保平軍節度使同中書門下平章事駙馬都尉贈中書令魏公墓誌銘	(前略)先公十九年而薨。嘗獻瑞牡丹一叢、花皆千葉、色潤殊絕。太祖命以一枝著金壺中、盛以玉盤、令待詔黃居案囑之、以賜公主、至今存焉(後略)。	瑞牡丹 黃居案	文356
22	卷30	奉和御製迎聖像中路獲金龍送還茅山	巍巍真像範金成、瑞節棠舟遠導迎。精爽勵翼符神祝、藻衛威蕤率禮經。蘭隄曉景漣漪靜、神龍報降祥雲映。双上瓊干采質明、旁臨旌棧靈輝盛。台臣祇肅薦華蕙、承賀凝貞拜露章。羲氏官名高可擬、漢家年紀遠難方。鳳蓋分陰騰九色、蜿蜒共戲雲裳側。御天飛躍世空閒、瑞德榮盤今始識。駢駢矯首仰中宸、丹辰深嘉美心臻。紆札既能疇聖日、為霖當使福蒸人。華陽翠壑貞靈地、星使送還彰睿志。更播雲章入管絃、昭昭億載傳金匱。	〔彫刻〕 聖像	詩155
23	卷30	奉和御製筆歌	制之精兮漢宮之双管、鋒之妙兮趙國之修毫。自承掌握濟群用、觚與槩兮難施勞。古今罔不達、淑慝將何逃。深仰玉蟾均硯滴、詎慚金馬制書刀。頡皇觀迹虫篆興、織端積潤八体成。寫圖始告姬公瑞、錯宝終伝路扈名。上聖惟聰炳帝文、宸章奎画冠生民。灑翰翠珉垂睿式、珥彤丹地寵儒臣。	〔文房具〕 御製筆歌	詩155
24	卷30	奉和御製硯歌	南方潛璞出寒溪、沈沈紫蔚凝堅姿。兩儀肖象磨碧異、三趾承隅琢飾奇。銀帶參華貢双闕、玉蟾分滴潤凹池。微波澄淡當晴景、旌旗半浸龍蛇影。輕浮春絮弘犀絲、微動日華明綺井。藥簡交輝九禁深、玉枝斜照中宵永。列璇台兮今得地、邇清光兮叶靈契。宣余旨兮揚聖謨、贊雲章兮熙睿志。弥彰盛德冠生民、務以文明化兆人。	〔文房具〕 御製硯歌	詩155
25	卷30	奉和御製墨歌	昔造圖書兮紀方志、鉛黃丹漆兮初為貴。後世增華兮邁昔賢、松煙布色兮明且妍。一枝均賜官儀備、九子分形吉礼全。写功詠德盈細帙、体物緣情徧綺箋。陰山潛璞兮琢金池、相須芸圃兮事攸宜。湘川青管兮束凹鋒、並列璇台兮用本同。垂大訓、述微言、孔墨之教兮長存。騰藻翰、贊儀形、淵雲之妙兮惟精。上聖敦仁崇儉約、厥篚珍奇詔皆却。唯許隄糜歲貢臻、式彰文德化生民。	〔文房具〕 御製墨歌	詩155
26	卷31	三月施州進金色小龜	清江涵德沢、嘉瑞效靈龜。巢葉形偏小、如金色最奇。玉靈漸異質、繹属近幽姿。騎置遙承獻、觀囑仰帝祺。	金色小龜 觀囑	詩156
27	卷31	明州進芝草并囑	四明開奧壤、三秀發靈芝。如蓋殊形聳、無根瑞氣滋。晨敷台嶺異、日茂下房奇。善氣方回復、充囑獻玉墀。	芝草并囑	詩156
28	卷33	奉和御製滋福殿清醮聖祖天尊大帝尊像瑞應	宸闈啓瑞場、祇畏感穹蒼。紫幄威神格、清宵景曜彰。霓旌承宇列、僊驥度雲翔。盼響停霞轡、歆馨挹鳳觴。蘿囑千葉固、山寿万齡昌。玉籥流宸唱、函蒙播美祥。	聖祖天尊大帝尊像	詩158
29	卷33	延福宮双頭牡丹	禁籞陽和異、華叢造化殊。兩宮方共治、双蕊故聯跗。嚮日檀心並、承煙翠絲孤。游蜂須並翼、凝露亦駢珠。曉檻香俱發、晴階影對鋪。君王重天貺、臨写冠珍囑。	双頭牡丹 臨写冠珍囑。	詩158
30	卷33	觀唐明皇山水字流杯石应制	開元留翠刻、昭代奉宸游。綠酒聯杯汎、紅泉滿字流。澄清涵玉宇、激灑轉銀鈎。霄壑奎躔布、龜囑洛画浮。偃波分密坐、垂露直前旒。若許銘天德、圓青豈易儔。	〔工芸〕 明皇山水字流杯石	詩158
31	卷33	元真殿燒香觀太宗真宗御書仁宗飛白書并瑞穀应制	蘭柱薰琳殿、霓旌映緑莎。九青真蔭遠、三母睿慈多。閣道陪鑾往、唐中奉詔過。熙陵遺札啓、禰廟宝文羅。繼志頒宸翰、飛毫動偃波。史臣書絕瑞、鈎盾對嘉禾。	〔書〕 太宗真宗御書 仁宗飛白書 瑞穀	詩158
32	卷33	奉觀御飛白書应制	聖德天攸縱、慈闈宝訓崇。飛毫邁古法、方丈奪神功。輕素飄驚吹、長煙疊遠空。点孤時戲蝶、波偃乍騰虹。洛画誠難並、奎躔或可同。猥叨宸筆賜、羽翼誓輸忠(唐太宗嘗以神筆賜馬周飛白書曰、鸞鳳凌雲、必資羽翼、股肱之寄、要在忠良)。	〔書〕 御飛白書	詩158
33	卷33	送鳳茶与記室燕学士詩	緑苑圖規異、紅滕篆印新。爭先御府貢、初摘建溪春。膩滑重蒼壁、嬌黃聚麴塵。焙痕連井字、鳳刻畫龍鱗。玉座均芳旨、金華寵侍臣。齋心分一餅、持贈嗣川人(公能詩善画、臺閣比之摩詰)。	燕(肅)学士 摩詰(王維)	詩158
34	卷34	奉和御製太清樓屏風柏連理	禁園綺合群芳茂、瑞柏屏開秀色呈。託植久依僊杏密、附枝俄接帝梧榮。非煙結翠和風細、滴露凝華曉日明。况是歲寒堅節異、亭亭千載表殊禎。	太清樓屏風柏連理	詩159

35	卷34	五月同州奏牡丹一枝開 三花	上聖德風馳率土、左馮嘉氣襲鴻英。疏叢一幹迎春茂、繁艷三房表瑞呈。承獻珍圖昭美応、考祥花品見維禎。帝宸欽翼崇昭報、薦玉燔柴極至誠。	牡丹一枝開三花 承獻珍図	詩159
36	卷35	奉和御製龍図閣觀書 (是日觀太宗御書)	切雲層閣倚龍城、霜素緹油聚壁經。巖召近臣容侍從、載唐宸唱樂清寧。神宗燕翼垂貽訓、地宝昭彰顯瑞形。芬馥芸香飄紫禁、熒煌金刻照彤庭。龜陳洛画開瑤檢、弦泛薰風出黼局。自慶孤生逢旦暮、媿無嘉頌贊明馨。	〔書〕 龍図閣觀書 太宗御書	詩160
37	卷35	奉和御製玉清昭応宮天 書閣告成	鸞馭告期宵宿協、紫虛疇德秘符呈。誕膺顧諟營恭館、仰悟威神奉太清。密石磨磨鳩郢匠、非煙騰瑞集周禎。上侔帝闕規模麗、遠掩迎年憲度明。將闕玉文藏綠蘊、載崇金閣對丹城。高陞彩制修梁直、永拋柔靈宝勢貞。飛陸縹雲弥岌業、重欒倚漢益崢嶸。良辰涓選繁禧茂、嚴蹕臨觀懿礼成。慶賜春流均盛食、真香雲涌薦明誠。薰絃濬發斯干詠、丕顯鴻猷洽治平。	〔書〕 玉清昭応宮天書閣	詩160
38	卷35	奉和御製国学太宗皇帝 御書閣告成	神宗潛哲通三変、善繼文思洽万方。高倚叢楹藏鳳縕、密碧温石鏤雲章。素風暢茂增鴻慶、景耀騰凌發美祥。廻拋日畿分宝勢、遠承雲路抗飛梁。推恩有幣班中祭、式宴朝纓集上庠。更仰宸宸敷睿唱、夏弦春誦永游揚。	〔書〕 国学太宗皇帝御書 閣	詩160
39	卷35	奉賀御製靈応瑞石	沈潛毓粹生嘉石、有密開祥契上穹。降聖遠期真馭協、卜年遐祚宝符同。復殊延喜靈珪上、詎比昭華瑞琯中。隱起玉文非篆隸、混成環狀豈磨礪。弥彰帝歷休祺茂、永叶仙源統緒隆。欽翼春懷敷睿藻、巍巍千祀仰惟聰。	〔石〕 靈応瑞石	詩160
40	卷35	奉和御製奉安聖像礼成	琳宮胥宇象清都、金閣叢楹闕宝符。昭伋僊游彰胄緒、範銘真像極規模。精衷欽翼明威顯、近輔恭迎茂典敷。美応荐臻書不絶、靈期先定日無渝。徘徊瑞羽臨旌旆、天矯飛龍上軸轡。齋幄接神珪璧異、景輿迎聖羽儀殊。熒煌宝座安三境、嫗煦鴻恩下九衢。深慶小臣叨奉蹕、翠綵華組耀微軀。	〔彫刻?〕 奉安聖像 範銘真像	詩160
41	卷35	奉和御製玉清昭応宮成	中宸夜駐飛廉轡、東闕朝迎綠錯篇。祇建宝宮朝粹象、載崇金閣奉真銓。高侔紫極威神異、廻拋柔靈勝勢宣。轟轟端平規景叶、煌煌豐麗聖功全。承隅陽馬層雲隔、鳴磬花台曉色先。別笈錄緘龍印字、清壇香奏鶴鐘煙。流泉灌注通河漢、列館回環接洞天。玉籟琅璫鸞競舞、藥書金簡鶴争佺。采梁虹指祺祥集、銀榜星分慶賞延。永鎮帝居資曼寿、五城奚取漢迎年。	玉清昭応宮	詩160

#### 14 蔣堂 (980~1054) 『春卿遺稿』 一卷

字は希魯。常州宜興（江蘇省）の人で、蘇州に家した。大中祥符五年（1012）の進士。地方官を務めた後、仁宗朝に三司副使となり、礼部侍郎をもって致仕した。『宋史』298。『全宋詩』150~151。『全宋文』325。

1	卷1	虎丘山	林端生色美新晴、樓閣依山若画屏。石坐最宜人選勝、劍池潛想地遺靈。僧窓松竹冬猶茂、寺路煙霞昼亦冥。自愧逾年僕塵守、一週方得扣禪扃。	樓閣依山若画屏。	詩151
---	----	-----	--	----------	------

#### 15 魏野 (960~1019) 『東觀集』 十卷

字は仲先、号は草堂居士。陝州陝県（河南省）の人（一説に蜀の人）。真宗朝に官に召されるも就かず、陝州東郊に草堂を構え同地に赴任した士大夫や隠者と交わった。寇準、王旦らの名士とも交流があり、没後に秘書省著作郎が贈官された。『宋史』457。『全宋詩』78~87。『全宋文』182。

1	卷1	贈潘閔	昔年放志多狂怪、若比來今總未如。從此華山図籍上、又添潘閔倒騎驢（潘閔昔有過華山詩云、昂頭吟望倒騎驢）。	華山図籍 潘閔倒騎驢	詩78
2	卷2	贈惠崇上人	張籍眼昏心不昧、崇師耳聾性還聰。是非言語徒喧世、贏得長如在定中。	惠崇上人	詩79

3	卷3	寄贈長安宋灑逸人十韻	家盛翻嘉遯、誰同物外情。微君為密友、內翰是難兄。靜論儒宗服、狂歌俠少驚。道裝輕紫綬、酒旆勝紅旌。將相備趨謁、漁樵喜送迎。門開紫閣色、枕倚渭河聲。野鶴聽調瑟、沙鷗看濯纓。烟霞連杜曲、桑柘接昆明。丹訣皆親寫、芝田咸自耕。終須盡室去、相並掩柴荆。	宋灑逸人	詩80
4	卷5	陪留台李学士筵上賦得文石酒盃得杯字	知自何山得、磨礪作酒杯。斟疑五色動、醉認一拳開。〔工芸・石〕 文石酒盃 窪似泉春出、痕如蘚漬來。主人心朴素、愛惜過瓊瑰。		詩82
5	卷8	寄龐房	愛於瘦馬上吟詩、孟浩然真更似誰。雅稱自將図画看、况君小筆勝王維。	龐房 図画 小筆勝王維	詩85
6	卷8	上知府大同王太尉六首(第六首)	子細曾看九老図、科名官職尽難如。更思呂望同君歲、猶是磻溪坐釣魚。	九老図	詩85
7	卷8	吳友山陽蹇子韞常遊潁上言彼之居人有許氏者富不因貧學非求進于郡之西手植衆木鬱然成林林下構亭壯而不麗郡倅黃公宗旦皇宋有名之士也嘗造焉尚闕歌詩以旌其美故俾余請詩于公吾于子韞之請於是作八十言以寄題	道勝富如貧、亭臨潁水濱。一瓢思祖德、三徑与僧鄰。虛白雖同性、丹青不似身。趨庭知有子、下榻豈無人。紉佩蘭多老、成蹊李尽珍。開筵迴雪少、聯句聚星頻。家譜書難備、州図画不真。遙題應未的、莫把刻貞碑。	州図画	詩85
8	卷10	淳化五年秋八月二十四日鉅鹿魏野江東僧用晦趙郡李識琅琊王衢同登解城聯句詩一章凡六十四句(六十一、六十二句目)	画牛羨山相、狎鷗憐海客(衢)。	画牛	詩87

## 16 宋庠 (996~1066) 『元憲集』 三十六卷

字は公序、初名は郊、諡は元憲。安州安陸(湖北省)の人で、開封雍丘(河南省)に住んだ。天聖二年(1024)に主席で進士となり、知制誥、翰林学士などを経、宝元二年(1039)に参知政事を拝したが、宰相の呂夷簡と合わず、揚州等に外任後、慶曆五年(1045)に再び参知政事となり、以後、尚書工部侍郎、枢密使などを歴任し、皇祐元年(1049)には同中書門下平章事となった。莒国公のち鄭国公。『宋史』284。『全宋詩』188~201。『全宋文』416~433。

1	卷1	瑞麦図賦	天聖之六載也、陪京近地、宛丘與封、厥有瑞麦、飛馭聞上。是時邦英台彥、鴻儒碩生、被歎誦以杏臻、樂千齡之希遇。鰥臣不敏、敢揚言而賦之曰、何聖辰之有感兮、見造物之流形。伊嘉生之育粹兮、亦称珍而效靈。蓋茂昭于豐兆、故絕出于祥經。是月也、候司標怒、節紀朱明。司徒謹土宜之法、遂人勤時政之程。畎畝鱗接、田疇砥平。非滅裂之攸縱、竟疏遯兮資生。青青交秀、芄芄向榮。或散穎兮共幹、或連岐而並莖。顧我疆兮我理、悉如坻兮如京。民相勸而動色、士觀奇而震驚。俄具載于繪事兮、亟伝聞于禁庭。寔惟天之輔德、彰有言而順成。若夫冀草標祥、朱英薦異、茅三脊以儲祉、芝九莖而表瑞、信徒假于書称、亦烏足以擬議。請言瑞麦之可嘉也、協氣交生、大鈞封植。表天祐之孔昭、顯坤珍之有絕。宛彼神区、契茲景則。嘉種肇靈、秀穉敷色。浸潤兮芳沢之和、鼓動兮薰風之力。余糧雲委、滯穗山積。故陳陳而相因、亦穰穰而叵測。宜乎允膺帝賚、紹隆皇極。豐功大業、日躋兮著明、溢美連休、月書兮不息。顧叢陋之微才、曷揄揚于盛德。	瑞麦図	文416
---	----	------	--	-----	------

2	卷2	正月望夕供養大阿羅漢 画像作	端月戒熙陽、望舒秀円極。洗心乘佳節、瞻像洗慈德。 穆穆屋漏尊、虛堂与神寂。繪境紛自奇、法性非所得。 人貌合天虛、髣髴若真觀。示現随三界、精感超六識。 華灯列清場、宝炷熏梵席。妙意随春融、疑懷逐冰积。 欲讚已忘言、拳拳自終夕。	大阿羅漢画像	詩187
3	卷4	有釈子以禅会因貳余者 此因即今駙馬都尉李公 所製繪故楊大年劉子儀 及都尉環禪師等信一時 之盛集瞻歎不足因成紀 詠	法集超初地、工毫構妙緣。星占世外聚、月写相中円。 指指誰標論、心心自默伝。惟応阿堵処、俱是到忘筌。	禅会因 駙馬都尉李(璋?) 公所製繪	詩190
4	卷5	過普明禅院二首(唐太 子少傅白公旧宅)	自昔仁為里、于今福作田。清風殘竹地、宝色故池天。 繪象成真侶(樂天旧影与蒲禪師偶立)、家声入梵縁(又 常自称香山居士)。一披龍藏集、無復歎亡篇(後唐明 宗子秦王尹京曰、特写公文集一本置經中、至今集本 最善)。軒冕唐年客、溪林洛社坊。雖開居士室、未壞 魯恭堂。仏樹高弥緑、天花落更香。惟余名不滅、来 伴法灯長。	(白) 樂天旧影	詩191
5	卷5	奉和御製龍図等閣觀三 聖御書	群玉中天府、珍図録錯文。叢楹開禹穴、宝画爛堯雲。 万牒真行弁、千題甲乙分。聖心尊世烈、披玩不知勤。	[書] 三聖御書	詩191
6	卷6	侍宴集英殿因過学士院 旧廬有感	昔日金門署、重来素髮臣。故詞多荆藁、前誠尚銘紳。 宝翰余龕鎖、仙山晦壁塵。更憐温室樹、顔色老于人(北 軒院中海棠最為旧物)。	学士院旧廬 仙山晦壁塵	詩192
7	卷7	進読唐書終帙	隋室重氛極、唐家景命新。地婦裂殘壤、天洗戰余塵(自 隋煬帝末、天下兵興、割裂土壤、至貞觀後始一統矣)。 遂納諸戎貢、争陪二月巡(高宗、明皇帝举行封禪)。 瀛洲登俊老(天册府延十八学士、時人謂之登瀛洲)、 烟閣尽名臣(功臣並画像凌烟閣)。輕重非關鼎、興亡 要在人(明皇帝天寶以後驕縱失道、遂致安史之乱)。 肅代復興、至僖、昭陵夷不振、然其治乱皆本于人)。 旧都紛秀麦、前事徧書筠(朱梁移都于汴長安皆邱墟 矣)。哲后疑因暇、西廂訪古頻(頃年多御邇英閣中)。 終篇見成敗、摘句屢諮詢。青史嘉遺直、元龜遺(去声) 聖辰。願將稽古意、万一助堯仁。	功臣並画像凌烟閣	詩193
8	卷8	故相国沂公建設学官实 寵茲土近聞生徒寢盛姑 復慰懷因成拙詩一章奉 呈州学官因以勉導来者	旧学開宏構、斯文聳輿区。由来漢丞相、善教魯諸儒。 自昔升堂訓、于今避席趨。照函經滿帙、繪壁礼成図。 集講占庭鱣、懷賢詠谷駒。道存終拾芥、声濫或逃竿。 一黃宜無止、連城莫自沽。育材真孟樂、希聖乃顔徒。 寸晷堪輕壁、繁英慎奪朱。霧蒸還作市、風至即名零。 曉圃林如泮、春郊水是洙。從茲弦誦地、不復嘆榛蕪。	繪壁礼成図。	詩194
9	卷9	宝鑑	宝鑑鸞沈影、仙軀鳳翼輪。腰輕時待舞、眉細不藏愁。 洛館迷羅襪、秦桑露桂鉤。電微開笑靨、珠滑入歌喉。 百子宮池暮、千条越網稠。生香徒辟惡、織草未銷憂。 独短鴛鴦被、更闌翡翠幃。月寒喧葉杵、海濶漾霞舟。 公子常逢燕、星姬鎮問牛。彫胡容一薦、溝水自分流。	[工芸] 宝鑑	詩195
10	卷9	陳州獻瑞麦因奉詔作	堯壤環中甸、周甦冠百昌。時均千雨潤、天報兩岐祥。 善氣滋繁粒、薰風擁翠芒。初疑禾異畝、更覺黍非香。 獻狀宸襟悅、披図国頌颺。史臣誰汗簡、休応譜斯箱。	陳州獻瑞麦図	詩195
11	卷10	未曉出城陪州長考功李 員外禱雨大悲禅刹	城上繁星五鼓初、江臯申禱訪精廬。林回半隱翔鴛刹、 野濶平飛画隼旗。十地真容陪合掌(記伝此像乃唐時 神人所画、經今二百歲如新、俗疑菩薩之真相)、百城 甘澍待随車。先秋関雨農心樂、宜在麟編直筆書。	大悲禅刹 菩薩之真相	詩196
12	卷11	致政張郎中惠親画墨竹 二幀以詩為報	南宮仙老本多才、素幅珍紉繪境開。高節自縁心匠出、 野叢還擁筆端来。挂余粉籜疑飄席、玩久風枝欲掃苔。 俗眼莫驚無藻麗、歲寒顔色抵瓊瑰。	張郎中惠親画墨竹 二幀	詩197
13	卷13	送龍図燕待制出守梓潼	宝構沈沈夕霧迷、儒林俊老出分塵。中天祕牒河龍負、 上路鳴鑿作馬馳。香襲龍鞮驚放獸、野連豐芋蔽蹲鷄。 潼江肯学淮陽臥、仙液真腹壯壽祺。	龍図燕(肅)待制	詩199

14	卷13	次韻答襄陽龍回燕給事慶僕序直禁林	右銀仙闥倚雲開、孤客緣何待詔來。一節新恩迂使駟、五花前著隔公台。英游但喜儒紳集、涸使偏驚吏腕催。画檻宝鷓翔帝竹、夕軒瑤斗掛宮槐。朝無濫吹終逃郭、性有真愚敢望回。雋老裁篇褒意重、遠分江漢濯余埃。	襄陽龍回燕（肅）給事	詩199
15	卷14	偶觀竹林七賢画	七子高風弘混茫、丹青遺影尚琳琅。山王偶爾兼米遇、不得延年贈短章。	竹林七賢画	詩200
16	卷19	謝降詔答諭立御書梵字碑表	宝文就刻、訊侶叢欽。因善護之成功、虔率而而露奏。紆頒制墨、俯煥塵襟（中謝）。伏惟皇帝陛下將聖自天、大猷規古。丕承下武之緒、兼通西聖之言。闡其洪慈、衛我群品。惟梵文之流布、乃仏説之信伝。雖曰旁行、実存成法。比乘聽斷之裕、悉標声画之元。譬震旦之六文、謹舌人之異説。氣瞻雲漢、文含日星。奮天藻以題辭、勒珉珉而庇宇。古今參驗、非科律之難分、華竺双提、若迦陵之親演。而臣幸陪法席、親觀帝華。不勝晃藻之情、用列縑囊之感。方塵清覽、遽錫温辭。覺苑同文、已預人天之会、尚方乙牘、更膺縉紱之褒。徒蒙情涯、曷酬恩遇。臣無任戴天荷聖激切屏營之至。	〔書〕御書梵字碑	文426
17	卷19	進觀御書梵字詩謝降詔答諭表	轅音頌聖、方惡于斐狂、綸檢垂慈、更加于褒獎。觀文眩目、拜賜兢心。竊念臣仕籍叨榮、儒林廢業。滄玷疑丞之地、皆陪潤沢之場。探内学以非優、撫鈍根而永慨。幸遇皇帝陛下欽揚祖烈、丕護真乘。因竺館之先規、統貝書之妙蘊。盛延開士、深究旁行。对翻華裔之音、博采形声之説。法官多暇、書苑留神。爰御宝趺、親題梵画。仍冠篇而善欽、且作刻以垂芳。紺殿雄成、祇園聳觀。実容才之攸縱、顧仏劫以增遐。而臣例属庸薰、獲窺摹矩。不勝私幸、竊綴短章。仰煩夜石之程、已積春冰之畏。敢謂伏蒙陛下靡捐介善、申寵近司。枉深訓以發中、廓大猷而与進。戴恩嶽重、徒極于將顛、揣已毫輕、未知夫為報。姑銘獎弘、用寘肝脾。臣無任。	〔書〕御書梵字	文426
18	卷19	中書謝伝宣表	臣等伏奉入内都知張永和伝宣中書、密院重脩開先殿成、迎奉太祖皇帝御容往彼供養、所貴四時薦享、得伸誠意、与卿等中外同慶者。宝宇雄成、神儀載峙。属奉迎之伊始、枉伝訓之發中。睿德所覃、群心交抃。恭惟皇帝陛下紹熙景命、勤述先規。曩緣作絵之容、參对不祧之礼。炳然威御、臨厥孫謀。因仏利之增新、命工師而度構。再嚴秘殿、将宅皇靈。兼別廟之宏模、超化城之絶。境羽旄先導、奚止漢冠之游。都邑叢瞻、実聳軒台之畏。孝誠克尽、前烈弥昭。臣等忝服近司、首聆慈誨。空極親逢之幸、初無云補之方。惟誓協恭、或酬洪覆。	太祖皇帝御容	文427
19	卷22	史官楷書陳宗閔可蘇州常熟県主簿制	勅、史官楷書陳宗閔、史局編名、書觚奏技。久隨台府、專給記書。嘉時宰之序勤、宜選條之咸集。勾稽邑簿、正秩銓流。勉蹈廉閑、毋忝恩録。可。	〔書〕史官楷書陳宗閔	文418
20	卷33	宋故推誠翊戴功臣彰武軍節度延州管内觀察処置等使金紫光禄大夫檢校太傅使持節都督延州諸軍事延州刺史兼御史大夫上柱国武威郡開国公食邑六千五百戶食実封一千六百戶贈侍中曹公行状	曾祖業、累贈太師、尚書令兼中書令、追封榮国公。祖芸、累贈開府儀同三司、太師、尚書令、謚武惠、追封越国公。父彬、故枢密使、累贈開府儀同三司、太師、尚書令、謚武惠、追封魯王。 真定府靈壽県某鄉某里曹瑋、字宝臣、年五十八。公之先本出晋清河太守泓之後。泓卒、子孫貫其郡。後徙真定之靈壽、今又為其邑人。高、曾值唐室之騷、皆以才力事州為列校。忠規雄算、屈于地勢、故二祖闕闕不章于王朝。逮魯武惠王之興、功蓋盟府、擁旄服袞、綢繆累聖、率義而上、追貫烜赫。王又重之以勞謙明德、保躬不伐、歿徙太蒸、為宋宗臣。使今天下言諸侯王世家者、以曹為首。公即王之第四子、性英壯沈、決形于羈甲。武惠節制鄆、徐也、並奏署公為天平、武寧二軍牙内都虞候。以恩換西頭供奉官、閣門祇候。叛羌李繼遷擾靈夏、太宗留意辺瑣将屯之臣、時武惠冠領内枢、面奉詔举材堪西事者。久之、啓上曰、知人不易、朝廷雖多士、臣未見其能。臣有子某好謀而斷、謂堪試用。太宗喜王之内举、即日召見、欲命公以諸使、王固辭、召以本職同知渭州、時年十九、迎者驚其壯。真宗嗣極、就改内殿崇班。咸平二年、正領州事。俄丁先王憂、以守辺不得歸。及塋、自請還喪廬、畢劬勞之報。書数上、辭情哀切。朝廷念繼遷旅距、又公治最已顯、詔不聽、即拜閣門通事舍人。	〔帝〕又出公所上涇原環慶兩路辺州回、以示輔臣曰、山川華戎城郭儲峙之要、尽在是矣。可別絵為二、一留枢密院、一付本路、使按回以從事。	文432

			頃之、加本州屯田制置使、転西上閣門副使、徙知鎮戎軍。繼遷虐用諸帳、人不堪命。朝恩購募安輯、所以慰納之良厚、吏多不能奉揚威德。公至部、則騰檄区落、告以丹青之信、戎人得詔書皆泣下。由是喀努羌拳族内附、繼遷兵討西涼諸姓、還次石門川、公率軍邀敗之、多所俘馘、威震夷鄙（中略）。時繼遷死、余燼衰破、子德明畏誅奉獻、計不堅定、公請出師討之。上以德明首鼠兩端、且諭公以待其變。俄而揚珠、瑪哈等族万余落款順化、竝乞師心接。將吏疑怖、欲弗許。公獨決策、夜將兵逼天都山、信宿尽擁其衆婦。因是諸小種皆納質保塞。值德明亦輸貢受爵土、而公名寔重矣。驛書召還、錄前後功、正其使名、充鄒寧環慶路駐泊兵馬都鈐轄、俄又命兼知鄒州。封禪恩、進使東閣。帝以公著郊西土、更欲以名震北道。大中祥符三年、即使号領高州刺史、徙為真定府定州路兵馬都鈐轄、又出公所上涇原環慶兩路辺州圖、以示輔臣曰、山川華戎城郭儲峙之要、尽在是矣。可別繪為二、一留樞密院、一付本路、使按圖以從事。因嘉歎久之（後略）。		
21	卷36	成都府新建漢文翁祠堂碑銘 (17 宋祁-52と同文)	蜀之廟食千五百年不絶者、秦李公冰、漢文公翁兩祠而已（中略）。翁之治蜀、開學校、以詩、書教人（中略）。蜀有儒自公、始班固言之既詳。初、公為礼殿、以舍孔子及七十二子之像、殿右廡作石室、舍公像于中。晚漢学焚、有守曰高朕、能興完之、後人又作朕像、進偶公室（中略）。嘉祐二年、余知益州、往款公祠。至則区位湫偃、埃蝕垢蒙、不称所聞。大懼礼益懈忽、神弗臨享。其明年乃占学宮之西、正位鳩工、弗亟弗遲。作堂三楹、張左右序及獻廡、大抵若干間。布尋以度堂、累常以度庭、疏牕以快顯、壯闔以嚴閉、采有青丹、陞有級夷。瓦密棟彊、若棘若飛。乃肖公像于序間、繪相如等于東西壁。本古学之復莫若朕、本今学之盛莫若樞密直学士蔣公堂、故繪二公于其間、皆配祠焉。于是拊日告成于神、揖而升、簠罍果涪脯脩紛羅而有容、可以告虔、趨而降、罍尊巾洗席燎並施而不恩、可以尽儀（後略）。	〔画・彫刻〕 漢文公祠堂 孔子及七十二子之像 (漢文) 公像 (高) 朕像 乃肖(漢文) 公像于序間、繪相如等于東西壁。 繪二公(高朕、蔣公堂)	文433 (文526) 全宋文は、宋祁の作とする。

## 17 宋祁 (998~1061) 『景文集』 六十二卷

字は子京、諡は景文。安州安陸(湖北省)の人で、開封雍丘(河南省)に住んだ。宋庠の弟。天聖二年(1024)に兄とともに進士となり、知制誥、判太常寺、工部尚書、翰林学士承旨などを務めた。兄とならんで文名が高く二宋と称された。『宋史』284。『全宋詩』204~225、『全宋文』卷482~531。

1	卷1	陳州瑞麦賦(并表)	臣某言、伏以厥田惟上、界王国之右藩、以穀俱来、告我牟之紀瑞。事昭邦緯、美溢農書。恭惟皇帝陛下茂擁蕃祺、恪經善物、弄漢田而勤耆、揉神未以訓勤。扈有九官、務尽耕耘之法、地雜五種、深防水旱之虞。屢勅攸司、勸登宿麦。至誠上達、嘉氣下翔。發為兩岐、告成八政。田祖有神而後応、守邦作絵以来図。庖穗孔蕃、天心為予、並詔儒館、交揆頌章。良史必書、無謝婦禾之命、升歌大備、遂高多稼之詩。臣位属冗間、辞流洪訥。隔從臣之品、無預奏囊、效遊童之謔、亦均嬉壤。冒聞黼几、集懼嚴淵。謹夙夜齋戒、撰成陳州瑞麦賦一首、隨表上進。賦曰、冠三輔之上者、莫邇于陳、接五穀之乏者、孰先于麦。当乘離之令序、挺降麤之瑞殖。盛氣雲鬱、混鱗隰之初霏、密穗金繁、動星田之霽色。兩岐旁秀、六穗牙出。厥華兀兀、厥穎栗栗。田峻奔告、守臣駭觀。俾来以図、悉上送官。他穀弗書、視麦禾之最重、吾王攸助、知稼穡之惟艱。沫北爰采、罔劬乎力農、關中益種、無聞于錫祉。詎若天極婦睨、神明效異。偕蕃椒之盈升、配命禾而合穗。迎層宙之休氣、冠中田之嘉穀。絵我于瑞図、弁我于凡菽。蒙至尊之渥惠、播新声于絃次。上可以薦清廟之馨品、下可以助外糞之食劑。	瑞麦 守邦作絵以来図。	文482
---	----	-----------	---	----------------	------

2	卷1	上苑牡丹賦〈并序 案 賦係天聖七年祁為國子 監直講時上〉	(前略) 聖上即位之七年春三月、內苑出牡丹三種、特異常卉。其一、雙頭并幹、其二、千葉一房、其三、二花攢萼。附足甚大、葩色正紅(中略)。賦曰、夫何牡丹之挺育、冠群葩以擅奇。歷上古而隱景、逮中世而揚蕤(中略)。有隋種芸之書、疎略而未載、子華繪素之筆、彷彿而佞疑。蓋神明其德、故隱顯從時。昔也始來、由皇唐之綴賞。今而薦瑞、俟我宋之重熙(中略)。于是宸矚灑然、群心樂只。詔從橐以均賞、肆詩風而飾喜。且其鋪觀往凶、各祛茂祉。(中略) 臣愚不識、請占之天意。若曰、雙頭者、兩宮之應、同德之象、馨香升聞、億兆攸仰、千葉者、卜年之數、永命所基、宜爾子孫、以大本支、三花者、品物盛多、黎庶蕃庶、德宇宏被、恩腴周普(後略)。	牡丹 子華繪素之筆。	文482
3	卷2	古瓦硯賦	有知己者、賜予以古瓦硯一枚、溫潤可嘉、宝玩無數。感物銘惠、因為賦之。其詞曰、粵有雅器、以硯為諡。本瓊瓦之微物、荷坯陶之洪施。嗟興廢之靡常、念終始而殊致。昔何為而湮沒、今何為而見異。得非大厦雲構、飛甍山峙。凌霧概日、橫廓蔽里。宮窈窕而相屬、闕觚稜而叢倚。敞金谷之為樓、會叢台而成市。莫不狀翠鱗而隱軫、浮青煙而旖旎。陽烏結阿以上承、玉女飛隼而下視。忽代往而棟撓、俄人非而室燬。遇昆陽之飛屋、逢霍家之微第。化魏宮之鴛翼、災伯梁之魚尾。於是星墜冰散、光沈物遷。狼籍旧圃、沈埋野田。失虬檐之瑞色、掩銅蠶之余鮮。朽壤晦兮何日、縹苔封兮幾年。或深耕而出壟、或被斃而當阡。詎毀方之可冀、甘勝注之長捐。何智者之胥會、爛奇姿之下顛。感無情之旧物、將有用於群賢。爰究爰度、載磨載鏘。因其窳以為受、即其陋而成妍。我質具矣、幽光粲然。純漆侔黑、潤珉訂堅、謝泥塗之幽處、升文史之長筵。或免穎而前試、或雞距而相鮮。荷提携于手沢、涵文飾于言泉。若乃尼父作經、太冲能賦、伯英臨池、王充置柱、君苗未之焚棄、范喬見而悲撫。雖宝肆之非齒、幸哲人之攸御。摩頂至踵兮墨之徒、將效勤于斯語。	[文房具] 古瓦硯	文482
4	卷2	詆仙賦〈并序 案祁出 知寿州在慶歷元年〉	予既守寿春、覽郡囿、得八公山。故老爭言山上有車轍馬跡、是淮南王上賓之遺。耕者往往得金、云丹砂所化、可以療病。因取班固書、葛洪神仙二伝、合而質之。嗟乎、人之好奇而不責實也尚矣、而洪又非愚無知者、猶憑浮証偽、況鄙人委巷語耶。作詆仙賦(後略)。	郡囿	文482
5	卷3	龍杓賦〈彝器為象、名 有龍者〉	昔夏后氏之祭也、制龍杓而用之。爰有形于神物、俾致用于宗彝。存身醜罍之中、初蟠縵禮、驥首陶匏之內、遂奮鴻儀。懿夫、義著礼經、功參祀事。蓋恭神而祈福、乃觀象而制器。謂龍也、冠四靈之首、謂杓也、統六樽之義。奮鱗昇几、既三獻而有容、弭首負樽、俾万靈之具醉。蓋由象著、且異文為。登祏室以獻狀、湛醇醪而挺姿。始訝躍淵、灑汗樽而俯映、乍同銜燭、焰明火以前施。其用足微、其儀不爽。炳九采以入用、先六瑚而列象。寧虞探頷、儼祝史以獻酬、自契攀鱗、对孝孫之俯仰。則知龍者所以作繪、杓者于焉寓名。匪徵奇于假象、蓋契意于精誠。雄視為塩之虎、俯連酌兕之觥。暗想召雲、蒙鬱香而宣氣、潛疑窺牖、歷清廟以持盈。外實而有文、中虛而思受。蜿蜒于鼎俎之外、夭矯于豆籩之首。雞彝莫得以同列、獸樽視之而何有。時乘斯驗、固当神享之初、勿用可知、蓋在礼成之後。且夫超騰祭典、拋變礼容。將挹既清之酒、用凶莫智之龍。垂名不俟於紀官、司存尽在、屢進何憂於過亢、酌獻弥恭。夫如是則昭事上神、外迎純嘏。取鱗長以為飾、配雲壘而在下。是故觀其龍也、則而象之、用其杓焉、礼無違者。	[工芸] 龍杓	文484

6	卷5	順祀詩〈并序 案仁宗本紀、慶曆五年十月辛酉、祔章獻、章懿于太廟。与此相符〉	臣某言、伏見去年七月壬寅詔書、章獻明肅皇太后、章懿皇太后、並祔真宗廟室、有司挾日具儀以聞。其十月辛酉、皇帝步自文德殿、奉玉冊玉宝至大慶庭中、再拜、以命丞相臣昌朝、臣執中曰、假爾節、其遂告于廟。臣昌朝等再拜受命。容衛焜煌、不譁不放。款于奉慈、昭告如礼。然後奉章獻明肅皇太后、章懿皇太后木主、納諸太廟。有司至孟月之饗、饗焉。已事。丞相率百官詣閣稱賀。有詔大赦天下、積罪已責、賜群臣軍校各有差。恭念盛德形容、所以告于神明者、宜有声詩頌歎、以播樂府。臣某被學已旧、受恩淺深、前日預聞朝廷末議、今茲撰事省闕、不当以斐然捍格、自弃諸儒之後、輒夙夜齋祓、撰詩一章。前侔猗那、後訂清廟。刺取經誼、以輯其辭。又惟三代以來、娶止一姓、姪娣有序、勢不相踰、故配食納寢、止一后而已。由漢而下、尽革周制、繼室誕聖、均極尊名。而諸儒拘摯、仍執故典。競無實之偏論、破適世之至權。遂使漢祠別園、梁建小廟。礙礼不厭、抑感弗通。罔極之報、則篤于一情、以時之祭、則判為兩祀。列辟未悟、庸可嘆哉。且善教者不拘古以妨今、善礼者不後情以先物。唐明皇帝合于合祔、失于叙升、故一王之典、闇而不昭。先帝獨啓聖慮、順躋二德、侑太宗之尊、陛下述遵前憲、寅奉二章、參文考之祔。然後天下之議、披聲發郁、知前古之謬闕、当今之適宜、親親尊尊、粲然無惑。故詩之所陳、揚推熟復、繁而不簡、亦咏歌不足、不知舞之蹈之之義焉。臣某頓首以聞（後略）。	〔彫刻〕 章獻明肅皇太后、 章懿皇太后木主	詩204
7	卷5	仲夏愆雨穉苗告悴輒按先帝詔書繪龍請雨兼禱霍一淮濟二祠戊寅感祀己卯獲雨謹成喜雨詩呈官屬	盛夏挾驕陽、于以搆炎燠。歛塵空天蓋、烈御煽雲漢。稻穎茁然秀、涸流不勝灌。田峻邛歲功、積未共愁歎。太守忝農使、閉閣重慙惋。曾是謬政綱、曾是濫囚狴。一食三失匕、冀亦思過半。馳祝訴群望、願以身塞譴。先帝隱民瘠、致和格靈變。凶龍著繪法、令甲布州縣。愚計不知出、奉行安敢慢。外日築層壇、丙夜封舒鴈。奉匱再三跪、信辭靡虛薦。幸勿為龍羞、敢不報神眷。翼日耿弗寐、徂野視宵奠。幽血祭靜鑄、執事便傳讚。薄誠蒙昭享、距躍私自忤。回車未及稅、雲油默焉徧。窮海遂滂沱、籠山茲漫漫。早麓衆卉蘇、焦原喝氛散。寸苗蔚如擢、新波鱗欲渙。何意一溉窘、有望千箱衍。揆予乏嘉績、聖詔仰成憲。恤祀神罔恫、昏作人宵勸。抒藻拙言詞、竊用慰群掾。	先帝詔書繪龍請雨 凶龍著繪法、令甲 布州縣。	詩204
8	卷6	思賢閣因予真愧而成咏	忝中二千石、罷去輒凶真。揆予本完士、蚤蒙善養仁。執笏班華位、飛綬侍遼宸。如何金紫服、乃裹坵壑身。西南一面重、竭來駕朱輪。牽拙歲再期、初無德在民。形象安足紀、崖畧聊自陳。質陋眸子瞭、志泰眉宇伸。誰謂彼其子、而佞阿堵神。爵里三十八〈自參予呂公而下凡四十一人、雷太尉、張尚書、程枢密皆再至〉、赫赫多名臣。瞻前謝前哲、垂後慚後人。	思賢閣因予真	詩205
9	卷7	水文量石	曉波清蒼痕、逐激翠將腐。奔濤已東決、磊塊溜不去。巧匠取之出、入資園亭趣。陰鱗嚙余苔、寒凹逗輕露。彼怪子弗談、不輒吾所慕。	〔石〕 水文量石	詩206
10	卷7	常山楊氏有二怪石奇險百狀田曹張中行家雒陽偏見都中諸家所得異石皆出此下予他日思之恐常人忽而不珍作詩以詫其處并邀中行伯逢同賦	塊然兩奇石、譎怪狀難悉。千仞裂嵯峨、一氣与嶮嶮。四隅薜剝膚、万古雲漬骨。補余天所委、隕罷星不沒。橫蒼對偃蹇、怒翠競騰突。神媼祕弗露、狂鼉扑而失。由茲落人寓、得用玩奇質。屹如不可輒、挺若無所屈。鬪虎攫余痕、乖龍臥殘窟。撐掉壯士槩、奮立直臣笏。危頂烟夭矯、窄雷雷鬱律。濤頭縮不展、魑臂憤相捍。變現載靈牒、呵護費神物。窮陬苦陋庖、珍碧恐湮汨。各保堅礧姿、以待封山日。	〔石〕 怪石	詩206
11	卷7	攬鏡	晚匣写菱影、試觀憔悴顏。支離骨不媚、蕭颯鬢垂斑。安得長康画、致之巖壑間。	長康（顧愷之）画	詩206



12	卷7	謝提点刑獄李郎中贈扇	規裁珍素裂輕雲、柄翦春篁燥叢露。製以為扇持贈君、 私君懷袖祛君暑。蜀天六月苦炎歊、赤龍秋秋駐雲霧。 火走膚脈汗若流、暗逗浮涼下天宇。画作飛蠅綠誤点、 徐隔游塵不成汚。何以為報我知之、奉揚仁風慰黎庶。	画作飛蠅綠誤点。	詩206
13	卷8	次江都	道險疑無地、巖高欲近天。家収代田粟〈民耕山上、 一歲一代〉、官鑄即山錢〈山多鉄冶、州鑄錢〉。雲交 陰晴候、林容且暮烟。落花真有意、時解私行鞿。 江溜灘灘急、崖腰棧棧新。天深罕見日、路險不容塵。 遠草夤緣緑、幽花落漠春。逢津何必問、夫我自知津。	〔貨幣〕 官鑄即山錢 山多鉄冶、州鑄錢。	詩207
14	卷8	隴西都尉禪会図	宴場禪集盛、霜幅絵毫工。竺社同開業、嵇姿宛送鴻。 法身寧滯相、世眼願瞻風。厨鑪方伝宝、非專巖壑中。	隴西都尉（李璋？） 禪会図	詩207
15	卷10	庭石	嗟爾一拳質、塊生天地中。柱雲蒸作潤、山溜滴成空。 松蓋何年化、星槎此路窮。無邀什襲裏、近出宋台東。	〔石〕 庭石	詩209
16	卷10	過惠崇旧居〈崇工詩有 名于世〉	人往名長在、欽風歴故居。社残蓮即老、園廢柰仍疎。 塵憶清談外、雲経合座余。裴回視齋壁、行草暗殘書 〈師善行草、齋中多自題写〉。 雖昧平生契、懷賢要可傷〈予為郡之年、師之去世已 二年矣〉。生涯与薪尽、法意共灯長。遺画空觀貌、残 詩孰補亡〈本院惟有師旧詩藁数軸〉。神期通一語、無 乃困津梁。	惠崇旧居 師善行草。 予為郡之年、師之 去世已二年矣。 遺画空觀貌。	詩209
17	卷12	渡湘江	春過湘江渡、真觀八景図。雲藏巖麓寺、江入洞庭湖。 晴日花争發、豊年酒易沽。長沙十万户、遊女似京都。	八景図	詩211
18	卷12	寄大固山嘉祐院長吉上 人〈案上人曾遊京師、 得宋祁以下一百四十五 人所書般若經、建台以 貯之〉	名高身愈隱、孤錫倚巖局。園布黄金地、台藏白馬經。 菴雲吞暝燭、澗月瀉虚瓶。坐憇谿橋路、莓苔又幾青。	〔写經〕 得宋祁以下一百四 十五人所書般若 經、建台以貯之	詩211
19	卷12	嵇中散画像〈顧長康画 中散為目送飛鴻手揮五 絃像世共貴之謂以風韻 可想見也〉	彼美雲亭子、翛然天外情。凝眉逐層霧、俯手散余清。 霄迴心逾遠、徽還曲暗成。千秋想蕭散、方覺絵毫精。	嵇中散画像 顧（愷之）長康画 中散為目送飛鴻手 揮五絃像	詩211
20	卷13	聞中山公肥上家園新成 秘奉閣輒抒拙詩寄献	為樂東平得再麾〈公兩鎮澠上〉、別宮層閣駐經闈。溢 囊秘簡青皆汗、署榜宸毫白正飛〈公常削奏于上求飛 白題、榜俄蒙允賜〉。罇喜客來銜酒数、画疑仙去啓厨 稀。門前即枕春溪路、幾曲歌成使舫歸。	〔書〕 公常削奏于上求飛 白題、榜俄蒙允賜。	詩212
21	卷14	轉運李宥学士	棧外秋高薺樹繁、一星飛影伴軒軒。属城導騎實歌密、 近野迎漿蜀老喧。濯錦万梭催貢篋、熬塩千井算牢盆。 行台自昔書林寵、不為傷離更黯魂。	李宥（李成の孫）	詩213
22	卷15	成都	風物繁雄古奥区、十年僧父巧論都。雲藏海客星間石〈成 都有一石、人伝巖君平所弁星、石今在巖真觀〉、花識 文君酒处壚。兩劍作関屏対繞、二江聯派練平鋪。此 時全盛超西漢、還有淵雲抒頌無。	〔石〕 成都有一石、人伝 巖君平所弁星、石 今在巖真觀。	詩214
23	卷15	蘭軒初成公退独坐因念 若得一怪石立于梅竹間 以臨蘭上隔軒望之当差 勝也然未嘗以語人沈吟 之際適髯生歴階而上抱 一石至規製雖不大而巉 巖可喜欲得一書籍易之 時予几上適有二書乃插 架之重者即遣持去尋命 小童置石軒南花木之精 彩頓增数倍因作長句書 以遺髯生聊志一時之偶 然也	竹石梅蘭号四清、芸蘭栽竹種梅成。一峰久矣思湖玉、 三物居然闕友生。頼得髯參令我喜、飛來靈鷲遣人驚。 小軒從此完無恨、急掃新詩為發明。	〔石〕 一怪石立于梅竹間 〔竹・石・梅・蘭〕 竹石梅蘭号四清。	詩214

24	卷15	答燕龍圖對雪宴百花見寄	百花洲外六花寒、使幕凌晨把酒看。舞袂回風人鬪麗、醉山頹玉客留歡。斜靠北渚離鴻下、密灑東風寶騎攢。猶念平台旧朋侶、遠將清句代幽蘭。	燕（肅）龍圖	詩214
25	卷16	送韓太祝	雲野星躔促使車、長安初日望儲胥。金闈引籍中天闕、玉宇藏家上帝書（太宗賜君家先侍郎御製頗多）。祖道泛萍腸易飮、賦園飛雪席忘虛。承明再過懷先業、磐石深沈禁樹疎。	〔書〕 太宗賜君家先侍郎御製頗多。	詩215
26	卷18	和致政燕侍郎舟中寄晏尚書	異時仙閣對三休、頓首辭榮動邃旒。疏廣故僚供祖帳、鴟夷居室付扁舟。謝堦生玉懷歡宴、燕壁凶山代遠遊。新句漸高塵累少、紫微巖曲要相求。	燕（肅）侍郎 燕壁凶山代遠遊。	詩217
27	卷19	被召觀三聖御書詩（有狀 案仁宗本紀係天聖八年八月事）	臣今月九日蒙召赴迎陽門觀三朝御書者。天作上聖、神付多能。珍毫霏麗、睿文森積。星日列象、雲漢為章。詔範後昆、作成希室。皇帝陛下仰奉祖則、欽懷宗軌、列籤分帙、跋尾署年、將秘禁中、永冠緹籍。何凶近列、咸預米觀。慶尚臨顏、物皆改色。歡猶在臆、歌不檢言。謹齋祓抒成詩一章、凡六十字、以伸感會、塵昧聰覽。伏用震惶、其詩謹隨狀上進以聞。 列聖多能備、俱留乙夜勤。出凶天与画、觀跡帝成文。露灑紛仙液、鸞回雜瑞群。毫均五色麗、書對十行分。玉軸羅新帙、芝泥儼旧薰。嗣皇尊世哲、金匱冠攸聞。	〔書〕 三聖御書	詩218
28	卷21	送馬軍范大尉（恪）	平狄方開府、鎬羌旧著名（君子陝西戰功最多）。新提建章騎、入領羽林兵。賜橐千金重、留車兩印榮。已封頭尚黑、休戰髀還生。大旆前驅影、鳴鏑後隊聲。較壇勝算爵、客飯飲侯鯖。山背迷榆塞、雲披認薊城。介圭朝漢幄、鈿仗侍軒營。悵別疎華恨、勤婦杖杜情。君看画像處、麟閣近西清。	君看画像處、麟閣近西清。	詩220
29	卷21	三泉鼎龍洞門深数十步呀然復明皆自然而成	虬洞闔靈峰、緣虛一綫通。雲披双壁敞、樹補半巖空。概竹森烟霧、飛泉曳玉虹。重蘿不肯昼、陰壑自然風。嶺斷天斜碧、崖傾日倒紅。浮邇邇難遇、留恨翠微中。	〔鍾乳洞〕 三泉鼎龍洞	詩220
30	卷21	紀贈致政燕侍郎	中朝鵠髮俊、得謝龍安車。碧落超新秩、承明別旧廬。叔時今老矣、司寇此歸歟。画有封厨秘、詩多乙牘余。雲情元自遠、舟意本常虛。酌酒朋三寿、揮金輩二疏。深恩仍給俸、令子復將輿。幾日西清對、留光悼史書。	致政燕（肅）侍郎	詩220
31	卷23	答燕侍郎謝与端明李学士見過之什	方外仙卿岸幅巾、三竿紅日照霜晨。当関不用驚騶唱、共是楊家載酒人。	燕（肅）侍郎	詩222
32	卷23	中屏燕侍郎烟嵐曉景	澹峰危木掃天春、青到屏端憶故人。一丈輕綃千里思、為君今日私流塵。	中屏燕（肅）侍郎 烟嵐曉景	詩222
33	卷23	北牆董羽水	万壑雲濤墨海間、天機地軸共回環。悠然便有滄溟意、沉在靈龜首冠山。	北牆董羽水	詩222
34	卷24	題北郭巨然山水	鈿点峰頭轟太虛、遠帆遥岸水平鋪。不知真到雲波上、得似工毫可愛無。	北郭巨然山水	詩223
35	卷24	西壁画松	数株森立写皴堅、霜骨鱗膚千万年。秦帝從官徒自苦、取封不及大夫賢。	西壁画松	詩223
36	卷26	論以尺定律（案宋史燕肅言鍾律不調、在景祐元年。祁時直史館、遷太常博士）	臣聞樂生於音、音生於律、律定於尺、尺成於黍（中略）。古者神瞽攷中声而量之、以為之律、所以立均出度也。黃帝命伶倫斷竹長三寸九分、吹之以為黃鍾之宮、然後制十二律、以上下求而聽鳳鳴（中略）。國朝金石、伝自周代。世宗常詔王朴累黍定尺、以為律管。管既不便、作準之尺寸、于今具在。而當時實録、不論柷黍、未知何用、即加酌定。且五代離亂、古器蕩然、雖欲制作、靡所緣傍。時無神瞽、孰敢取中（中略）。屬者太常臣燕肅、以律準尺之三分、欲為十二律管、而黃鍾九寸、遂不得声。更廣空道、乃与律應。雖管内均厚未悉如法、然深疑今尺比古差短、太常鍾石、遂及于清、流至法部、輒用高急。臣以為宜求素上党柷黍、如達奚震之言、選其精円、累定寸尺、求管得管、求声得声。以所管之声合周時之準、苟高下符會、清濁無差、即可遂為定法、頒布方国、足以示陛下同律度量衡之制。脱有与準未合、即乞募知音、別用新管、参考中声、檢撰群音、制定雅樂。庶乎正歷代之謬砮、亦何憚焉。	〔音樂·画〕 論以尺定律 燕肅、以律準尺之三分、欲為十二律管。	文488

37	卷26	論太樂署有春牘之名而無春牘之器	<p>臣觀景德中李宗諤所進樂纂、革部中著春牘、其說曰、周礼笙師掌教春牘應推、以作減樂。賓醉而出、奏減夏、以三器築地為之節（三器謂牘及應相也）。明不失礼也。大五寸、長七尺、短者或三尺。其端有空、漆画之、以兩手築地。今並於宮殿舞樂中用。臣比徧問樂工、言初無此器。及責其樂器之籍、則明著春牘。而說与樂纂相符。又景德樂工、於今多在、詰其所以、乃云恐宗諤論著之時、止憑本署簿文、誤著於樂纂耳。臣謹采三礼圖所画春牘之狀、大略可曉。然檢覈著令及旧史、其文武二舞、諸工所用、但有鼗、鐸、鐸、鏡、相、雅、干、戚、籥、翟等器、不著春牘、則知後人設采古名以為空說矣。</p>	三礼圖所画春牘之狀	文489
38	卷26	論竽及巢笙和笙	<p>臣奉詔与太常臣燕肅等画太常樂器、以備程覽。至匏部、有竽及巢笙、和笙共三種。按旧說、竽長四尺二寸、三十六簧、宮管在中、形參差、像鳳翼。巢笙十九簧、和笙十三簧。今拋太樂諸工以竽、巢、和三種併為一器、皆取胡部十七管笙為之、但以宮管移徙左右、用為小異。其巢、和二笙、在景德中、李宗諤又奏定二義管、悉貫匏中、今為十九管。臣曾索于樂署、得鳳笙一種。樂工言、此古器、今不可用。推驗形製、乃古竽也。其長四尺有余、三十六管、列管參差、及曲頸、皆為鳳飾。其空悉在管外。歲久不治、有管無簧。今但秘而存之、為無用之器。臣以為可募知音者修復古竽、以合正声、革易当今署工所用淺俗恣遺之器、勿令乱雅。并按竽以合正声、悉還旧製。佗曰放鄭声、謂此物也。</p>	〔音樂·画〕 臣奉詔与太常臣燕肅等画太常樂器、以備程覽。	文489
39	卷27	議樂疏（案此疏当係宝元二年判監鉄院、同修礼書時上。歷代名臣奏議作慶歷元年、誤）	<p>臣伏觀右司諫、直集賢院韓琦奏劄子節文、臣曾將景祐廣樂記看詳、備見實紀李照所造違古之樂、上薦天地宗廟。臣竊聞和峴減定鍾律等見今存在、欲乞特降聖旨指揮、下太常寺復用旧樂者。奉勅、已差資政殿大學士宋綬等与兩制同共詳定聞奏。伏緣臣自景祐元年中、曾蒙差付太常寺、与燕肅等同共磨治鍾磬、後來親見李照重定律度、及相次提举胡瑗別造鍾磬、臣於太常樂器、粗知本末、苟有所見、不容隱默、謹用画一如後。</p> <p>一、李照所造鍾磬、當時只是將太府寺布帛尺一面定法改造、比旧樂頓下四律。伏緣李照資性詭僻、弁論專固、莫非出自私意、不循古法（中略）。又李照自造大竽、大笙、亦充大樂行用、皆恣遺新声、不依古制（中略）。應於李照會奏請添損者、並違經背古乞如韓琦所奏、一切皆令停罷、尽復祖宗旧制。</p> <p>一、太常寺旧樂、本自唐昭宗時雅樂散亡、器無孑遺。尋有博士商盈孫、參約典故、更造鍾磬。其後五代相傳、習而不改。至周時王朴重定尺度、略加添正。太祖朝又詔和峴以景表尺、重加磨治、稍令声下。昨緣景祐二年、燕肅始乞修正樂器。其時只得王朴律準、又無王朴所定律尺律管、參驗音韻。而燕肅只挹律準与鍾磬見声、按定高下。即是此太常旧樂、比王朴時已自不同。况和峴減定後、又經真宗朝景德中李宗諤一次修飾、至燕肅、凡經三度磨鑿。然俱不先立尺度律管、所以後來無處根正法度音律。然其旧器佗至唐末、祖宗三聖無人輕議、用之薦享八十余年。雖非的然如舜韶、周武法度明備、要之沿襲本末、实与典礼最近、非同李照率意詭妄、製作不經（中略）。今陛下天縱睿聖、通知音律、復古順道、何所致疑。伏乞即下有司、速令修復、以謹善述之美。</p>	〔音樂·画〕 燕肅 其有先獲古鍾、恐禁中忘記當時進呈圖樣、今再画到一本、随狀進呈。	文489

			<p>一、景祐三年、詔令臣監領胡瑗鑄造鍾磬一架。臣伏見胡瑗曉算法、能將先儒所說黃鍾管內八百一十分為方分算法並與鄭康成周禮注及班固律歷志古法相合。自隋唐以來、諸儒弁論黃鍾一龠之法、皆不及瑗。相次於雜物庫請銅鑄之時、忽於雜銅內得古鍾三枚、即不知甚年、及是何州府納。到臣與故翰林侍讀學士馮元即時驗認。其鍾古質精妙、項罇皆有廉隅。上有三十六乳、余外瑤雲氣為飾。有兩欒之制如鈴不円、正與周禮所說形制相符。一鍾破損、二鍾尚可叩擊。遂仔細洗滌、於鍾上有篆文兩行。其篆亦字体古簡、推本其文、不是近代所造、乃是漢魏間所用者。其文曰、越作朕皇祖文考寶和鍾、越思万年子子孫孫永寶用享。凡二十二字。臣與馮元商量、此既古器、又合經典〈除三十六乳與鄭康成說小異。康成以為鍾每面三十六、乳即一鍾合七十二乳〉。遂画圖樣進呈後、一面勒令胡瑗悉依古鍾形狀制造新鍾、成一十六枚。其胡瑗所定律尺律管、比王朴鍾只下半律、鍾磬甚得諧韻。其時不曾許當面進呈、遂只送太常寺收係、即日見在。後來又蒙別差官詳定李照、胡瑗等律尺管、其時議者皆云、胡瑗實龠之黍、或有大小不同、以為未盡合古、遂抑而不行（中略）。臣又竊嘗謂陛下用心詳定雅樂之日、獲此古鍾、乃是瑞應。因此若便定律尺律管、使諸儒極意論難、從其長者、定為尺法、然後作鍾石以聲之、有何不可（中略）。故臣願陛下只將胡瑗八百一十分之法、詔取上党秬黍、挾其中者、差一二精力宮官、及左右一二信臣、於宮中重加校定。陛下因以余暇、親臨制決。黍定求寸、寸定求尺、尺定則律、度、量、衡四物皆正矣。然後依古法、將新尺試以推步、晷景若合、此一不謬也。試以新管理地候氣、氣候若應、此二不謬也。然後可以遂頒天下、明告以律度量衡之法、因之修定雅樂、詔當今稍知音律經術者、同加討論、事無不齊。然此一事、雖非朝夕急政、陛下能以萬幾軌之暇、慮而定之、亦千載不刊之美也。其有先獲古鍾、恐禁中忘記當時進呈圖樣、今再画到一本、隨狀進呈（後略）。</p>		
40	卷27	乞置太廟神御庫〈待制日奏〉	<p>宗正寺奏、為趙希言劄子奏、太廟內神御物有螭頭、冊蓋、牀、燭台等不用之物甚多、約金万余兩、銀八千兩。乞差官別為處置、所貴盜竊不生。奉聖旨、令宗正寺相度擘画開奏。寺司檢會大祖室內有黑漆蓋二隻、元有折拽下裝釘痕見在。欲乞將不用者、蓋冊、牀四十余件及螭頭等、依太祖室內素蓋、折拽金銀、所有竿杖、並乞依莊穆皇后室內神帳法物焚埋。狀後中書批、送禮院詳定。臣謹按神御之物、在祖宗之時、其數尚少、故就致爽室、不須他處。及時歷三聖、崇奉益恭、而寶蓋鈿牀、充滿二室。今趙希言及宗正寺乃欲除合用器物外、盡乞毀拆焚埋、以防盜竊、質之禮意、殊未得宜。且天子宗廟之重、以金銀崇飾神御、尚畏招致盜竊、不知官司何用。條禁何施。况非時毀損、驚動群議、又未必合祖宗神靈之意。竊尋周禮有天府、掌祖廟之守藏、寶物世傳者皆在焉。伏詳今廟地狹隘、不可別為庫室、欲望以宗正寺西偏南直太廟、即宮闈令廡屋、其地雖小、可建大屋十數間。將神御不用之物、悉移置於中、名為太廟神御庫。令宗正寺一就管掌、責無毀瘞、兼合旧章。其灼然有敗爛什物、即乞焚埋、使無褻瀆。取進止。</p>	〔工藝〕 太廟內神御物 螭頭、冊蓋、牀、 燭台等 太廟神御庫	文490
41	卷34	景靈宮頌〈案宋史、真宗大中祥符五年作景靈宮、仁宗天聖二年奉真宗御容、此篇當是祁登第後所作〉	<p>（前略）方且載主卒業、見羹永懷。故即位之二年、詔迓先帝真像於是宮、建寶殿以奉安之。其後再郊委粟之場、大合清廟之主（後略）。</p>	景靈宮 先帝真像	文520

42	卷45	大樂圖義序〈案崇文總日、祁著大樂圖義上下二卷、當在景祐時上〉	<p>臣聞至樂之作也、本于天理、藏于人心。天理難乎象見、故推數以成律呂、人心易以假物、故探和以寫金石。音之所比曰曲、聲之所集曰音。細大得所曰平、驕僭不入曰治。然後詩以文之、舞以動之、歌以長之。盛薦上帝、升配祖考。邦國以和、神人以諧。疵癘不作、陰陽來趨。君子得其道、小人得其欲。樂之時義、其至矣哉。昔聖人之制作也、以律呂造夫婦之樂、宮商合君臣之義、埙篪寄伯仲之睦、琴瑟懷志義之思。舞綴以觀勞逸、宮軒以等貴賤。非為娛于耳目、取玩于性情。自周衰去聖、世變風移。玩其所以為音、略其所以為義。去易良之鞞、迴回適之波。或窕或楓、或流或涵、宋鄭綠隙、桑濮增華。新樂遂興、而至樂隱矣。是以宣尼皇皇表于云乎之嘆、子夏勤勤納其非聽之說。而後新聲盛于漢世、雜謠譁于江左。成器亂于隋篋、吳曲併于唐歌。國教相沿、民心積習。但聞恣懲之尚、不見雅頌之全。是故衆邪勝正、群靡散樸、而人不可與言樂矣。夫古樂今樂、大略可詳。古之樂也、攷中聲而求之、迭主均以生之、故黃鍾九寸而為律本。其為聲也、高不凌、下不犯、從容舒散、清明博大、隱然常有法度、而得節奏之中。故聽之者樂不及蕩、過不至哀。今之樂也、大則倍之、使不及聽、小則促之、務以為玩。濁外飲濁、清表增清。故其為聲也、或震蕩、或噍殺、去本律、犯他聲。繁錯曲折、以為要眇、蕩然無有法度可畏。故聽之者廣則容奸、狹則思欲。驕極而侈隨、溺終而哀來。其不可也如是。夫天地之合、自有中和之境、以寓大樂。不至者堙鬱亂國之音、過之者悲哀亡國之音。是以聖人之常、擬中以御兩端、故過色緩聲無自入焉。諒非不世出之主、甚盛德之君、疇能上懷千古、以示來裔。皇帝陛下丕紹景歷、勤經大猷、百度交修、九歌惟叙。因太常署周王樸所製律準、遂推正聲、別製新曲。出入韶勺、軌度莢莖。被之弦匏、弦匏以協、移之蕭籥、籥以調。發而不散、幽而不密。德全而文縟、氣盛而化神。太和薰然、四極爰臻。而有司孤陋、無京房、荀勗、文叔、孝孫之學、不足以奉承盛德。觀海靡涯、步天無階、口誦耳剽、尚所未暇、又況敢望清光、助万分哉。然乃知前聖後聖、未嘗不垂意于成功、留神于作樂。因律以本萬事、即音以平八風。蓋樂樂所自成、明有制也。用先王之樂、明有法也。作樂之本、非律不生、非聲不協、非音不寫、非均不諧。而史氏樂家、所傳至矣、聯綱罔、秘廣內、或未接帝覽、或有煩書程、紛綸葳蕤、弗獲其要。臣竊不自揆、輒推本前人六律五聲八音七均之說、及三大禘所用之樂、古今宮鼎升歌之異、上列為圖、後詰其義。并今樂署闕典所當釐補者、更為雜論七篇附焉。總目曰大樂圖義、析其卷為上下。惟歌舞于律呂差遠、故不著于篇。臣又聞先民有言、知而復知、是為重知。陛下攸總聰睿、胸合天德、樂之元本已知之矣。而臣重以為言者、乃倦倦于効忠、亦思不出位、以備稗官之一說云爾。淺聞孤學、懼不足采。謹上。</p>	大樂圖義	文515
43	卷46	秀州重修鼓角樓記	<p>景祐元年夏四月、嘉興郡新作台門、書時、且言功也。越翌日、據屬邦人從二千石南陽葉君道卿、陟降而達觀之、醞酒大會以修慶。禮成、率鎮牆進、願以更張經始及悅以成勿亟之能、咨春秋之徒、善叙其狀、發聞馨香、與石皆泐。君抑不止、乃繪罔以諗予、且俾列其崖略（中略）。君因其化條、遂用丕變（中略）。樓成、及左右宇若干楹、內屏聯屬若干楹。有因有創、如君之素。儲鼓角於樓、以節晷昏、列檠幡於屏、以雄矩儀（後略）。</p>	鼓角樓 繪罔	文518
44	卷47	南嶽慧照禪師省賢真贊	<p>太虛網緼、六根相依、師有元身。廣額瞭眸、以假罔假、省師之神。師昔有言、妄存者亡、不妄亡者存。師貌雖人、師心即仏、請視斯文。</p>	南嶽慧照禪師省賢 真	文522

45	卷47	太平瑞聖花贊	衆跗聚英、爛若一房。有守繪圖、厥名乃章。繁而不艷、是異衆芳（出青城山中。幹不脩大、高者及尋。花率秋開、四出、与桃花類、然數十跗共為一花、繁密若綴。先後相繞而開、凡閱月未萎也。蜀人号豐瑞花、故丞相国琳為益之年、繪圖以進、更号瑞聖花。然有數種差小者、号宝仙。紅淺者、白者名玉真。成都人競移蒔園中、以為愛玩云）。	太平瑞聖花 繪圖以進。	文523
46	卷47	旌節花贊	擢條亭亭、層紫累丹。狀若使節、方圖實刊（條脩、葉碧、華紫、層累而擢、正類使所持節然、独以名見益州圖經）。	旌節花 益州圖經	文523
47	卷48	治戒	吾歿、称家之有無以葬斂。用濯浣之衣鶴氅、裘紗帽、綫履。三日棺、三月葬、謹無為流俗陰陽拘忌也。棺用雜木、漆其四会、三塗即止、使數十年足以厝吾骸、朽衣巾而已。吾之焮然高然嗷嗷有識者還于造物、放之太虛、可腐敗者合于黃墟、下付無窮、吾尚何患。掘冢深三丈、小為冢室、劣取容棺及明器。左置明水、二盞、酒二缸。右置米麩二奩、朝服一称、私服一称、鞞履自副。左刻吾誌、右刻吾銘（案祁神道碑則云、右誌左銘）。即掩壙。惟簡惟儉、無以金銅雜物置冢中。吾学不名家、文章僅及中人、不足垂後。為吏在良二千石下猶可容數人、無功于国、無惠于人、不可以請諡于有司、不可受贈。典又不宜求巨公作誌及碑。冢上植五株柏、墳高三尺、石翁仲他獸不得用。蓋自標置者、非千載永安計爾。毋作道仙二家齋醮、此吾平生所志、若等不可違命作之、違命作之、是死吾也、是以吾為違無知也。葬之日、以繪布纏棺、四鬚引、無作方相俑人、陳列衣服器用、累吾之俸。吾生平語言無過人者、謹無妄編綴作集（後略）。	〔葬送、工藝〕 棺用雜木、漆其四会、三塗即止。 左置明水、二盞、酒二缸。右置米麩二奩、朝服一称、私服一称、鞞履自副。左刻吾誌、右刻吾銘。 石翁仲他獸不得用。 葬之日、以繪布纏棺、四鬚引、無作方相俑人、陳列衣服器用、累吾之俸。	文520
48	卷51	三司侍郎書	近職方程員外還台、輒具手訊、計其淹回、或未達省覽。比日動用何如、協氣回薄、想万祉之交舍云。繪真石刻、今寄上十本。西人乃今知過、適種德之有素也。去年頗稔、汔茲百俯仰而未昂。老拙墮蹟、苟脫多罪、則賴明哲之軒轅。感愧感愧、氣序韶淑、千萬為朝順愛。	繪真石刻、今寄上十本。	文504
49	卷51	致工篆人書	辱書論篆、意甚悉。僕患世人不知六書矣。書之学出於聖人、决揚於王廷、百官以治者、書契也。仲尼見泰山封禪者七十有二人、文皆不同、安得謂仲尼不知書耶。子雲持三尺素未央庭中、以集訓纂、復作奇字。子重為說文解字以佐孔氏。伯喈自為三体、勒五經於太学。今之視揚、許蔡若高山然、未聞以善書為譽也。足下自謂工篆、而負知六書、抑揚其意則可、若曰恐世人指以為芸、胡自信不厚耶。工篆而不知意、芸也、待詔於翰林者是已、工篆知意、儒者学也。揚、許、蔡常兼之矣。足下胡不曉人之未曉、仄以人之不曉而自晦其曉耶。后夔為伶人、伊尹為饗人、足下必怪其曠、胡明於此而未燭於彼与。自唐室学廢、諸儒擗管者、雖題部点画不復能別。逮今百年、經偽史駁。僕比不自揆、与葉道卿建言於朝、欲以九經刊石、用篆隸二体、檢正偽駁其不与文合者、以救流蕩之失。幸上開許、俾之卒業。足下又倡芸自惑、是欲助人之醉而愚僕醒也耶。今人不知六書、非不好也。蓋未有以告之云耳。文王嗜昌歎、習之者蹙額、三年巨能嘗之。万一使石經之成、流布宇内、數十年後、蹙額者皆張頤沃吻、嗜為佳味、何芸之鄙乎。願勿為疑。審能正群經之文、以垂礪琬、僕方磨硯執筆從足下游矣。匆匆答報、不悉。	〔書〕 工篆人	文504
50	卷54	回河楊王殿丞啓	比過大邑、枉迎餞勤勤、不任愧荷。新路甚佳、但白水一記、略不言足下分寸功、已白田学士改撰碑刻。兼景德中曾修此路、為浮論所奪（在興州圖經中）。今足下能成之、益見至公之難也。	興州圖經	文507

51	卷57	復州広教禪院御書閣碑 (案復州、漢竟陵地、 五代晉時改為景陵。祁 本伝、釈褐為復州推官。 当天聖三年。碑云乾 興元年、意建閣在前、 碑文在後耳)	(前略) 復州者、古為景陵郡 (中略)。直城西出一里、 有院曰広教、乃唐禪師積公之經始、大士陸生之攸踐 (中 略)。真宗咸平初、適追來孝、執競先烈、袖禁中茂陵 之聚、備天下名山之藏、乃以太宗皇帝御製御書凡百 軸下賜 (中略)。乾興元年、景陵県史譚顥内發信誓、 謀就功德、捐緡錢數十萬、建為重閣、遷賜書而藏之。 木摩而匪彫、棟隆而弗撓、鳴鞞斯飛以異狀、陽馬如 舞而四承。巍乎竟苑之增雄、凜然天魔之潛衛。奕奕 雲構、瞻咫尺威而如在、灑灑宸懿、賜書文之一同。推 而上之、思議安及者已 (後略)。	(書) 復州広教禪院御書 閣 太宗皇帝御製御書 凡百軸下賜。	文526
52	卷57	成都府新建漢文公祠堂 碑	蜀之廟食千五百年不絶者、秦李公水、漢文公翁兩祠 而已 (中略)。公之治蜀、開學校、以詩、書教人 (中 略)。蜀有儒自公、始班固言之既詳。初、公為礼殿、 以舍孔子及七十二子之象、殿右廡作石室、舍公像于中。 晚漢學焚、有守曰高朕、能興完之、後人又作朕像、 進偶公室 (中略)。嘉祐二年、予知益州、往款公祠。 至則區位湫隘、埃蝕垢蒙、不称所聞。大懼礼益懈忽、 神弗臨享。其明年乃占學宮之西、改位鳩工、弗亟弗遲。 作堂三楹、張左右序及獻廡、大抵若干間。布尋以度堂、 累常以度廷、疏牕以快顯、壯闔以嚴閉。采有青丹、 陛有級夷。瓦密棟彊、若棘若飛。乃肖公像于宁間、 繪相如等于東西壁。本古學之復莫若朕、本今學之盛 莫若故樞密直學士蔣公堂、故繪二公于窟漏。皆配祠焉。 于是拑日告成于神、揖而升、簞罍果脯脯紛羅而有容、 可以告虔、趨而降、疊罽巾洗席燎並施而不厭、可以 尽儀 (後略)。	〔画・彫刻〕 成都府漢文公祠堂 孔子及七十二子之 象 (漢文) 公像 (高) 朕像 乃肖 (漢文) 公像 于宁間、繪 (司馬) 相如等于東西壁。 繪二公 (高朕、蔣 公堂)	文526
53	卷58	荆王墓誌銘	慶曆三年冬十二月、皇叔荆王疾病 (中略)。明年春正 月乙亥、遂薨。上即時臨弔、哭之慟、廢五日朝 (中略)。 制詔中書門下、其贈以天策上將軍、兗徐二州牧、燕 王印綬。太常上諡為恭肅 (中略)。謹按、王諱元儼、 太宗皇帝第八子、母曰德妃 (中略)。事德妃尤謹、每 有疾、焚薰請命、而王進飯、視妃一再以增減。居喪 以孝称、躬繪太宗聖容、織微克肖、天光日潤、若可 就而望者。性開敏、博覽文史、好飛白書、弘灑過妍、 結字甚工、作辭賦數百篇、務求理致 (後略)。	(趙) 元儼、太宗 皇帝第八子。 居喪以孝称、躬繪 太宗聖容。 好飛白書。	文527
54	卷58	皇從姪全州觀察使追封 新興侯墓誌銘	侯諱從郁、字仲文、昭信軍節度使、英国公惟憲之子、 母曰莒国和夫人 (中略)。臨虞世南隸楷絶工、射能命 中。景祐中、悉召宗室觀書太清樓。詔侯賦詩、應旨 輒上、帝称善 (中略)。于慶曆元年夏六月遭疾、薨于 第、享年四十有四 (後略)。	〔書〕 (趙) 從郁 臨虞世南隸楷絶工。	文527
55	卷58	防禦使進封饒陽侯墓誌 銘	今上景祐初、念雅樂猶欠、詔太常考鐘石之臬、質同 律之制。時群臣多不能曉、或妄以縱黍累尺、改定均度。 上依違未决、乃自譜正声、付授樂家、益召知音者以 備顧問。于是左千牛衛大將軍克己字安仁、以宗室子 名知音、上遣使即其家、俾製黃鍾大曲。將軍疏牘論次、 成不淹晷。使者還奏、大蒙賞嘆。又進別曲十余解、 往往流布樂府。將軍自為兒時、已能言五音十二管、 夫婦上下相生之法、君臣清濁之差、汪洋闳衍、支派 連著、皆有所從。繪為律呂圖奏御。其心解神悟、殆 天性然者。習羲之草、世南隸楷、尤工 (後略)。	〔画〕 (趙) 克己 繪為律呂圖奏御。 〔書〕 習 (王) 羲之草、 (虞) 世南隸楷、 尤工。	文527
56	卷58	文正王公墓誌銘	景祐二年、丞相右府缺、上方因任耆俊、參付魁極。 越二年、制詔太原王公曾、其上樞密使印綬、還來相子、 進拜尚書右僕射、門下侍郎、所以命賜之尤渥。公拜 稽首、讓弗遂。于是拑典訓庸、以熙百工。外懷邇協、 以種九德、銜味變和、辰階比平、翼戴聖猷、溥大光明。 迺十一月、從欽天柴、昨沂以為公国。他日、請問伏 青蒲、上陳瘁衛、嬰霜露以路、願前此納政、避賢人路。 帝撫然無開可意、公執不奪、卒改左僕射、加資政殿 大學士、鎮東平。戊寅仲冬、感疾、門子謁急書聞、 亟命將高手醫跳驅趣視。不半道、丙午、公薨 (中略)。 所至立學官、分租俸、助興作。五州鑿金石以頌、魏 人画像事之、課治者以公為尤 (中略)。上始鄉學、公 采聖君賢臣事、繪解為三十篇、因以勸成德美、語鏤 于槧、徧賜邇臣 (後略)。	王 (曾) 魏人画像事之。 公采聖君賢臣事、 繪解為三十篇。	文527

57	卷58	僕射孫宣公墓誌銘	(前略) 公字宗古、代為本郡著姓。由公徙居于鄆、今又為鄆人 (中略)。端拱中、擢明經高第。自積褐闋十七官、更五職、咸以最顯 (中略)。及在經省、則取無逸篇絵図以進 (中略)。作樂記図 (後略)。	孫 (奭) 宣公 無逸篇絵図 樂記図	文527
58	卷59	文憲章公墓誌銘	宋有清忠肅艾之相曰章公、諱得象 (中略)。咸平五年、拳進士 (中略)。公善行草書、筆法適婉、時人弄牘秘愛。論著文章數百篇、雅懿沈鬱、薄天人之極。其為章惠太后册、上最稱善。奉詔撰御書梵字後記、鋪衍宏麗、文林聽服 (後略)。	〔書〕 章得象 善行草書、筆法適婉。 奉詔撰御書梵字後記。	文528
59	卷59	賈令公墓誌	公諱注、字宗海 (中略)。考諱璉、周顯德中擢進士。太祖平蜀、召為太子左贊善大夫、知陵州。州有塩井、異時置熬盆、民利其贏。蜀滅、吏塞井亡去、給言開者不利太守、公私貧虛、食絮無滋。君身負畚鍤、率吏悉發其埋、曰、苟利國、吾死不愛。于是塩利復興、歲貲數百萬、人皆富完。俄終官下、陵人德之、画像以祭、遂種其祠 (後略)。	賈璉 陵人德之、画像以祭、遂種其祠。	文528
60	卷61	孫僕射行狀	孫奭、字宗古、年七十二歲。公之先、本樂安望姓、後子孫有徙占博平者、墳墓託焉、遂為博平人。(中略) 端拱二年、擢九經高第 (中略)。今上即位、例遷工部侍郎。八月、馭召公還、翰林侍講學士 (中略)。初、公之勸講也、不避亂亡、臨文未始為諱、有可以規益順諷者、必諄諄為上言之。掇五經之切治道者、為經典徵言五十卷奏御。絵無逸篇為図、願置便坐、為位宁觀省之助 (中略)。改工部尚書、以本職復為兗州。且命頒小会畢、乃得辭。待礼復數月、請行數矣。乃宴于太清樓、樂闋、上出御飛白、書宰府樞臣大字軸各一、學士以下小字軸各二、惟公与文元大小兼賜焉、朝廷榮之 (中略)。公于學無不該綜、精力彊記、絶人遠甚 (中略)。莫盛于雅、故哀羽万同律、為樂記図 (後略)。	〔画・書〕 孫奭 絵無逸篇為図 御飛白 樂記図	文524
61	卷61	楊太尉行狀	楊崇勳、字宝臣、年七十 (中略)。公年十一、以父故、補東班承旨。時真宗皇帝方居潜邸、須忠實聰悟者以充左右、公与李永力同日中選、特賜今諱。至道三年三月、太宗上僊、真皇繼極、公授右侍禁 (中略)。一日、公与張侍中耆輩侍立次、真宗皇帝謂曰、知汝等好學文字、若能如此、吾當親為教授、公等對曰、實有志矣。乃謝于庭下。自茲命張侍中為學長、張景宗觀察為副學長、公与夏太尉守贊為學察、安团練守中而下為學生矣。帝授以孝經、論語、詩賦、又教以虞世南字法 (後略)。	〔書〕 楊崇勳 帝 (真宗) 授以孝經、論語、詩賦、又教以虞世南字法。	文524

## 18 胡宿 (996~1067) 『文恭集』四十卷

字は武平、諡は文恭。常州晋陵 (江蘇省) の人。天聖二年 (1024) の進士。地方官を経て翰林學士となり、仁宗の嘉祐六年 (1061) に樞密副使に任じられた。『宋史』318。『全宋詩』179~186。『全宋文』437~472。

1	卷1	正陽門賦	有宋受命、惟皇建国。獲九金之神鼎、應五精之火德。將以定九廟之攸居、弥万世而不易。陋洛陽之如掌、纔可以備離宮、謂函谷之扼関、不足以創宸極。于是即房心之広野、拋神明之華域。得天帝布政之廷、命司空度土之職。申画郊圻、繕宮宮室。建万雉之都城、順五土之方色。王畿千里、俸日徑之傍開、君門九重、法天関之上闕。粵芸祖之創基、逮永熙之御歴、戰壘尚多、寅車未息。方且法神禹之卑宮、循姬文之盱食、重長府之仍貫、惜露台之勞役。惟此応門、闕乎盛飾 (中略)。冠広内以凝宇、標正陽而定名 (中略)。刻雕辰象、按宣夜之渾儀、図状神靈、選尚方之画手。偃倥飛步、來曝于南榮、曼倩凝睛、下窺于朱牖。瑰譎万態、于何不有。雄聃兮赫侈、磅礴兮穹崇。彈压兮万寓、冠映兮九宮。如衣服之有冕、譬鱗介之宗龍。配天之業兮、巍巍而蕩蕩、鬱鬱而葱葱。俯太行兮卻倚、瞰洪河兮注東。漢図五嶽之形、儼存于宇下、周制九丘之地、悉布于檻中。是知帝者之有為也、闕元極、稽邃古、述作表聖明之功、擬議成变化之序 (後略)。	図状神靈、選尚方之画手。 漢図五嶽之形、儼存于宇下。	文437
---	----	------	--	-------------------------------	------



2	卷1	寄題齋館	東南有仙人、玉案經近侍。為愛飛來峰、翻然下平地。白雲相與栖、絳雪居嘗餌。日作冷泉游、時尋徑山醉。徑山有五峰、參差標紫翠。西山玉芝巖、縹緲多雲氣。巖間名勝僧、除館待公至。施樹得榎楠、開軒對松桂。啼鳥傍簷楹、鳴泉落階砌。蘇徑闊三條、籃輿時一詣。汲井試茶映、援琴和松吹。榮啓老來歌、華胥午間睡。追隨支許遊、嘯詠羲皇治。武林賢主人、官儀斗樞貴。同是老成人、俱懷方外志。流水與斷壩、神交復心契。數幅伴山圖、三伏挂疇事。長謠紫芝曲、遠寄青霞意。他年狂赤霄、定挹浮丘袂。	數幅伴山圖。	詩179
3	卷1	謝御書飛白扇子歌	聖皇多才復多芸、包犧徒云造書契。坦然制作侔日星、煥有文章賁天地。太宗飛白入于神、玉堂四字標奇勢。寶跗一學造其精、聖祖神孫知善繼。萬幾余力表全能、三紀體仁成至治。金壺貯墨奉嚴禋、往年大揭明堂門。素龍鱗角儼欲拳、白鳳翹翼行將翻。八會遼邈不可見、六書細碎何足論。仁慈原廟多珍榜、河漢黼黻輝朝昏。天公常勅六丁護、在在處處祥煙屯。邇英叨籍侍清切、浴蘭每歲逢佳節。鮫人海底織冰綃、宮工天上裁紈雪。彌綸寶箠已珍華、泛灑神毫益精絕。紛如薄霧翳靈芝、淡若輕雲扞初日。免令常侍登御牀、就降王人頒睿札。玉璽封題光姓名、孤臣拜手權且榮。嗚炎扇喝昭慈眷、夙夜安民彰聖情。九門纔傳妙墨出、三殿已覺薰風生。標章有愧參鴻碩、視草無能裨聖明。短歌莫莫形容美、微志聊依頌嘖聲。	〔書〕 御書飛白扇子	詩179
4	卷2	沙鳥	一啄樊籠外、蕭然烟水鄉。折蘆翻夕夢、急雨亂秋行。南澗漁波淺、西風菰米香。世無摩詰手、誰與入清防。	世無摩詰（王維）手。	詩180
5	卷2	鸚鵡杯	介族生螭蚌、杯形肖隴禽。曾經良匠手、見愛主人心。置在金樽側、來從珠水潯（陸機薦戴若思曰明珠大貝、生于江鬱之潯）。願為仁者壽、再拜莫辭深。	〔工藝〕 鸚鵡杯	詩180
6	卷2	山居	松韻笙竽徑、雲容水墨天。人行春色裏、鶯語落花邊。脩竹三間屋、清泉二頃田。了無官府事、雞犬莫登仙。	雲容水墨天。	詩180
7	卷3	送呂解元江陰禮席	玉人仍是紫芝眉、五世嘉占得鳳飛。果滿車中潘令去、馬盤樓下庾郎歸。東牀寄傲便便腹、北路騰裝粲粲衣。九燭夜堂開喜宴、畫鸞交扇接香幃。	畫鸞交扇接香幃。	詩181
8	卷3	泛舟	瑟瑟涼波冷接空、恍疑雲物畫屏中。一篙海客乘槎水、兩漿仙人取箭風。秋色暗欺荷蓋紫、夕陽偷射桂旗紅。長來此地無窮樂、珍重筇筓與釣筒。	恍疑雲物畫屏中。	詩181
9	卷3	送吳江知縣陳著作	南望湖山畫一屏、松江江水向人清。何如巉巖聊為活、況是瀟湘謾得名。雙槳有時青翰遠、兩衙無事素琴橫。遙知惠政通和氣、乳雉馴鷗自不驚。	南望湖山畫一屏。	詩181
10	卷4	送致政吳賓客	挂冕高辭九列榮、年如園綺尚康寧。水蒼乍解趨朝佩、雲母初間隔署屏。商嶺紫芝歌幾曲、武夷毛竹夢頻驚。門前已見施行馬、更待沙堤接鯉庭。	雲母初間隔署屏。	詩182
11	卷4	太湖石	海岱鉛松妄得名、洞庭山脚失寒瓊。漱成一朶孤雲勢、費盡千年白浪聲。誰向機邊逢織女、直疑巖下見初平。年來賞物多成病、日遶蒼苔幾徧行。	〔石〕 太湖石	詩182
12	卷5	雪後登秘閣	消盡層陰上尺梯、雪余官瓦弄晴暉。碧簷交照虬爭聳、朱闕相聯鳳欲飛。日向金溝春溜動、風來珠樹曉寒微。帝家池籞饒芳物、白鳥翩翩接翼歸。	〔叙景〕 雪後登秘閣	詩183
13	卷5	送益州運使田學士	劍棧秋旗挾過鴻、行台西去撫蠶叢。民間幼艾餐和氣、徼外曾豪假德風。巴漢靜歸籌筆內、岷峨間入畫圖中。時平幕府無留事、樂職何妨頌聖功。	巴漢靜歸籌筆內、岷峨間入畫圖中。	詩183
14	卷5	歲晚禁直呈承旨侍郎同院五學士	（前略）論思皆藥石、效唾亦瓊瑤。弱水滄波在、然山老墨余。睿篇朱鴈刻（三朝御什龕載屋壁）、宸翰白龍據（太宗飛白書玉堂之署）（後略）。	〔書〕 太宗飛白書玉堂之署	詩183
15	卷6	召赴天章寶文閣觀御集賜御書飛白扇子群玉殿錫宴	阿閣藏仙籍、英輿侍辟儀。珍函開二典、聖藻煥重離。河洛斯文在、盤盂乃訓垂。寶跗親許視、瑞物偏容窺。白鳳隨毫拳、蒼龍託墨奇。好文逢漢后、觀象值庖犧。溢幅榮分賜、班觴曲示慈。柏梁晨煦洽、仙苑昼陰移。和樂韶音美、承平鑄酒遲。再陪瑤水宴、千載慶茲時。	〔書〕 天章寶文閣觀御集賜御書飛白扇子	詩184

16	卷6	館中錫宴	紫殿程書廣、鴻都校籍成。宸心瞻儒學、慈宴詔樞衡。供帳來金闕、臚傳下玉京。三山開秘宿、七閣敞修楹。革履趨朝暇、華貂映席明。弁繁星錯落、佩雜玉鏘鳴。爐靜飄芳蕙、函開識禁橙（近有恩旨降瑞橙一本、付之秘閣）。壺均天所酒、鼎薦帝余羹。夏屋彰仁洽、衢樽樂治平。丹樓晨唱近、碧樹曉寒輕。寓內年書有、人間月就盈。非煙舒渥旨、愛日助皇情。鳧藻深歡意、魚蒲溢頌聲。蕭斯蒙湛湛、露彼仰英英。故事留東觀、崇恩自上卿。何言挈瓶陋、亦玷拳觴榮。已重高門地、還歌食野苹。微生徒藁鈍、弱植但葵傾。就日欣逢旦、瞻河喜見清。更期紆翠葆、千載託登瀛。	函開識禁橙（近有恩旨降瑞橙一本、付之秘閣）。	詩184
17	卷6	講畢周禮詔賜御筵	典禮惟周旧、經文在魯余。西清開縹帙、東面授丹書。訪道前釐席、崇風厚石渠。研覃忘日晷、函繪極霞舒（經中禮樂之器、詔函繪其狀）。千載逢亨際、三冬罷講初。聖懷輕壁馬、慈宴樂蒲魚。妙技通神細、清商按曲徐。爐香分漢殿、鼎味出堯除。諸老恩同醉、孤臣芸最疎。至仁何以報、忠義即瓊瑤。	函繪極霞舒（經中禮樂之器、詔函繪其狀）。	詩184
18	卷6	丁巳歲觀玉皇冊禮	宝冊尊徽号、香泥潔武都。齋心期太乙、恭已答元符。玉輅嚴清制、琅函秘聖謨。竹宮陳帝拜、嵩極動神呼。彩霧霏三境、祥輝燭九區。況當精歲出、仍與上辛俱（正旦上辛協吉之符）。永接千齡統、長膺五老囡。清編流景鏤、禮自百王無。	五老囡	詩184
19	卷9	賀奉安三聖御容表	臣某言、伏聞南京鴻慶宮成、奉安三聖御容禮畢者。繼啟新宮、統成先志、鼓鐘所落、鳧藻相歎。臣竊以別寢之興、蓋尊王業、原廟之設、實廣孝思。稽克構于聖功、兼表崇于文教。光昭宗祏、慶洽天人。伏惟皇帝陛下、凝監太清、紹休聖緒。觀文闡化、握河浴之坤珍、受命宅中、都房心之星次。惟芸祖肇基之地、經先皇駐蹕之巡、特創琳宮、阜安鼎邑。殊庭中廢、宸慮載凝、滂發德音、勃興宝構。森倚万楹之盛、仰延三后之靈。孝子求神、固非一處、先王不寐、迺懷二人。奉漢寢之游冠、尊軒台之醉表。龍舟夙發、羽葆親臨。申命禁林之臣、奉寧法物之駕。神明氣象、胥接二京之間、朝野頌聲、共歎千載之際。臣遠守郡土、久去國門、方童觀之時、阻窺朝美、興壤謳之俗、竝樂時康。	南京鴻慶宮成奉安三聖御容	文458
20	卷10	湖州乞為太傅謝安置守冢禁樵採表	（前略）竊見晉太傅諡文靖公謝安（中略）。名蓋當世、功濟諸華、号文武之偉人、為風流之稱首。張文規所撰吳興錄、称安墓在長城隄南六十五里、初葬建康之梅山、為陳始興王叔陵發其冢。裔孫夷吾為長城令、徙于隄南三鴉岡。按長城即今長興縣、臣昨受詔除、出忝州任、到官之日、遂移本縣訪墳柏所在。掘大理寺丞、知縣事裴大亮狀、于隄南萬安鄉三鴉岡訪得安冢、履地十畝有畸、古老相傳、謂之謝墓。田路去隄、與吳興錄所載略同。墓傍社戶十六、歲時祭拜。旧有叢祠、不堪其陋。臣量破公省錢、委大亮移置佳處、重建祠堂、凡屋十二。遣工往塑其像、冠服儀衛、悉用當時之制。然祠墓差僻、人迹罕至、若無給復之守、恐懼樵牧之患（中略）。欲乞聖慈、特降敕旨、于安冢旁申禁樵採、給復五家、以備灑掃守護之役、敕州縣官吏、歲時祠祭（後略）。	〔彫刻〕 遣工往塑其（謝安）像、冠服儀衛、悉用當時之制。	文459
21	卷10	代中書樞密院謝瑞竹圖表	今月二十二日、使至中書、蒙恩賜臣瑞竹圖一軸者。翠本交枝、駢生于禁園、紺函設色、首降于叢霄。啓鈿軸以相鮮、閱青珩之對聳。圭衡兼映、巾衍增榮、祇賀恩頒、弥驚寵瞻（中謝）。伏惟皇帝陛下、惠孚動植、化洽平成、朱草不絕于史書、行葦見歌于詩雅。生物咸遂、本資始于至仁、沖氣為和、乃薦榮于祥植。瞻言平圃、蔚產修篁、擢豐壤以同根、出珍叢而異幹。扶疎竝秀、知造物之有功、託寓致靈、表太平之無象。慶昭繇殿、瑞等駢柯。有穆宸襟、興憐妙物、降丹輿而留覽、集華組以臨觀。命繪事以伝模、敷德音而錫与。臣等預瞻秀拔、仍拜章施、懼逢旦暮之亨、交易歲寒之守。永惟秘奉、益切昭銘。	瑞竹圖	文459

22	卷10	代中書樞密院謝題明堂御書後書名表	伏奉聖旨、許臣等所請、于御書明堂之門額後各書其名者。千齡罕值、二宝親逢、復得請于日餘、獲附名于不朽。榮兼常等、感集幽衷〈中謝〉。伏惟皇帝陛下、炳發弘文、紹修宗祀、合天神而右饗、即祕寢以告虔。泛灑百金之毫、出于聖思、冠絕六師之體、表厥雲霓。迴極奇蹤、實昭能事、允為歷代之宝、式嚴清廟之藏。臣等修輔乏能、邁辰為幸、猥承沖旨、獲署珍函。仰欽至聖之眷懷、益慶具臣之遭會、相期勗勵、罔報睿明。	〔書〕 明堂御書	文460
23	卷10	代中書樞密院謝賜御篆明堂飛白明堂之門表	義画垂文、奎鈎賁采、降王人而頒副、窺神迹以究奇。仰服異恩、同懼榮遇〈中謝〉。伏惟皇帝陛下、聰文攸縱、神睿多能、嚮屬九房、攷制五室、並侑祖宗之靈、大合郊邱之祀。紹興能事、滂發精衷。聖藻裁篇、首發歌于宝鼎、宸毫結字、復瀆墨于金壺。揭華榜以相高、參飛莖而並麗。選工禁署、寓刻祕珉。肖鸞龍翔翥之形、尽金石昭銘之美。恩頒位宁、榮及圭衡。臣等並邁千齡、獲承二宝、慙無裨于台宰、誓永属于昆雲。	〔書〕 御篆明堂飛白明堂之門	文460
24	卷11	代中書樞密院謝賜三朝宝字訓鑑圖表	天光燭臨、王人降蒞、神毫映發、繪事照陳。獲凡目之榮瞻、增愚衷之慶忭〈中謝〉。恭以國家自一戎之變伐、經五代之荒屯、文匿采而弗昭、武淫威而未戢。太祖皇帝削平多壘、式遏橫流、中区始混于車書、生民得去于湯。火太宗皇帝纂戎以睿、右治在文、躋俗中和之隆、同風巍煥之盛。真宗皇帝靜淵臺穆、緝熙光明、協于二后之華、粹乃一王之體。厥初締構、以属盛盈、聖算成功、弥文盛德、洋洋尽美、蕩蕩難名。至于裁決繁機、奮耀英断、署鳳毛之尾、擢犀管之英、莫不墨宝相輝、神鋒迴拔、居然鸞鶴之翥、蔚有龍虎之威。祖宗多能、固天之攸縱、聖明善述、歷世而弥光。伏惟皇帝陛下、道德昭前、聰明時憲、規恢祖服、務廣先猷。攷合神書、搜羅遺彙、奇蹤畢獲、顯跡概揚。留聖思于勒成、命侍臣而類次。形于方版之鏤、參諸設色之明、序以宸章、置之禁坐。蓋將訂盤盂之作、况几杖之銘、式遵燕翼之謀、用慎起居之戒。茲惟不朽之事、以永無疆之休。臣叨預宰聯、親逢盛際。禁嚴趨召、已觀宝附之文、秘副辱頒、有踰拱璧之賜。誓榮藏于衡華、永伝奉于昆雲。	〔書〕 賜三朝宝字 〔画〕 訓鑑圖	文460
25	卷11	中書謝宣赴清景殿觀御書賜宴表	紫闥冲深、綈囊充積、實元儲之善訓、許下士以恭窺。久奉宣游、滂蒙示惠、仰懷殊遇、內積至榮〈中謝〉。伏惟皇帝陛下、臺穆御邦、哲明稽古、蘊多能而乃聖、臻大定以無為。承孚佑之祥、奉之慶鞏、集累仁之慶、俾厥熾昌。爰崇建于東闈、用固安于大本。若乃孝恭天賦、敏惠日躋、自稟夙成、非由外獎。而陛下深敦慈勗、茂闡良規、攷述作之大方、垂睿明之諄誨。復以章天之御藻、藏府之前編、聿昭齒学之風、並示賜書之寵。載形中旨、悉念邇臣。趨秘禁之凝嚴、侍威顏之咫尺。瞻壁日重輪之曜、慶偶亨辰、踐玉山四徹之塗、鋪觀輿典。宸辭綺煥、仙翰雲飛、若龜負以攸伝、豈管窺之能測。足使上庠崇術、更廣于多聞、步障題篇、遠慙于懿戒。矧惟邃宇、邈處層霄、飛闈連延、華題照灼。山擬蓬而軒逸、池象壁以縈流。杳絕世氛、復侔真境。乃間宴凝神之地、蓋齋居味道之庭。群帝下觀、百靈潛護、居然物外、理絕階升。猥沐詳延、仍容泛覽、塵眸乍刮、俗骨疑輕。恍若夢于鈞天、飄如乘于鸞駕。而又沛風發唱、堯酒分甘、徽繼属于良康、泱懼偷于酣滑。鍾千齡之契遇、極三接之便蕃。臣等謬忝近司、無裨至治、荷顧存之尤異、申答效以何階。	〔書〕 赴清景殿觀御書	文460
26	卷14	楊南仲可大理寺丞知国子監書学兼篆石經制	敕某、朕以首善在学、至教本經、將遠塞于異端、宜罔刻于方礎、敷求毫法、緒正典文。爾屨被薦延、入預刊正、見称篆籀之学、頗整字書之訛。亦既肆勤、宜有開勳、進丞大理之属、關知小学之司。勿替爾勞、往虔茲渥。	〔書〕 楊南仲 知国子監書学兼篆石經	文439
27	卷14	武宗元可国子博士制	敕某、爾藉外廩之資、預中朝之籍。假以別乘、倅于方州。自掛刑章、黜臨利局、因今課之云集、援攷法以自言。進之成均、任以博士。宜思既往之謬、当服非常之恩。尚勵來勳、庶幾補過。	武宗元	文440

28	卷18	李瑋可起復雲麾將軍保州團練使制	敕、朕感先慈、早棄長世、眷乃元舅、適及外家、享命弗融、遺恩宜厚。具官某、義方被教、退讓陶風、稟韶令以兼資、處紛華而匪雜。躡膺選尚、方俾進修、屬遭親喪、例推權制。用正軍團之秩、兼升環衛之名。式慰孝思、俾參朝請、庶幾進見、特示眷懷。勉遵肯構之規、宜亮奪哀之意。	李瑋	文444
29	卷18	孟永寧可新州新興縣主簿充翰林待詔御書院祇候制	敕、某恪奉嚴宸、頗精楷法、籍禁門而惟旧、成宝刻而有勞。特疏一命之榮、且獎六書之善。益專小学、往服茂恩。	〔書〕 孟永寧 翰林待詔御書院祇候	文445
30	卷24	賜寧國軍節度使北海王允弼摹勒御書飛白上進詔	省所上表、蒙賜御書飛白二字、謹摹勒上石上進事、具悉。朕以聽朝之余、宝茲寸晷。自惟翰墨之尚、猶賢博奕之為、聊因飛毫、于以結字、式將意眷、且寵親賢。卿有兩獻之風、躬二南之美、喜宣上德、樂尽忠規。忘蟬翼之匪工、煩龜趺之立刻、爰緘墨本、乃刻奏封、深陳感遇之懷、且顯游揚之志。本于信厚、嘉乃恭謙、省覽以還、愧尚無已。	〔書〕 北海王允弼 摹勒御書飛白	文452
31	卷24	御書賜龍圖閣直學士權知開封府蔡襄摹寫賜御書刻石事敕書	省所奏、伏蒙特賜御書、臣齋戒摹寫、刊著于石、次錄獎詔及臣所獻古詩、兼載後序、以紀遭遇、裝一軸上進事具悉。卿体行清方、才謨詳正、通于學術、粹是風業。朕選諸近侍、佳有名臣、因暇日以援毫、命中璫而賜字。蓋以將朕異瞻、成卿令名。退思匪工、追用自慙、而乃深于感遇、篤在游揚、形頌歎之長言、溢尚〈案、蔡襄集有御書碑序、其載勒石摹進始末、在至和元年六月二十四日。其結銜称起居舍人知制誥与此不同者、考襄本伝自起居舍人遷龍圖閣直學士知開封府、蓋其勒石作序在為起居舍人時、而賜敕則已在轉官後也。襄集不載敕書、此下闕文無考〉。	〔書〕 蔡襄 摹寫賜御書刻石	文452
32	卷26	賜占城国王俱舍利波微收羅婆麻提楊卜敕書	省所差人進奉生象二頭、象牙二百二株、藥犀大小一百九十一株、下色紫礦一百九十一斤、中色煎香五百斤、下色煎香五百斤事、具悉。卿長治國藩、聿修王職、地雖居于遐外、世弥篤于恪忠。匪忘存闕之誠、來效占風之貢。俾爰使指、載越溟津、亟覽表章、深嘉誠節。式將乃眷之意、特推加惠之恩、当体寵優、益思欽順。今回賜卿銀三千兩、錢一百貫文、至可領也。其差來蒲息、陀毘等到闕、各支賜對見朝辭衣物銀器衣著等、令于殿前都使衙安下、及差鴻臚少卿劉舜臣等館伴、令御厨、翰林儀鸞司、往彼祇心酒食鋪陳。其所乞白馬、已支賜二匹訖。故茲示諭、想宜知悉。秋涼、卿比平安好否。遺書、指不多及。	〔朝貢品〕 占城国 生象二頭、象牙二百二株、藥犀大小一百九十一株、下色紫礦一百九十一斤、中色煎香五百斤、下色煎香五百斤	文454
33	卷27	就馭賜北使銀沙鑼唾盃等口宣	卿等奉若信函、慶茲獻節、解裝伊始、授館有初。爰命頒宣、以昭眷待。 又 卿等震誕修權、遠華將命、言念乘軺之久、属当授館之初。特示寵優、用伸頒錫。 又 卿等使乘聯華、慶函講好、求祝延于誕節、方休舍于都郵。爰命寵頒、式將渥眷。 又 卿等來慶誕辰、載馳長道。在勤勞而可尚、属休舍之有初。用示恩頒、以昭眷寵。	〔工藝〕 賜北使銀沙鑼唾盃	文455
34	卷27	就馭賜北使春幡勝春盤等口宣	卿等慶属歲元、紹修邦好、嘉逢春節之立、喜見年芳之新。用示眷恩、式昭礼意。	〔工藝〕 賜北使春幡勝春盤	文455
35	卷28	皇后閣端午帖子	(前略) 香爐角黍伝三楚、丹篆靈符辟五兵。更有龜台仙菓在、河洲賢德保長生。 (中略)。 蕤賓于氣盛炎方、坤德資生茂百昌。西域葡萄初蔓衍、成周瓜瓞更綿長 (後略)。	〔工藝〕 丹篆靈符 有龜台仙菓在。 西域葡萄初蔓衍、 成周瓜瓞更綿長。	詩185

36	卷29	楚王城弁	鄆南之西北、距邑十五里、有古雉堞、曰楚王城。其形如瓠壺、其規千步、其高十尺、形勢存焉。城南隅有神祠數椽、榜曰楚王廟。廟有斷碑、雖刳、尚可尋繹、即唐乾符中雲川進士馬昌寓為記、指神為晉司馬休之、當桓靈寶之篡、休之自會稽赴援、築壘駐兵、以俟四方之集。其文穿鑿、無所攷矣。余閱晉書、司馬休之雖封楚、居漢中、安得自會稽唱義。復按史記、吳王壽夢二年、楚之亡大夫申公巫臣怨楚、將反而奔晉、自晉使吳、教吳用兵乘車、令其子為吳行人、吳于是始通中國。吳伐楚十六年、楚共王伐吳、至衡山、杜預云吳興烏程南是也。土人語訛、呼曰橫山。其上猶有城址遺迹、則鄆南之墟、相去百里。猶有說焉、城之內外、耕者多獲石戈矛箭鏃、余亦得其四五。禹貢、荊州貢砥礪磬丹。春秋時隼集陳廷、楷貫之、石弩長尺有咫。時人莫能知、而問孔子。不近取之荊梁、而遠取之肅慎、非獨荊梁不貢此、矢是知中國兵器不用石而用銅也明矣、則楚王安得為休之耶、更俟博識者弁之。	〔考古〕 楚王城 城之內外、耕者多獲石戈矛箭鏃、余亦得其四五。	文466
37	卷29	臨海梵才大師真贊	梵才大師以實性會道、以余力工詩。天聖中、至自台山、館于輦寺。朝之名臣勝士、莫不欣挹其風、日至于室、參評雅道、問印禪理。尋被詔識館、訂正智者、慈恩二教、及同編教總錄三十卷。七年、書成奏御、賜紫方袍。未幾、歸臨海北山、掃淨名庵居之。慶歷初、予自山出守吳興、師適有苕溪之行、得尋支、許之集。自我見將二十年、雖正始之音、泠然在耳、而赤髭之相、邈哉難值。門人有繪其像持至都下者、宛具眉毫、若與神對。感旧懷遠、為之贊云、北山大士、梵才錫名。禪離文字、詩陶性情。迹安林利、聲動玉城。学徒傳像、繪筆何精、秀氣間遠、妙相圓成。此身有報、本体無生。月皎寒水、雲栖太清。龍華後會、聊記宿誠。	海梵才大師真 門人有繪其像持至都下者、宛具眉毫、若與神對。	文467
38	卷35	常州太平興國寺弥陀閣記	(前略) 常州太平興國寺、蕭齊旧刹、吳土名藍。大江東流、夙擅佳麗、香海右轉、地稱吉祥。大比丘可尊、闡釋門宗、循持梵行、神栖安養之境、志皈度脫之門。開慕信根、崇修淨業、同結生方之社、以為即實之基。上首信士伝広、門人子蘭、與其邑中之良、夙殖善本、勇結勝因、樂聞言音、帰趣信誓。室多忠信之旧、戸興禪頌之風。而又率籲檀那、哀合財施、飭予章之峻幹、躋他山之密礎。選良剖闕、究奇塑範、營閣于本寺正殿之西偏、造阿弥陀仏丈六金像、居宝蓮華之坐、威德殊勝、相好端嚴。鐘梵落成、金碧宣照、縑素和會、幼艾咸集 (中略)。至和丙申三月十三日記。	〔彫刻〕 常州太平興國寺弥陀閣 營閣于本寺正殿之西偏、造阿弥陀仏丈六金像、居宝蓮華之坐、威德殊勝、相好端嚴。	文466
39	卷38	宋故朝散大夫尚書工部郎中充天章閣待制兼集賢殿修撰知越州兼管内隄堰橋道勸農使提点銀場公事充兩浙東路屯駐駐泊兵馬鈐轄温台明越衢婺処州等諸州軍并都同巡檢兵甲賊盜公事護國軍清河開國男食邑三百戸賜紫金魚袋贈工部侍郎張公墓誌銘	嘉祐二年春、天章閣待制兼集賢殿修撰張公以静退之性、勞侍從之事、聞東南佳山水、而會稽第一、章請自效、詔俞其往。在郡三歲、政清民恬。方且合符、帰奏計于天子、無何暴疾、以巳亥七月丙辰、卒于州廡之寢 (中略)。公諱友直、字清卿、晚更字曰益之 (中略)。公、文懿公之長子 (中略)。文懿公薨、釋服、除刑部、仍前修撰 (中略)。改判尚書刑部 (中略)。以先公冢舍甫就、表碣未立、章累上、求便郡、出知鄧州。入辭之日、仁宗遣中使至第、以旧德之碑四字、篆文懿公神道。又賜公御書飛白及鳳茶、以將其意眷焉 (中略)。公精小学、能篆籀、喜楷法、尤好篇詠。得美書善本、必手自伝写、色無倦焉 (後略)。	〔書〕 張友直 (仁宗) 旧德之碑四字、篆文懿公神道 御書飛白 (張友直) 精小学、能篆籀、喜楷法、尤好篇詠。得美書善本、必手自伝写、色無倦焉。	文469

40	卷39	宋故朝散大夫尚書礼部侍郎致仕上柱国樂安県開国侯食邑一千三百戸賜紫金魚袋贈吏部侍郎蔣公神道碑	宋有大雅全德之老、尚書礼部侍郎致仕蔣公、以皇祐六年三月辛酉、考終于吳郡靈芝坊私第（中略）。公諱堂、字希魯、常州宜興人（中略）。移知越州（中略）。俗信姦巫、奉淫鬼、境内所祀非旧典者、皆翦治之、取其像棄湖中、材瓦悉送官。衆初駭、以為蔑神、公乃尊禹祀、新馬侯故祠（中略）。会高選名臣、以殿右蜀、遷樞密直學士、知益州。蜀人偷浮、不識敦本。前守如乖崖、承冠乱甫平、一切權宜、務安遠俗。後之來者、以為治蜀適然耳、而又增益修費、十倍于前。公曩官于眉、習知敏俗。常曰、國家承平百年、声教万国、蜀士學尚、不減鄒魯、惟此習俗、尚安余風。二千石恬而不怪、豈承流宣化意耶。乃興學校、省厨伝、凡過泰無名之費、姑息不正之事、多所裁革、未始顧慮（中略）。治蜀日、常召高才碩生、会試府寺、親校才等、勸成學者。于府學之側、別建西學、以広諸生。齋室訖成、而公移蒲中、其後軫使毀之、以増廡舍。既而常山宋公尚書至府、聞其事、歎惜久之、且欲成公意。乃即其旧址、建文翁祠祠之、内凶巖君平、鄭子真、司馬相如、揚子雲、蜀士先賢凡九、及公之像而十、常山公為之贊。至公、略云、蔣侯挺挺、天与巖方。健而文明、不逢不將。迹其風德、從可知耳（後略）。	〔彫刻〕(越州) 俗信姦巫、奉淫鬼、境内所祀非旧典者、皆翦治之、取其像棄湖中。 〔画〕 建文翁祠祠之（蔣堂）、内凶巖君平、鄭子真、司馬相如、揚子雲、蜀士先賢凡九、及公之像而十、常山公為之贊。	文469
----	-----	---	--	---	------

## 19 余靖（1000～64）『武溪集』二十卷

本名は希古、字は安道、諡は襄。韶州曲江（広東省）の人。天聖二年（1024）の進士。慶曆三年（1043）、右正言となり、契丹への使者を務めた後、知制誥に任じられたが、再び契丹へ派遣された際に契丹語で詩を作ったのをとがめられ、一時左遷された。その後、儂智高の乱の平定などに活躍し、英宗朝には工部尚書に至った。『宋史』320。『全宋詩』227～228。『全宋文』555～576。

1	卷1	雙松（在故県）	自古詠連理、多為陽艷吟。誰知抱高節、生処亦同心。風至応交響、禽棲得並陰。歲寒當共守、霜雪莫相侵。	〔松〕 双松	詩227
2	卷1	謝連州沈殿丞惠石	遺我巖巖石、拜嘉賢使君。何当天共補、応免玉階焚。想自乘槎得、知從飲羽分。試將簷畔累、尚帶故山雲。	〔石〕	詩227
3	卷1	謝伯恭篆屏蟾硯	古硯蟾蜍滴、文屏薤葉書。世間多倚伏、休歎囊中虚（來詩云囊中奇物為基輪）。	〔書・文房具〕 篆屏 蟾硯	詩227
4	卷2	酬蕭閣副惠末利花栽	素艷南方獨出群、只応瓊樹是前身。自縁香極宜晨露、勿謂開遲怨晚春。欄檻故將賓榻近、丹青重整画窓新。移根得地無華裔、從此飛觴不厭頻。	欄檻故將賓榻近、 丹青重整画窓新。	詩228
5	卷2	贛石	万堆碧嶺聳嵯峨、壅遏江流氣勢驕。鉄馬陣横秋戰苦、水犀軍乱夜声驚。呂梁謾記莊篇峻、灑湏休誇蜀道遥。怒激波声猶可避、中傷榮路不相饒。	〔石〕 贛石	詩228
6	卷2	謝送篆文屏風因次來韻	一局聊將万境祛、非同得兔守枯株。北窓枕畔添奇物、却想淵明旧日無。	〔書〕 篆文屏風	詩228
7	卷2	謝崑侔王寺丞惠韓柳碑文	南方異産足珠珍、惹苳興讒不忍聞。一見知君清白節、篋中唯貯色糸文。	〔書〕 韓（愈）柳（宗元） 碑文	詩228
8	卷2	五色雀 羅浮有五色雀各被方色非時不見若士大夫將遊是山則先日群翔寺僧以是為候某庚辰歲謫官來遊將至之夕茲雀亦集感之成詠云	五方純色儼衣冠（尤可愛者、朱藍正色若朝服焉）、応是山靈寄羽翰。多謝相逢殊俗眼、謫官猶作貴人看。	〔鳥〕 五色雀	詩228
9	卷2	曲江津亭謁華嚴長老見所賜御書因成二韻	数年不待玉爐傍、夢断千山隔帝郷。今日見師堪下淚、御書開卷帶天香。	〔書〕 御書	詩228

10	卷3	宋職方補注周易後序	<p>(前略) 今庠平宋君貫之補注周易、蓋懲諸儒之失、而櫛去異端、志在通王氏之說、合聖人之經 (中略)。皇祐五年歲在荒落、補注既成、聞于旒扈、俄領中旨、附郵投進。其明年、蠻事平息、因談經義、遂得奏御副本為示、迺周而研之。嘗觀劉氏鉤隱圖、言宓犧氏因龍圖龜書之文以画八卦、又言天五地五、大衍之用、謂其深於數者。及觀貫之之積、以謂宓犧稽象於天、取法於地、觀鳥獸之文、通万物之情以画卦、奚獨取於龍馬之圖耶。又其言乾坤之策生於四象、其於尼父之經、輔嗣之注、亡所戾而有所明焉。固可秘之藏室、流之學宮、寧止是正文字而已哉。歎其言近旨遠、故題而序之。</p>	劉氏鉤隱圖 龍馬之圖	文567
11	卷3	海潮圖序	<p>古之言潮者多矣、或言如橐籥翕張、或言如人氣呼吸、或云海鱗出處、皆亡經據。唐世盧肇著海潮賦、以謂日入海而潮生、月離日而潮大、自謂極天人之論、世莫敢非。予嘗東至海門、南至武山、且夕候潮之進退、弦望視潮之消息。乃知盧氏之說、出於胸臆、所謂蓋有不知而作者也。夫陽燧取火於日、陰鑑取水於月、從其類也。潮之漲退、海非增減、蓋月之所臨、則水往從之。日月右轉而天左旋、一日一周、臨於四極、故月臨卯酉則水漲乎東西、月臨子午則潮平乎南北、彼竭此盈、往來不絕、皆繫於月、不繫於日。何以知其然乎。夫昼夜之運、日東行一度、月行十三度有奇、故太陰西沒之期、常緩於日三刻有奇。潮之日緩、其期率亦如是。自朔至望、常緩一夜潮、自望至晦、復緩一昼潮。若因日之入海、激而為潮、則何故緩不及期常三刻有奇乎。肇又謂月去日遠、其潮乃大、合朔之際、潮始微絕、此固不知潮之准也。夫朔望前後、月行差疾、故晦前三日潮勢長、朔後三日潮勢極大、望亦如之、非謂遠於日也。月弦之際、其行差遲、故潮之去來亦合沓不尽、非謂近於日也。盈虛消息、一之於月、陰陽之所以分也。夫春夏昼潮常大、秋冬夜潮常大、蓋春為陽中、秋為陰中、歲之有春秋、猶月之有朔望也。故潮之極漲、常在春秋之中、濤之極大、常在朔望之後。此又天地之常数也。昔竇氏為記、以謂潮虛於午、此於東海者矣。近燕公著論、以謂生於子、此測於南海者也。又嘗問於海賈、云潮生東南、此乘舟候潮而進退者耳。古今之說、以為地欠東南、水歸之、海賈云潮生東南、亦近之矣。今通二海之盈縮、以誌其期、西北二海所未嘗見、故闕而不紀云。嘗候於海門 (通州海門縣)、月加卯而潮平者、日月合朔、則旦而平、日緩三刻有奇、上弦則午而平、望已前為昼潮、望已後為夜潮 (此皆臨海之候也。遠海之處、則各有遠近之期)。月加酉而潮平者、日月合朔、則日入而潮平、上弦則夜半而平、望則明日之旦而平、望已前為夜潮、望已後為昼潮。此東海之潮候也。又嘗候於武山 (廣州望船之處)。月加午而潮平者、日月合朔、則午而潮平、上弦則日入而平、望則夜半而平、上弦已前為昼潮、上弦以後為夜潮。月加子而潮平者、日月合朔、則夜半而潮平、上弦則日出而平、望則午而平、上弦已前為夜潮、上弦以後為昼潮。此南海之潮候也。</p>	海潮圖	文567
12	卷5	韶亭記	<p>賢人君子樂夫佳山秀水者、蓋將寓閑曠之日、託高遠之思、滌蕩煩縉、開納和粹。故遠則攀蘿扞雲以躋乎杳冥、近則築土飭材以寄乎觀望。惟韶山去州治八十里、自元精胚胎、陽結陰流、不知鑪錘者誰、独秀茲境 (中略)。殿省丞潘君伯恭特膺詔選、來守嶺阨 (中略)。遂按郡課而相之、背山東渡五里而近、得地曰靈溪、即道左建亭、而山之奇秀、森然在目矣、俾來以圖、授之矩画 (中略)。既而請名、太守曰、亭以山構、而能盡山之美、其名韶云。歲月日記。</p>	韶亭 俾來以圖、授之矩画。	文569

13	卷6	洪州新置州學記	<p>(前略) 大江之西、処都会而山水佳者、洪為率、郡之造秀、以文獲仕、歲有人焉、固宜興學校以寵其俗。景祐改元之明年、天水趙概叔平、以祠曹副郎兼東壁圖書之職來守是邦 (中略)、願建饗舍。詔從之。繇是葺旧模新、補敗增卑、広其墻垣、峻其廉陛。或易椽而朽、或築基而營、起橈為隆、變部為豊。寢殿奕奕、儼然南面、龍袞珠旒、備乎王章。自高第弟子至漢魏大儒、坐而侍、壁而立、于堂于廡、列像有次 (中略)。又俾設色之工、以夏、商、周車服、珪璧、椀俎、彝罍之器見於經礼者、繪之講論之堂、使朝夕觀焉。孟子所謂樂得英才而教育之者、其是之謂乎。鳩工於三月庚子、告成於八月庚申 (中略)。今叔平以文學舉進士而升鼎科、以器識居宦途而歴顯仕、復能敦大教之本、儲詩書而萃英髦、以尊聖育賢為事、夫其遠大、安可量哉。与夫徼福於神、盛祠廟者異矣、又豈知洪人戴之不若文翁之於蜀耶。某以上書忤旨、貶筠州、道出大府、目是懿績、故為之記云。皇宋景祐丙子歲十月日建。</p>	<p>〔彫刻・画〕 洪州新置州學 寢殿奕奕、儼然南面、龍袞珠旒、備乎王章。自高第弟子至漢魏大儒、坐而侍、壁而立、于堂于廡、列像有次。又俾設色之工、以夏、商、周車服、珪璧、椀俎、彝罍之器見於經礼者、繪之講論之堂、使朝夕觀焉。</p>	文569
14	卷6	康州重修文宣王廟記	<p>(前略) 康州在嶠南千里、北人踰嶠而至者、率以南方暑濕、憂畏疾瘧隕穫于内、尅日月以計歸、宜乎政之或未暇緝也。殿省丞李君仲求被命到郡、自以壯年蒙國委用、得守土宇、不復計遠邇若向之為者、凡可以濟當時利後人者、罔不嘗度焉。先是、郡無饗舍、纔建廟室以応令奉祠耳。廟在子城西偏、広不占畝、棟幹庫陋、不称明德 (中略)。迺相爽塏、去郡東五里而近、得紫極宮之故基而鼎新之、殿堂門序凡五十楹。先聖、先師及世所謂十哲者、皆扶土為像于殿以致恭、七十子而下、又設色肖形于廡以存制。仍齒博士弟子之位于堂以肄經、凡廟學之式參備焉。既卒工、捫囙來京師以謂記。属予有出疆之役、而不克書。其明年、得罪為郡、又明年、迺閱旧訊而誌之。廟之成、以慶歴癸未歲。董其役者、端溪尉王該、進士樂其成而來居者百余人云。</p>	<p>〔彫刻・画〕 康州重修文宣王廟 先聖、先師及世所謂十哲者、皆扶土為像于殿以致恭、七十子而下、又設色肖形于廡以存制。仍齒博士弟子之位于堂以肄經、凡廟學之式參備焉。既卒工、捫囙來京師以謂記。</p>	文569
15	卷6	興國軍重修文宣王廟記	<p>(前略) 興國軍者、本隸武昌、以摘山鼓鉄之利、遂建軍壁、故廟學草創而不完。景祐受冊之明年、太原王君以成均博士知軍事 (中略)。於是度費飭材、以萃百工、罷不急之用而用之、不瘡於民、不割於公、而霈然余力、以克有成 (中略)。凡爵於唐、讚於先朝、作配從祀、及得囙形太學者、塑坐繪立、咸備其制、向之不如制者、悉俾新之。筵開饗堂、以登師儒、局列校室、以來雋秀、是焉者、処于東偏。又為二庫、藏賜書以勗生徒之業、積礼器以謹春秋之祀、是焉者、居于西偏。學之稽古、先乎制度、乃案三代車旂器服、囙之屋壁、使來者觀之、煥然在前 (中略)。王君能尊仲尼無窮之教、宣當世所宜之治、修詞宮、建學館、知為政之本、故不敢讓而記。</p>	<p>〔彫刻・画〕 興國軍重修文宣王廟 凡爵於唐、讚於先朝、作配從祀、及得囙形太學者、塑坐繪立、咸備其制。乃案三代車旂器服、囙之屋壁。</p>	文569
16	卷6	惠州海豊県新修文宣王廟記	<p>(前略) 吾友譚君、初命為海豊、民守農畝、吏守曹事 (中略)。旧有廟學処之西偏、編竹覆葵以為其宮、隙雨霾風以昏其像。歲二月上丁、率諸生祇其常事、跼蹐庭下、退与諸生謀建新廟而崇學館、諸生聞之、願傾私楮以贊其成。遂狀其事、得請於州。徙祠舍於邑之東南隅、伐山斂材、易葵以瓦、冕服玉璫、儀容大備。顔子西嚮以為先師、十哲坐塑以為從祀、丹朱其器以薦乎牢醴、望白其堂以業乎講誦 (中略)。今海濶遠國、王化広被、夫子之道、同其汙隆、興葺饗舍、希風鄒魯、此亦政之所存焉耳、乃書之以示於後。康定二年六月日記。</p>	<p>〔彫刻〕 惠州海豊県新修文宣王廟 冕服玉璫、儀容大備。顔子西嚮以為先師、十哲坐塑以為從祀。</p>	文569



17	卷8	江州廬山重脩崇勝禪院記	(前略)大江之南、号为山水奇勝、廬阜又為諸山之最(中略)。崇勝禪院、江南李氏乾德三年所建也(中略)。景祐初、久虛禪席、於是州將而下、僉議立刹、廣詢法王之器、授之猗座、遂得今禪祖珂師焉。寺之故居庫陋、不足容四方之來。一日、珂師言于衆曰、吾以諸法一味、離去世間染淨、所厭一切差別境界、無有少法可說、乃能入于如來難思智地。然而一切諸善、皆由信起、不有莊嚴、何能起信。若寂然無營、則陷于因任止滅之病矣。衆聞是說、翕然從風、其堂皇殿、廡序闔管庫之不如制者、一皆新之。築基而飭材、陶土而礱石。肖像設色、衆工攸序、棟宇輪奐、見者起恭。師以善教而流布其法、以信而募其貨、以智而役其工。自丙子經營、至甲申落成、軒檻迴合、凡三百余楹、雕琢金碧、皆極研麗(中略)。慶歷五年月日記。	江州廬山重脩崇勝禪院 大江之南、号为山水奇勝、廬阜又為諸山之最。 肖像設色、衆工攸序。	文571
18	卷8	潮州開元寺重修大殿記	(前略)潮於嶺表為富州、開元于浮屠為冠寺、暢師於僧官為極選、又以金仙氏福報性學之說、開導於人、故其答者如響之應。先是、寺有羅漢殿者、歲時浸深、基傾棟圯、瓦焉是懼、風雨何庇。乃創是事、鼎而新之(中略)。金碧之飾、雕繪之巧、美梓密石、厥制備焉。自釈迦金人都從至于五百羅漢之容、率飭化而像之、歸于莊嚴而已矣。又為二樓、一儲本朝累賜太宗睿烈皇帝御書、真宗章聖皇帝及今皇帝御製、一鼎洪鐘而對峙之。康定庚辰乃始基之、慶歷癸未而告厥成(後略)。	〔彫刻・画〕 潮州開元寺重修大殿金碧之飾、雕繪之巧。自釈迦金人都從至于五百羅漢之容。 〔書〕 又為二樓、一儲本朝累賜太宗睿烈皇帝御書、真宗章聖皇帝及今皇帝御製。	文571
19	卷8	潭州興化禪寺新鑄鐘記	金鼓所以警衆也。衆之攸居、非夫疾譟大呼、安能齊一。必以声宏碩而遠聞者、為其節焉。京洛之制、睥睨置鐘、節昏曉也、舍衛之法、衆集撞鐘、節進退也。則知鐘之為用尚矣。興化禪寺、唐景福中所建、其營造之因、景物之美、則寺記存焉。國家承天立極、四聖繼統、日月所照、罔不丕冒、民去兵火之厄、將百年矣。由是僧徒之博識雄弁者、得以仙事率導其間。故其金壁莊嚴之像、榱桷輪奐之室、日完月構、時興歲廣、不得不益壯而增華也。凡百供器、還視初制、豈不狹小哉。鐘之當易宜矣。本朝銅禁尤嚴、私無銖蓄、僧坊道具、官為製而給之、惟鐘之巨、則許入金而賦銅焉。長老僧紹銑以易鐘事聞州、內閣劉公為之上白、朝旨從之。廼募信士、得予章朱氏捨錢二百万、為檀施之首、衆遂響從。購良冶於余杭、積勞数千工、用覓氏之劑、事皆素練。以恭謝改元之明年正月三日、鼓鑄於寺之東隅。群僧讚咀、以俟其成、鄉坊士女、捐金錢以助其鍊。自寅訖巳、一鼓而就。越三月、陞之重屋、會闔郡僧俗食而擊之、声聞數百里、真招提之壯觀也。自鎔範及考擊之始、予与群官偕往視之、既嘉其工之巧而賞之、仍鐫名於鉦銑之間、紹銑又伐石乞詞、以誌歲時。嘉祐二年四月日。	〔工藝〕 潭州興化禪寺新鑄鐘	文571
20	卷9	東京左街永興華嚴禪院記	上都華嚴禪院者、故崇儀使、文州刺史岑君所創也。岑君諱守忠、早侍兩宮、屢使於外、欣慕禪學、遂發洪願。天聖五年、布金易地、於國城之東、始建精舍、以待什方緇旅。明年、上賜錢俸之構堂、以安清衆、而後架具焉。章獻皇太后崇其閑閣、而鍾梵全焉(后以資福院燒香鍾賜之)、章惠皇太后益其度閣、而厨庫備焉。越明年、賜額為永興華嚴禪院(中略)。慶歷二年、上始賜重陽頌、師即箋注進呈、上覽之大悅、特賜紫方袍以寵之。繇是御書偈頌、提綱語句、動盈卷軸、師悉箋而訓之、聖矚益厚。後三年、復賜大乘頌、師亦箋和進。上愈嘉之、賜号円明大師。初、岑君於錢塘雕造廬舍那仏、文殊、普賢等像、布而漆之、工未半而不祿、匠氏淪斃者六年。師乃親詣余杭、用錢三百万、命工畢其裝繪、舟挽而歸。師既還闕、上撫問錫賚、頗復優厚、累賜御頌、御書、金帛、香藥等、頻詔入化城殿昇座說法、咫尺天顔、激揚宗要、并賜筆硯、令進禪頌、仍賜御儲、衣物飛帛書等、就大相國寺西廡賜解院一区、以為朝宿之地。尋以聖藻宸翰、溢於居室、因構閣以藏焉、示不敢褻近也。因賜琉璃瓦覆之、并賜御飛帛書、額曰龍奎之閣(中略)。至和元年、內出水陸画像五百余軸賜之、廼即西北隅靚造堂、為供設之所、再蒙御飛帛書、賜名洪濟之殿。宣中使押左右街僧道威儀、教坊鈞容班樂、輦卒衛兵、奉迎至院。嘉祐二年、特勅加賜明悟禪師之号、恩無出其右者。師以為信之所起、必始於莊嚴、故不憚於有為也。理之所通、必去其攀緣、當遺照而無著也(中略)。嘉祐四年十二月日記。	〔書・彫刻・画〕 東京左街永興華嚴禪院 御書偈頌 初、岑君於錢塘雕造廬舍那仏、文殊、普賢等像、布而漆之、工未半而不祿、匠氏淪斃者六年。 師乃親詣余杭、用錢三百万、命工畢其裝繪、舟挽而歸。 御飛帛書、額曰龍奎之閣。 至和元年、內出水陸画像五百余軸賜之。 再蒙御飛帛書、賜名洪濟之殿。	文571

21	卷9	惠州開元寺記	(前略)有唐開元、天子号令、翔於四海、每為新制、以自張大。乃命祠曹、州挾一最勝寺、易以年名冠之、俾後世知声教之広被也。故天下寺以開元名者、必基爽塏、拋形便、祠宇最壯、像設最嚴、網維最親而不苛、制度最古而有序。惠州治城之南二里、則所謂最勝之寺(中略)。至開元二十八年、乃賜今号、奉安睿宗皇帝御容、至今存焉(中略)。咸平三年、以鬱攸之災、悉為煨燼。不有廢也、其何以興。於是即其旧基、沿同革異、或出自私楮、或募於檀信、凡為棟宇若干間、堂殿若干所。扶土設色、肖像而争勤、捐金弛具、不謀而同力。禪徒律学、各有攸居(中略)。康定二年龍集辛巳六月日記。	惠州開元寺 奉安睿宗皇帝御容、至今存焉。	文572
22	卷9	韶州月華山花界寺伝法住持記	(前略)月華山者、招提惠朗禪師演法之地也。招提視大鑑猶曾祖父也(中略)。招提既没、衆散而寺亦榛廢、其後百余歲、当劉氏称漢於南海也、有実智禪僧清裔者、自範金銅羅漢像十八軀進獻劉主中宗、因得延見、引問之際、器識高遠。劉主乃於碧玉殿備浮囟氏威儀、俾裔升正座說法、其主自処西嚮聽之。仍俾奉羅漢像、自銓勝地、以囟薰修。乃即招提故基置寺、以国命賜名、龕其像、至今存焉(後略)。	〔彫刻〕 韶州月華山花界寺 自範金銅羅漢像十八軀進獻劉主中宗。	文572
23	卷9	惠州羅浮山延祥寺記	(前略)羅浮山者、越之望也(中略)。茲山精藍十余、而延祥之基最古(中略)。唐開元二十六年、西域僧乾末多羅以鉄肖釈迦真像、浮海而去番禺。天宝二年、中貴人何行成以祠事将命、遂迎其像置山(中略)。初、鉄像之来也、扶土以具其四体、及祥符初、住持僧彦課乃購金雇工易之以鉄、而像始完(中略)。康定二年六月日記。	〔彫刻〕 惠州羅浮山延祥寺 西域僧乾末多羅以鉄肖釈迦真像。 初、鉄像之来也、扶土以具其四体、及祥符初、住持僧彦課乃購金雇工易之以鉄、而像始完。	文572
24	卷11	母追封齊国太夫人常氏可追封国太夫人	勅、朕統承鴻祚、称秩明禮、親享七室、升侑列聖。嚴恭寅畏、克終祀事。歛時百禄、敷錫兆民、嘉与輔臣、共蒙繁祉。某母某氏、柔明著美、淑茂流声、從婦順而有融、鑑女囟而成德。聿昭慈訓、克懋閨風、曷子舍以能賢、被国恩而為耀。再加象服、式賁松墟。可。	鑑女囟而成德。	文556

## 20 韓琦 (1008~75) 『安陽集』五十卷

字は稚圭、号は贛叟、諡は忠獻。相州安陽(河南省)の人。天聖五年(1027)の進士。范仲淹とともに西夏防衛に活躍し、嘉祐元年(1056)には枢密使、三年には同中書門下平章事に任じられ、英宗朝にも引き続き宰相を務めた。神宗朝には故郷に身を引き、元老として新法を批判した。儀国公、衛国公、魏国公に封ぜられた。『宋史』312。『全宋詩』318~338。『全宋文』832~861。

1	卷1	和袁陟節推龍興寺芍薬	(前略)遂令天下走香名、髣髴丹青競誇詫。以此揚花較洛花、自合揚花推定覇。其間絶色可粗陳、天工着意誠堪訝。(中略)双頭両両最多情、象物更呈鞍面窓。樓子亭亭欠姿媚、特有怪状堪囟写。見者方知画不真、未見直疑伝者詐(後略)。	〔花〕 芍薬	詩318
2	卷1	闕古堂	仲尼大聖人、文武亦云学。况其下者乎、而不事碧琢。伊予之逢辰、進本任愚樸。今辱寄中山、地重扼幽朔。日懼不克堪、誤上所東擢。古之良守帥、功業甚奇卓。思以救空疎、志慕極堅確。後圃新吾堂、左右謹囟摸。公余時縱觀、大可儼齷齪。奔雷發聲噴、皎日破昏濁。苟能奉規矩、曷愧大匠斲。或此賢貞僚、指顧便揚擢。四座企清風、耳目外優樂。子好虚名哉、事实出誠慤。庶幾得消塵、聊以助海嶽。唯有大忠心、不在先覺覺。	闕古堂 後圃新吾堂、左右謹囟摸。	詩318

3	卷2	謝宮師杜公寄惠草書	公之德業天下重、四海万物思坏鑪。太平之策未全發、先朝請老叩帝居。天子只欲勵薄俗、不惜一夔從二疎。公持儉節出天性、下逮万世清風孤。婦卜睢陽旋營第、棟宇僅足容妻孥。自此間燕何所樂、非糸非竹非歌壺。經史日與聖賢遇、參以吟咏為自娛。興來弄翰尤得意、真楷之外精草書。因書乞得字數幅、伯英筋肉羲之膚。字体真渾遠到古、神馬初見八卦圖。精神熠熠欲飛動、鸞鳳鼓舞龍蛇據。天姿瘦硬斥俗軟、狂藤束纏巖松枯。中含婉媚更可愛、千葩万萼爭春敷。開合向背一皆好、造化欲銜天工夫。張旭雖顛懷素逸、較以年力非公徒。公今眉寿俯八十、老筆勁健自古無。固知大賢不世出、百福來萃相所扶。公之佳壻蘇子美、得公一二名已沽。矜奇恃雋頗自放、質之公法慙豪籠。乘歡捧以示僚屬、一坐駭歎且呼。便欲刻石傳不朽、荒辺匠拙無人模。歸來一一戒兒姪、秘重世與家謀俱。重巾密窰寘吾室、寶護直比驪合珠。神物孰敢容易探、雷電霹靂來湏臾。	〔書〕 杜公 草書 張旭 懷素	詩319
4	卷2	遊開化寺	開化得地勝、崇侈何代作。全山鑱仙身、万木亘高閣。突然數百尺、較力陋禹鑿。峰巒翠環合、與寺為郭郭。煙霞無四時、為我張〔去〕幙幙。飛泉乘空來、直在庭砌落。松柏森成行、鬪狀蛟龍惡。如整万人陣、偏伍不敢錯。春芳難悉名、紅紫競灼灼。點綴巖壁間、圖画曾未若。距成纔一舍、曠絕類霄堦。噫吾何自勞、日窘吏事縛。到官踰二基、未克造林壑。引疾得鄉邦、昼錦行遂著。猛拋公几煩、不負真境約。精廬始一登、百慮已澄括。徘徊延賓僚、開席盛燕酌。歌留嶺上雲、吹亂風前鐸。勿譏清賞累、粗繼東山樂。數刻方暫歇、俄景忽西薄。歸鞅下危岑、眷戀心欲却。何處無林泉、隔閭牽寵爵。終期報國家、功業效涓勺。連露乞骸章、不待七十削。歸來解朝紳、放意任衡霍。超然出世紛、安步適沖漠。山蔬充盤筵、村釀滿瓢杓。吾壽此其全、何必不死藥。	開化寺 點綴巖壁間、圖画 曾未若。	詩319
5	卷2	答章望之秘校惠詩求古瓦硯	魏宮之廢知幾春、其間万事成埃塵。唯有昭陽殿瓦不可壞、埋沒曠野迷荒榛。陶甄之法世莫得、但貴美璞踰方珉。數百年來取為硯、墨光爛發波成輪。求之日盛得日少、片材無異圭璧珍。巧工近歲知衆寶、雜以假偽規錢緡。頭方面凸概難別、千百未有三二真。我來本邦責鄴令、朝搜暮索勞精神。遺基懷地偏阮窟、始獲一瓦全元淳。蘇斑斑骨尚乾翠、夜雨點漬痕如新。當時此復近簷溜、印以篆字花其臂。磨礱累日喜成就、要完旧質知無倫。吾才寡陋不足稱、思與好古能文人。好古能文今者誰、武寧秘書章表民。無詩尚欲兩手付、何況大雅之奏聞鏗純。	〔文具具〕 古瓦硯	詩319
6	卷2	答陳舜俞推官惠詩求全瓦古硯	鄴宮廢瓦埋荒草、取之為硯成堅好。求者如麻幾百年、宜乎今日難搜討。吾邦匠巧世其業、能弁瓌奇幼而老。隨材就器固不遺、大則梁棟細棼橈。必須完者始稱珍、何殊巨海尋三島。荆人之璧尚有瑕、夏后之璜豈無考。况乎此物出坏陶、千耕万斲常饑饉。吾今所得不專全、秘若英瑤藉文縑。君詩苦拙未如意、持贈只虞哈絕倒。君不見鎮圭尺二瑁四寸、大小雖異皆君寶。	〔文具具〕 全瓦古硯	詩319
7	卷2	觀胡九齡員外画牛	丹青之筆奪造化、能者幾何登品錄。蛟龍獐惡鬼神怒、更工不接時人目。有形之物至者稀、是否難欺衆所矚。絳台胡掾文章外、偏向画牛其好酷。海内馳名三十年、得者珍藏過金玉。老來纔始着青衫、養親不及朝家祿。前日野服忽相過、云訪恩知走京轂。微風入指未能画、示我蠟本數十幅。採摭諸家百余狀、毫端古意多含蓄。鬪者取力全在角、臥者稱身全在腹。立身髣髴精神慢、背者分數頭項促。行者動作皆得群、乳者顧視真怜犢。当流泗戲益自在、欲渡或疑猶蓄縮。從容飲嚙得天真、荷鞭時有童兒牧。或橫一笛坐牛角、便是無声太平曲。江天雨雪易溟濛、風勢掀号摧古木。欹斜蓑笠趁牛歸、蕭疎暮景煙村宿。奇哉胡掾老筆不可到、戴叟重生湏死伏。吾觀諸牛之態雖盡妙、尚有所遺思未熟。牛於生民功最大、不画牛功牛亦辱。胡君胡君聽我言、別選輕綯成巨軸。写出区区未耜勤、貴知天下由吾方食足。	胡九齡 画牛	詩319

8	卷4	龍	育德知何宅、逢辰或見靈。配乾雖有象、作解本無形。泱物周寰宇、遺功在杳冥。丹青如可狀、試下葉公庭。	龍 丹青如可狀、試下 葉公庭。	詩321
9	卷5	謝丹陽李公素學士惠鶴	高籠携得意何勤、玉樹慙無可待君。只愛羽毛欺白雪、不知魂夢託青雲。孤標直好和松畫、清唳偏宜帶月聞。自有三山歸去路、莫辭時暫處鷄群。	鶴 孤標直好和松畫、 清唳偏宜帶月聞。	詩322
10	卷6	喜雪	朔雪飛殘臘、融和變凜嚴。徐來花出在、驟急霰聲兼。數住天心惜、爭繁酒易添。積深函久潤、濟大略微嫌。雅意明書幌、多情入宴簾。舞腰難學軟、峰頂尚饒尖。露蘂仙盤挹、風毛鬣困燻。宮牆胡粉畫、梅梗蜀酥黏。影淡三春絮、光寒八月蟾。垣塗誰復弁、巨壑有何厭。狂助詩毫逸、清驅厲氣潛。歡謠騰紫塞、喜色上彤幘。凝霰収冰乳、堆庭鏤虎塩。吾民無足慮、豐歲可前占。	雪 宮牆胡粉畫、梅梗 蜀酥黏。	詩323
11	卷6	閱古堂八詠 牡丹	極塞將何奉燕娛、牡丹池館一株無。誰人會我栽培意、欲見吳宮小陣囚。	牡丹 欲見吳宮小陣囚。	詩323
12	卷6	閱古堂八詠 芍藥	從來良守重農桑、何事栽花玷此堂。已愛昔賢形藻繪、更移嘉卉伴馨香。	芍藥 已愛昔賢形藻繪	詩323
13	卷6	閱古堂八詠 垂柳	東君於此最多情、先與黃金撚畫成。何似亞夫堅壁地、因人千古得嘉名。	垂柳 先與黃金撚畫成。	詩323
14	卷6	閱古堂八詠 疊石	疊疊雲根漬古苔、煙巒隨指在庭堦。主人未有銘功處、日視崔嵬激壯懷。	〔石〕 疊石	詩323
15	卷6	七夕同末伏會衆春園	七夕今同末伏辰、方塘消暑集珍群。嬌鸞萬囀風前曲、秀嶺千層水上雲。幽鶯倚浦真入畫、香荷擊酒不須薰。天孫莫羨機頭巧、倒載歸來豈羨君。	幽鶯倚浦真入畫、 香荷擊酒不須薰。	詩323
16	卷6	次韻答侍讀張龍圖索閱古堂詩石本	千年賢迹一堂間、日企英風敢自安。爭似公陳無逸義、君王因入殿屏看。	爭似公陳無逸義、 君王因入殿屏看。	詩323
17	卷6	賔鴈	候時賔鴈覺秋分、便委胡霜遡楚氛。一片畫屏橫遠岫、幾行書字帖輕雲。信通離閣誠虛語、聲到英雄似不聞。莫趁衡陽戀閑暖、南兒繪繖正紛紛。	鴈 一片畫屏橫遠岫、 幾行書字帖輕雲。	詩323
18	卷8	早赴墳莊	疊疊山依皦曉霞、義輪騰海露天涯。一川凶画秋方靜、萬積〔去〕京坻穀尽搓。旧鄴余風含古意、太行高景落詩家。訟庭經日如僧舍、又到村居倚將牙。	一川凶画秋方靜、 萬積京坻穀尽搓。	詩325
19	卷8	寒食會康樂園	欲識芳園立意新、康辰聊以樂吾民。天収寒食時來雨、人得常年數倍春。密密樓台花外好、蚩蚩歌舞醉中真。朝來必要升平象、請繪輕綃獻紫宸。	朝來必要升平象、 請繪輕綃獻紫宸。	詩325
20	卷8	拜西墳	樓角声喧促曉更、致虔瑩域出西坰。春山帶雨和雲重、麥隴如梳破雪青。鄉樹溟濛天水墨、村農淳野古畦丁。陰迷俄景催歸馭、暫向東風俗眼醒。	鄉樹溟濛天水墨。	詩325
21	卷8	寄并帥龐公古瓦硯	鄴瓦搜來頗異常、寄誠安足奉文房。早陪神化丹青筆、莫滯迴書赤白囊。	〔文具〕 古瓦硯	詩325
22	卷8	次韻答并帥龐公謝寄古硯	誰伝石末首青州、鄴硯今推第一流。更好豈堪濡化筆、報瓊終念木瓜投。	〔文具〕 古硯	詩325
23	卷9	御製天章閣觀三聖御書奉聖旨次韻	寶閣三休地、琅函列聖文。天章橫紫極、洛字覆青雲。花拆驚雷起、龍騰駭浪分。宸毫知善斷、更嗣禹邦勤。	〔書〕 天章閣 三聖御書	詩326
24	卷9	天章閣觀御飛白五言十韻	內閣門清曉、中天對邇臣。唐虞遺典在、河洛奧書陳。二聖勤勞旧、千齡矩法新。帝暉方咫尺、宸翰復躬親。鸞弘宮綉舞、花隨御筆春。奎光連壁府、劍影動龍津。今古神功絕、頒宣上意均。玉峰羅俎豆、黼坐拱星辰。魚藻符亨會、蓬瀛寄此身。流霞仙飲罷、又賜一杯醇〔聖恩勸酒、唯臣再賜巨杯〕。	〔書〕 天章閣 御飛白	詩326
25	卷9	答定帥仲儀龍圖寄示閱古堂詩刻	好勝時多尚已為、前人勳力必隨隳。所凶嘗草猶如是、欲樹功名即可知。昔慕先賢形藻繪、本同來哲作箴規。得公詩刻增光燄、定警媮風變俗漓。	昔慕先賢形藻繪、 本同來哲作箴規。	詩326

26	卷9	中書東序十詠 仮山	危峰疊疊起丸泥、莫愛幽奇是仮為。黃閣何功宜自劾、去尋真隱老衰疲。	仮山	詩326
27	卷10	先君写真得永叔為之贊而君謨書其側崔公孺國博以詩稱美次韻答之	遷筆褒揚逸少書、孤風弘弘起襟裾。孝心如觀英靈在、世系元承福慶余。永向淨居同相好（真置墳）、任從深谷改丘墟。君詩意主稱人善、義節軒然到古初。	先君写真 永叔（歐陽脩）贊 〔書〕 君謨（蔡襄）書	詩327
28	卷10	次韻和崔公孺國博觀君謨所書孝親崇福院牌	欲護親塋薦福殊、僧藍營葺幾年余。名因先帝鴻恩錫、牌得君謨大字書。仙宇增輝良自爾、鄉廬佖美孰加予。須知依法多奇處、深造鍾王奧妙墟。	〔書〕 君謨（蔡襄）所書 孝親崇福院牌	詩327
29	卷10	次韻和崔公孺國博觀新模鄴王書	唐季諸侯孰擅雄、鄴邦高襲世勳洪。因功自可超煙閣、接士殊優在雪宮。刀筆風流爭戰外、生靈安帖笑談中。詩豪墨妙家藏久、二美刊傳定不窮。	〔書〕 新模鄴王書	詩327
30	卷10	次韻和崔公孺國博觀新模正獻杜公草書	珍藏正獻草書詩、伝誠雲來示永貽。幾夜風濤偃松栢、半天雷雨起蛟螭。臨池學苦心同妙、舞劍功如未是奇。刊石豈徒為世玩、更思清節可師之。	〔書〕 新模正獻杜（衍） 公草書	詩327
31	卷10	次韻和崔公孺國博模刻文正范公閣古堂詩	閣古堂成在北邙、希文詩筆美前賢。高吟尚紀終軍策、小字如觀樂毅篇。欲起貴名增世慕、更刊余札庠人伝。其他事業知難泯、尽入仁宗實錄編。	〔書〕 模刻文正范（仲淹） 公閣古堂詩	詩327
32	卷11	登崔園城上亭	危樹压頽基、登臨事可悽。邱墟唐殿左、禾黍漢宮西。山川難盡識、頼有旧囚携。	山川難盡識、頼有 旧囚携。	詩328
33	卷12	題希夷先生真堂	伊昔天真被謫書、亦教人境得仙居。開門翠靄三峰近、合眼紅塵万事疎。髣髴旧容蟬已蛻、徘徊高隱室猶虛。何時俾伴赤松子、穩駕尋君物外車。	希夷先生真	詩329
34	卷13	雪霽登休逸台	休逸台頭雪乍晴、病眸雖洪亦增明。幾年無此三農樂、万物皆隨一氣清。脩竹拒寒森晚節、垂楊偷潤裊春情。当軒欲繪西山景、巧筆何人似李成。	当軒欲繪西山景、 巧筆何人似李成。	詩330
35	卷14	又寄二闋	月榭風亭勝雅名、主公閑適愈多情。芳樽屢酌瀛洲上、誰聽霓裳散序声。到处園亭列画屏、四時如只在仙局。帰來便是無為樂、不必重箋道德經。	到处園亭列画屏、 四時如只在仙局。	詩331
36	卷14	春陰席上	臘寒初破作春陰、澗洪銅鳥遠漏沈。氣拍笙簧声易軟、澗勻梅柳色潜深。已摧豪俠將狂興、更惱衰殘欲病心。任展輕綃誰画得、霧昏樓閣半遙林。	任展輕綃誰画得、 霧昏樓閣半遙林。	詩331
37	卷14	過全福寺	伊昔豪英襲牙符、更崇因果欲何加。精藍世自伝緇服、繪像塵誰障碧紗。詩好盈編堆錦組、字奇隨筆走龍蛇。空余旧史高風在、衰替嗟吾外氏家。	精藍世自伝緇服、 繪像塵誰障碧紗。	詩331
38	卷17	聞致政趙少師遠訪歐陽少師于穎川	一憶賢交動至誠、安車雖遠必勤征。荀陳為会還推象、嵇呂相思不問程。洛社成因茲易合、越溪回權彼何情。西湖便是瀛洲上、莫接仙遊跨海鯨。	洛社成因茲易合。	詩334
39	卷19	次韻答文侍中寄示韓晉公村田歌舞圖顏魯公跋尾仍使題于後	韓画顏書世絕殊、鈴齋時足奉驩虞。跋題応命誠羞洪、不是跳龍臥虎徒。	韓（滉）晉公 村田歌舞圖 顏（真卿）魯公跋	詩336
40	卷20	次韻答趙少師以南京永壽禪院主僧崇祐於新鉄鑄仏大殿後建堂写真於其中	懷德思人始繪容、不緣斯举理難窮。兔園何有安民迹、鷲嶺兼無護法功。名姓不伝勳閣上、儀形徒入梵祠中。願更此誤図公像、公行宜居極樂宮。	〔彫刻〕 新鉄鑄仏 〔画〕 （崇祐）写真	詩337
41	卷20	次韻和文潞公題王右丞維綱川図	綱川誠自好、人各愛吾園。欲縱家山樂、終糜吏事繁。鴻飛思避弋、羝觸困羸藩。幾日掃陶徑、方知踐此言。	王右丞維綱川図	詩337
42	卷20	次韻和文潞公題韓晉公村田歌舞図	升平胡可狀、歌舞入樵蘇。歲美人皆樂、朝和野共娛。心休無事擾、本固絕顛扶。我願明時治、長如此画図。	韓（滉）晉公 村田歌舞図	詩337
43	卷21	定州閣古堂記	慶歴八年夏五月（中略）、会郡圃有壞亭、歳久不葺、於是広之為堂。既成、乃摭前代良守將之事實可載諸図而為人法者、凡六十条、繪於堂之左右壁、而以閣古為堂名。夫古猶今也、古之人為屏翰、授鉄鉞、而能成異政、立奇功、而今或不能者、何也。蓋其待已也必賢而足、其報祿也必利而安、持是以望政成而功立、不其難哉（後略）。	閣古堂 乃摭前代良守將之 事實可載諸図而為 人法者、凡六十条、 繪於堂之左右壁、 而以閣古為堂名。	文854

44	卷21	并州新修廟學記	<p>(前略) 太平興國四年、太宗皇帝平偽劉、一天下、壞太原故城、徙州榆次。又三年、復遷於唐明 (中略)。視夫子之廟、尤為不急、置城之東南隅、體陋而削、僅有祠所。景祐中、康靖李公若谷首即廟建學、得賜田贍學徒、而人始樂教。慶歷初、文烈明公鎬又建禮堂於夫子之殿北、而講始有容。然皆因仍故基、地愈偏隘。其後生員浸廣、至坊東西序所囿諸弟子室而處之。二時積糞、三獻從祀、官與學生執事者、不能偏列於庭、半立廟門之外。皇祐五年春、某忝被州寄、受署來謁、知於禮之瀆、而未皇改作、始奏隰州司戶參軍牛景充教授、以專學識。明年秋、大穰、民安事簡。於是馳使東魯、得仙源廟圖像冠服之實、買民廟北地、命崇儀使、并代州宮內兵馬鈐轄張僕、右侍禁、兵馬監押王守恩、集工視役、徹其旧而一新之。然後殿殿眈然而雄、眸容儼然而尊。顏氏以降諸弟子、孟氏以降諸大儒、或像而侍、或囿而列、次序於堂廡之間、煥然大備 (中略)。至和元年某月某日記。</p>	<p>〔画・彫刻〕 并州新修廟學 仙源廟圖像冠服之實 之後殿殿眈然而雄、眸容儼然而尊。顏氏以降諸弟子、孟氏以降諸大儒、或像而侍、或囿而列、次序於堂廡之間、煥然大備。</p>	文854
45	卷21	相州新修園池記	<p>相於河朔為近藩、而地据形勝、西走鎮、定之衝、屯師積穀、與邊鎮相左右。然當無事時、州之武備、日懈不嚴 (中略)。予之來、雖以病不堪事、然猶不敢偷安自放、而忘治之所急。於是闢牙城而北之、三分蔬圃之地、其一居新城之南、西為甲仗庫、凡五十六間、由是兵械百萬計、始區而別焉。以庫東之余地、通於後園、由是園之南北、始與東西均焉。又於其東前直太守之居、建大堂曰昼錦、堂之東南、建射亭曰求己、堂之西北、建小亭曰広春。其二居新城之北、為園曰康樂、直廢台鑿門曰通之、治台起屋曰休逸、得魏冰井廢台鉄梁四為之柱。台北鑿大池、引洹水而灌之、有蓮有魚。南北二園、皆植名花雜果、松柏、楊柳所宜之木、凡数千株。既成而遇寒食節、州之士女、無老幼皆摩肩躡武來遊吾園。或遇樂而留、或挾勝而飲、歎賞歌呼、至徘徊忘歸。而知天子聖仁、致時之康、太守能宣布上恩、使我屬有此一時之樂、則吾名園之意、為不誣矣。觀吾堂者、知太守仗旄節來故鄉、得古人衣錦昼遊之美、而不知吾竊志榮幸之過、朝夕自視、思有以報吾君也。登吾台者、西見太行之下、千山万峰、延亘南北、争奇角秀、不可繪画、朝嵐暮靄、變態無窮、俯視郭郭之中、民閭官寺、伽藍廡、與夫花顏柳色、紅綠交映、燦然如指掌之上、一無遺者、而知太守興此、為我屬歲時休暇優逸之觀、而不知吾亦自謂能勤於作德、然後處茲而休且逸也。夫予始以武備不嚴、不敢以疾而忘治之所急、而因得志其榮遇、以及衆人之樂、則是幸也、豈無益之為哉。故直書大概、并告來者。夫郡縣之為政、有期而更也、政有所利、非一人能保其久也。前倡之、後繼之、推其心、以公而相照、則國家之事無不濟者、况一園池之末哉。葺之廢之、必有能弁其心者。時至和三年三月十五日記。</p>	<p>〔庭・園〕 相州新修園池 争奇角秀、不可繪画。</p>	文854
46	卷23	題柳仲塗天平山記後	<p>林慮天平山者、天下絕勝之境也。山有僧院曰、明教、余三來守相、欲一觀而未得。每僚屬出按泉、與夫過客之好事者、悉能往而游焉、回必大詫於余曰、是矣雄偉秀拔、不可囿画、雖東南諸山素有名者、皆所不及。余姪壻柳材者、本朝大儒仲塗公之孫也。余嘗得公所撰游天平山記於材家、見其所叙游覽之勝、凡山之諸峰與巖洞、潭谷、澗谿、泉石之名、無不具載。而聞今之所稱、類多與公所記改易不同。於是余益欲往周訪其實、統為說以明之。而院之主僧智因者、得美石、欲先以仲塗公之文刻而傳之、故余未克如其志。噫、公之此文、不傳久矣、非余得于其家、而因師之勤如此、是必沈鬱而不顯。抑公之文、固有神物所護、使卒能傳之也邪。既刻石、余因舉其大略、以書於後。具位韓某題。</p>	<p>〔叙景〕 天平山 是矣雄偉秀拔、不可囿画。</p>	文853

47	卷23	五賢贊（并序）	<p>余既新夫子之宮、乃繪諸弟子及左氏而下積經諸儒於東西序。又囙孟、荀、揚、王、韓五賢於書樓之北壁。遣人自國庫得前人所撰孔子弟子暨經諸儒之贊、署於其側。獨五賢者無贊焉。諸生欲其速備也、亟請鄙文以補之。余惜其欠、諾焉而不敢讓。既而嘆曰、夫五賢者、聖人之亞、學者之師、諸生姑欲速一時之備、使余不暇求當世能文者為之辭、而輒易言之。世且譏我、諸生豈愛我哉。雖然、孔孟之道、堯舜之德、而塗巷之人亦能稱誦之、同推其善而已矣、知我者宜恕焉。</p> <p>孟子 昔周之衰、仲尼已矣。戰國相囙、唯利之喜。諸子紛紛、乘弊而起。聖道之塞、實生荆枳。其誰闢之、獨我孟氏。堯舜吾吭、仁義吾齒。芟楊翦墨、路平如砥。驅彼後覺、一趨聖軌。惟先文公、盛道其美。存而醇者、孟氏而止。欲觀聖人、必自孟始。較其大功、蓋禹之比。嗚呼賢哉、道孰可擬。孔子之後、一人而已。</p> <p>荀子 諸子之興、實自周季。各持其言、求售於世。六國好權、遂甘其說。或嵬而師、或瑣而位。吾道日昏、斯文將墜。時則荀卿、力攘衆偽。述數萬言、以見其志。區判儒墨、統維仁義。時或用焉、至王則易。文公之篇、論亦云至。始考其辭、若不醇粹。及其要歸、鮮與孔異。雖小疵焉、道則奚累。軻、雄之間、在我無愧。</p> <p>揚子 書煨秦火、鬱而未光。在漢之武、始焉表章。去聖云邈、微言孰詳。人各名家、尚迷大方。及其季也、篆刻相攘。賢乎子雲、翼然高翔。學通天地、道該帝皇。筆之於書、德音洋洋。周孔之法、弛而再張。鄙哉史堅、而不自量。非聖作經、引為謗傷。經者伊何、乃道之常。苟能明道、胡用不臧。豈比吳楚、僭号称王。一時之譽、万世之長。故嗣孔孟、曰荀曰揚。</p> <p>文中子 炎劉既終、天下幅裂。擾焉及隋、人命將絕。時亦有文、甚乎剽竊。人不知非、万塗一轍。大道之鬱、幾乎息滅。伊我仲淹、獨參聖哲。遭世未夷、教其可闕。乃拳大法、備於中說。統彼六經、紹孔之烈。斯昔師荀、實相秦孽。叛師之言、儒坑書蕪。胡為房、魏、佐唐稱傑。達不稱師、惟德之劣。彼誠可罪、在我奚欠。荀之非孟、恣其毀牒。終孟之道、與孔並列。文公不言、是非孰別。學者之疑、茲焉可決。皮子之碑、司空之碣。惡可誣哉、万古昭晰。</p> <p>文公 有唐之隆、天下一字。滯焉以興、弊焉以補。獨時之文、蕩無所主。不淪沈、謝、則入徐、庾。其徒奕繁、罔不自許。獨吾文公、惟聖是矩。挺然一變、而至於古。道古之道、語古之語。學者靡然、始師而附。朱、翟塞塗、繫孟之禦。去聖匪遐、力則易拳。熾哉佞老、亂我中土。驅彼世人、日陷邪蠱。作蠹千祀、其孰敢侮。獨吾文公、既攻且拒。以身扞之、帝亦云忤。流離炎荒、道行躬苦。否則諸夏、化為夷虜。惟荀與揚、功實未伍。肩孟其誰、不曰吾祖。</p>	<p>五賢贊 孟子、荀子、揚子、文中子、文公 余既新夫子之宮、乃繪諸弟子及左氏而下積經諸儒於東西序。又囙孟、荀、揚、王、韓五賢於書樓之北壁。</p>	文855
48	卷23	三賢贊	<p>文正王公葬鄭州新鄭縣之臨洧鄉、而與鄭相子產、唐相裴度之塚相左右。其弟刑部侍郎致仕子融乃繪三相之像、置於墳之僧院、而屬余以辭、故為三賢贊云。</p> <p>子產 猗歟國氏、惟鄭卿臣。屈佐列國、道尊四鄰。鄉校勿毀、否吾可詢。輿誦勿斥、誨吾益諄。不改其度、而終感民。及其亡也、如喪所親。昔吾夫子、事若天倫。曰古遺愛、疇云不仁。東里之旧、清風未泯。九原可作、吾從惠人。</p> <p>裴公 猗歟裴公、唐相之賢。忠義獨出、誠貫於天。胡哉章武、言行計然。誓平蔡賊、不與俱全。卒殲大憝、再清幅員。身繫安危、凡二十年。江左王謝、胡能比旃。晚留東都、放懷林泉。進退之節、公無少愆。使公而在、吾其執鞭。</p> <p>王公 猗歟王公、佐我宋基。股肱兩朝、言臯行夔。獻后稱制、政由房帷。公時挺然、惟正是毗。竄姦進良、遂光重離。其重如山、烏可妄移。其平如衡、烏可妄欺。被公恩者、終身莫知。噫公之道、真相之為。公今亡矣、吾安傲之。</p>	<p>三賢贊 子產、裴公、王公文正王公葬鄭州新鄭縣之臨洧鄉、而與鄭相子產、唐相裴度之塚相左右。其弟刑部侍郎致仕子融乃繪三相之像、置於墳之僧院。</p>	文855

49	卷23	故衛尉卿贈兵部侍郎高公写真贊	元精之生、其稟固異。傑才之出、在時為瑞。貌正而和、氣清而粹。凜然乎神、瞭然乎視。其可繪者外也、老鶴之軒昂兮、孤峰之聳峙、其不可繪者內也、大易之淵微兮、素書之奧祕。其人雖亡、其形則傳。瞻之仰之、何窮已焉。	高公写真	文855
50	卷23	唐太子太師贈司空鄭國魏公贊（并序）	唐相鄭國魏公、魏之曲城人也。以命世之才、逢不世出之主、專以仁義之道、切磨規諫、欲俾厥后坐肩唐虞。謂守文之難、過於創業。帝用其說、不四三年遂興太平、較其大功、不下房杜。大名之學有鄉賢堂、蓋以故丞相文正王公、忠愍寇公、尚書忠定張公、侍郎王公、崇儀柳公、皆文武鉅賢、出吾里中、因其儀形而尊祀之、以起生徒之志、誠盛事也。然唐距本朝為最近、若鄭公之德業闕大、超然獨出、得不為鄉賢之冠乎。其可遺哉。余求得其像、建堂於宣聖殿之北、鄉賢堂之南、以完其美。昔成覲曰、彼丈夫也、我丈夫也、吾何畏彼哉。今夫學者既得良師友、朝夕講習開益、以進其善、又觀所因吾里之賢者隆名偉蹟、卓然不泯之如此、豈不思日彼能之、吾反不能哉。亦在乎勉之而已。系而為之贊曰、 猗唐魏公、相於太宗。諫勇賁育、切磨上聰。術則仁義、道惟大中。堯舜我后、臯夔我躬。遭會真主、言行計從。引金自況、謂公良工。以公喻鑑、煥乎吉凶。君如是聖、臣如是忠。宜不朞月、亟成治功。高視三代、誰其比隆。惟魏之學、鄉賢是崇。因祀者五、誠德之豐。公實生魏、群賢之雄。尊近遺遠、教斯未充。吾得公像、載歎儒宮。義一為勸、禮增有容。學者來視、以嚴以恭。高山景行、衆發其蒙。有美魏都、大河注東。如公之名、滔然不窮。	魏公贊 大名之學有鄉賢堂、蓋以故丞相文正王公、忠愍寇公、尚書忠定張公、侍郎王公、崇儀柳公、皆文武鉅賢、出吾里中、因其儀形而尊祀之、以起生徒之志。 余求得其（魏公）像、建堂於宣聖殿之北、鄉賢堂之南、以完其美。	文855
51	卷25	賀鴻慶宮奉安三聖御容禮畢表	臣某言、伏觀南京鴻慶宮奉安三聖御容禮畢者。商邱之地、王業所興、乃迹旧規、以新原廟。因三后顯昂之表、申四時忱惕之懷、熙事克成、普天同抃。中謝。伏惟尊号皇帝陛下以唐堯之仁睦親族、以虞舜之孝事祖宗、道格至平、民知大順。而猶慮列聖之游、有所未奉、尽物之薦、有所未虔、經制或隳、清衷是念。乃眷別京之重、實惟開國之基、靖館夙嚴、辟容攸宅、再謀崇葺、式示欽承。儻功之初、展禮咸備。事遵簡約、本達於至誠、天之監臨、宜輔於盛德。臣限拘官守、不獲奔赴闕庭、臣無任。	鴻慶宮奉安三聖御容	文833
52	卷33	中書進天章閣觀祖宗御集錫宴詩狀	右、臣等伏蒙聖慈召赴天章、宝文閣、觀祖宗御集、賜御飛白書、群玉殿錫宴者。二帝在天、多文垂世。並河洛圖書之奧、極天人精祕之微。皇帝陛下祇若先猷、秘於內閣、思崇寶訓、親發瑤函。爰命邇臣、獲窺聖作、從容便坐、揮發宸毫、咸有恩頒、又參宴集。芙蓉聖非常之寵、為臣隣莫大之榮。謹各賦成拙詩一首、繕寫進呈、洩瀆天聰、臣等無任。	〔書〕 天章、宝文閣、觀祖宗御集、賜御飛白書。	文837
53	卷41	仁宗皇帝哀冊文	維嘉祐八年歲次癸卯、三月癸卯朔、二十九日辛未、仁宗神文聖武明孝皇帝崩于福寧殿、旋殯于殿之西階。粵十月戊辰、朔六日癸酉、遷坐于永昭陵、禮也（中略）。乃命弼臣、以文佞信。其詞曰、 （中略）噫吾仁宗、澹無所樂。曰吾好者、在勤政道。日必旰晨、惟先之紹。間時弄翰、或隸或草。聖帝之揮、千奇万巧。去冬之暮、清燕之間。再闢天閣、詔呼從官。親作飛白、侍臣縱觀。心合造化、生成筆端。書幅踰百、大均龍顏。退坐群玉、行觴尽歡。嗚呼哀哉。賜墨尚濕。宸章未刊（後略）。	〔書〕 仁宗皇帝哀冊 間時弄翰、或隸或草。聖帝之揮、千奇万巧。 親作飛白、侍臣縱觀。	文832
54	卷43	祭正獻杜公文	維嘉祐二年歲次丁酉、二月丁未朔某日、具官某謹以清酌庶羞之奠、致祭於司徒待中杜公之靈（中略）。噫公之退、與衆復異。棊博不親、林泉不嗜。枕籍百家、沈酣六芸。詩筆日新、放懷怡志。書法日工、或草或隸。優游自娛、以卒吾歲。嗚呼哀哉（後略）。	正獻杜（衍）公 書法日工、或草或隸。	文860



55	卷46	錄附鼓城府君墓誌石本序	琦閱家集、見真定主簿張度所撰四代祖鼓城府君墓銘、知曾祖令公於晋天福中葬府君於趙州贊皇縣太平鄉之北馬村（中略）。雖距今百有餘年、苟得土人之耆旧可倚者、使周訪之、則万一可識。茲志未遂、不敢懈心。嘉祐三年冬、偶故史鄭嗣宗者、自東川宰行服歸趙、過都請見、問其所居、則曰贊皇之邑外也。問北馬、則曰所居之鄰村也。遂以府君墳墓託之。嗣宗去不數月、馳來告曰、北馬有古塚巋然、里人至今呼為韓評事墓。乃遣男忠彥與指使殿直李延慶同往視之、且使祭而告曰、若非開隧視銘、則無以取衆之信。祭已、扞日開隧。先是、聞於邑、至日令尉偕至、與夫近村之老幼婦女、環而觀者數千人。纔及墓、則張度所為誌石在焉。門頗朽欠、自外窺之、壙中一皆安然無所動、壁之丹雘尚若新塗繪者。忠彥即出誌石示於衆、皆驚呼嗟異。令尉閱其文、亦相與欣歎、為忠彥賀。亟具墨蠟傳其本、置石於故處、而實其隧中。墳旁地繚以垣牆、樹以松柏、得嗣宗之甥彭昂者主守之。噫、祖先之葬百餘年矣、數世已忘其所在、一旦求而得之、復内外完固無少犯者、實我先積慶之感、而與世稀濶之事也（後略）。	〔考古·画〕 四代祖鼓城府君墓自外窺之、壙中一皆安然無所動、壁之丹雘尚若新塗繪者。	文853
56	卷47	故衛尉卿致仕高公墓誌銘	公諱志寧、字宗儒、其先渤海蓀人。唐末亂、遠祖避地沢、潞而遷洛、遂為河南洛陽人（中略）。徙知定州、改鎮定路鈐轄。公始以得時、自喜曰、敵果敢先發、吾以術致其師、當一戰以破之。日訓飭士衆、以期立功。會朝廷遣使復通北好、公雅志卒不遂。即上章告老、詔以右領軍衛大將軍致仕。公既得謝、乃與鄧國張公、太子少師任公暨休官諸老、凡九人、放懷林泉間、以詩酒相娛樂、追唐白傅九老之會、京洛好事家多因寫而傳之（中略）。皇祐五年四月十一日、無疾而終、享壽八十三（中略）。所著皇王治統、文武經緯、太平助化策、儒將前議、兵機總要、周易化源圖、總名之為闔外書、行于世（後略）。	高（志寧）公墓誌銘 休官諸老、凡九人、放懷林泉間、以詩酒相娛樂、追唐白傅九老之會、京洛好事家多因寫而傳之。 周易化源圖	文857
57	卷50	故觀文殿學士太子少師致仕贈太子太師歐陽公墓誌銘	熙寧五年閏七月二十三日、觀文殿學士、太子少師致仕歐陽公薨于汝陰之私第、年六十六（中略）。公諱脩、字永叔（中略）。自公祖始徙居吉水、後吉水析為永豐、今為永豐人。公四歲而孤、母韓國太夫人鄭氏守志不奪、家雖貧、力自營贍、教公為學。公亦天資警絕、經目一覽、則能誦記、為文下筆、出人意表。及冠、聲聞卓然。天聖中舉進士、凡兩試國子監、一試禮部、皆為第一。逮崇政試、雖中甲科、人猶以不魁多士為恨（中略）。景祐初、公與尹師魯專以古文相尚、而公得之自然、非學所至、超然獨驚、衆莫能及。譬夫天地之妙、造化万物、動者植者、無細與大、不見痕跡、自極其工。於是文風一變、時人競為模範。自漢司馬遷沒幾千年、而唐韓愈出、愈之後又數百年、而公始繼之、氣儀相薄、莫較高下、何其盛哉。所治經術、務究大本。嘗以先儒於經所得多矣、而不能無失。唯其說或有未通、公始為弁正、不過求聖人之意以立異論。嘉祐初、權知貢舉、時舉者務為險怪之語、号太學体、公一切黜去、取其平澹造理者即預奏名。初雖怨讟紛紛、而文格終以復故者、公之力也。筆翰適勁、自成一家、人有得其片幅、必寶藏之（中略）。又自撰五代史七十四卷、易童子問三卷、詩本義十四卷、居士集五十卷、歸榮集一卷、外制集三卷、內制集八卷、奏議十一卷、四六集七卷、集古錄跋尾十卷、雜著十九卷。公於物無他玩好、獨好取古文圖書、集三代以來金石銘刻為一千卷、用以校正傳記訛謬、人得不疑。晚年自号六一居士、曰、吾集古錄一千卷、藏書一万卷、有琴一張、有棊一局、常置酒一壺、吾老于其間、是為六一。因自為傳以志之（後略）。	歐陽（脩）公墓誌銘 筆翰適勁、自成一家。 集古錄跋尾十卷。 公於物無他玩好、獨好取古文圖書、集三代以來金石銘刻為一千卷。	文859

21 范仲淹 (989~1052) 『范文正集』二十卷 別集四卷 補編五卷

字は希文、諡は文正。蘇州吳興（江蘇省）の人。大中祥符八年（1015）の進士。地方官を務めたのち、対西夏戦の指揮官として陝西の前線で活躍。慶曆三年（1043）には枢密副使、ついで參知政事となり「慶曆の治」に主導的役割を果たした。「天下の憂いに先んじて憂い、天下の楽しみに後れて楽しむ」は士大夫の理想を示す言葉として知られる。『宋史』314。『全宋詩』164~169。『全宋文』367~391。

1	卷1	歲寒堂三題	堯舜受命於天、松柏受命於地、則物之有松柏、猶人之有堯舜也。是故聖人觀有心而制礼、体後凋以弁義。丁公神遇、鑑寐形焉。陶相真棲、風韻在矣。前言往行、豈徒然哉。吾家西齋僅百載、二松對植、扶疎在軒、靈根不孤、本支相茂、卓然有立、儼乎若思。霜霰交零、莫能屈其性。糸桐間發、莫能擬其声。不出戶庭、如在林壑。某少長北地、近還平江。美先人之故廬、有君子之嘉樹。清陰大庇、期於千年、豈徒風朝月夕為耳目之資者哉。因命其西齋曰歲寒堂、松曰君子樹。樹之側有閣焉。曰松風閣。美之以名、居之斯逸。由我祖德、貽厥孫謀。昆弟雲來、是仰是則。可以為友、可以為師。持松之清、遠恥辱矣。執松之勁、無柔邪矣。稟松之色、義不變矣。揚松之声、名彰聞矣。有松之心、德可長矣。念茲在茲、我族其光矣。子子孫孫、勿翦勿伐。惟吾家之旧物、在歲寒而後知。天地憐其材、而況於人乎。作詩紀之、以永長也。 歲寒堂 我先本唐相、奕世天衢行。子孫四方志、有家在江城。双松儼可愛、高堂因以名。雅知堂上居、宛得山中情。目有千年色、耳有千年声。六月無炎光、長如玉壺清。予以聚詩書、教子脩誠明。予以列鐘鼓、邀賓樂昇平。綠煙亦何知、終日在簷楹。太陽無偏照、自然虛白生。不向搖落地、何憂歲嶢嶢。曷哉肯構人、處之千萬榮。 君子樹 二松何年植、清風未嘗息。夭矯向庭戶、双龍思霹靂。豈無桃李姿、賤彼非正色。豈無蘭菊芳、貴此有清德。万木怨搖落、独如春山碧。乃知天地威、亦向歲寒惜。有声若江湖、有心若金壁。雅為君子材、對之每前席。或当応自然、化為補天石。 松風閣 此閣宜登臨、上有松風吟。非絃亦非匏、自起簫韶音。明月万里時、何必開綠琴。鳳皇下雲霓、鏘鏘鳴中林。淳如葛天歌、太古伝于今。潔如庖羲易、洗人平生心。安得嘉賓來、當之共披襟。陶景若在僊、千載一相尋。	〔松〕 歲寒堂 君子樹 松風閣	詩164
2	卷3	留題方干処士旧居	某景祐初典桐廬、郡有七里瀨、子陵之釣台在。而乃以從事章岷往構堂而祠之、召会稽僧悅躬因其像於堂。泊移守姑蘇、道出其下、登臨徘徊。見東嶽絕碧、白雲徐生、云方干処士之旧隱、遂訪焉。其家子孫尚多儒服、有楷者新策名而歸。因留二十八言、又因処士像於嚴堂之東壁。楷請刊詩于其左。 風雅先生旧隱存、子陵台下白雲村。唐朝三百年冠蓋、誰聚詩書到遠孫（時裔孫楷方登進士科）。	会稽僧悅躬因其（嚴子陵）像於堂。因処士（方干）像	詩166
3	卷4	道士程用之為余伝神因題	貌古神疎画本難、因師心妙發毫端。無功可上凌雲閣、留取雲山靜処看。	道士程用之（筆） 余（范仲淹）伝神	詩167
4	卷4	獻百花洲図上陳州晏相公	穠下勝遊少、此洲聊入詩。百花争窈窕、一水自漣漪。潔白憐翹鷺、優游羨戲龜。闌干紅屈曲、亭宇碧參差。倒影澄波底、横煙落照時。月明魚競躍、春静柳間垂。万竹排霜仗、千荷卷翠旗。菊分潭上近（菊花潭在郡之西郊、因有菊門、復有菊潭鎮。近取菊植于洲中、洲有高台、遂命之曰菊台）、梅比漢南遲（京洛而南、至鄧始有梅焉。梅比襄陽又晚一月）。岸鷓依人喜、汀鷗不我疑。綵糸穿石節（襄鄧間旧俗、正月二十二日士女游河、取小石通中者用綵糸穿之、帶以為祥）、羅襪踏青期。素髮頻來醉、滄浪減去思。步随芳草遠、歌逐画船移。絵写求真賞、緘藏獻已知。相君那肯愛、家有鳳皇池。	百花洲図	詩167

5	卷5	楊文公写真讚	<p>楊公以武夷之靈、降于我宋。在太宗朝、以神童被召。三命至著作佐郎、直集賢院。在真宗朝、薦當清近、終翰林學士、工部侍郎。公以斯文為己任、由是東封西祀之儀、脩史脩書之局、皆歸大手、為皇家之盛典。當時台閣英游、蓋多出於師門矣。而命世之才、其位不充、故天下知公之文、而未知其道也。昔王文正公居宰輔僅二十年、未嘗見愛惡之心、天下謂之大雅。寇萊公當國、真宗有澶淵之幸、而能左右天子、如山不動、却戎狄、保宗社、天下謂之大忠。樞密扶風馬公、慷慨立朝、有犯無隱、天下謂之至直。此三君子者、一代之偉人也。公與三君子深相交許、情如金石、則公之道、其正可知矣。然端言方行、回邪忌之。故嘗避權臣之禍、歸陽翟山。再起、會真宗不預、中外為憂、萊公將奮大計、正前星於北辰、引太陽於少海。公預宏議、就高文、問弗克行。既終、而今上知之、乃下詔追悼、贈禮部尚書、諡曰文。今觀公之真、而為讚云、嗚呼楊公、兩朝清風。盛乎斯文、直哉厥躬。端者我遊、邪者我仇。霖雨不作、日月其流。仰止遺真、雍雍哲人。吾不知乎為之仙、為之神。</p>	楊（億）文公写真	文387
6	卷6	泰州張侯祠堂頌	<p>生祠、民報德也。制置公本汝穎之奇、以文武事朝廷、為勳臣於四方（中略）。天禧中、國家以鹽鐵饋運之計重於東南、命公領之、於茲八年（中略）。以簡以愛。優優其政、洽于民心。於是請肖公之儀、以奉于祠、期子孫之不忘乎。秉筆者故作頌焉。（中略）衆罔其象、以永瞻仰（後略）。</p>	泰州張侯祠堂 請肖公之儀、以奉于祠。	文387
7	卷6	唐異詩序	<p>皇宋處士唐異、字子正、人之秀也。之才之芸、揭乎清名。西京故留台李公建中、時謂善畫、為士大夫之所尚、而子正之筆、實左右焉。江東林君復神於墨妙、一見而歎曰、唐公之筆、老而彌壯（中略）。觀乎處士之作也、孑然弗倫、洗然無塵。意必以淳、語必以真。樂則歌之、憂則懷之。無虛美、無苟怨。隱居求志、多優游之詠、天下有道、無憤惋之作。騷雅之際、此無愧焉。覽之者有以知詩道之艱、國風之正也。時天聖四年五月日序。</p>	皇宋處士唐異、字子正、人之秀也（中略）。李公建中、時謂善畫（中略）。而子正之筆、實左右焉。江東林君復神於墨妙。	文385
8	卷13	尚書度支郎中充天章閣待制知陝州軍府事王公墓誌銘	<p>（前略）公諱質、字子野、其先太原人、曾、高占籍大名（中略）。公年尚未冠、進所著文、真宗嘉之、召試學士院、辭入優等、賜進士及第、名動京師（中略）。文正作舍人時、家甚虛、嘗貸人金以贍昆弟、過期不入、輟所乘馬以償之。公因閱家藏書而得其券、召家人示之曰、此前人清風、吾輩當奉而不墜、宜秘藏之。又得顏魯公為尚書時乞米於李大夫墨帖、刻石以模之、遍遺親友間。其雅尚如此（後略）。</p>	王（質）公墓誌銘 又得顏（真卿）魯公為尚書時乞米於李大夫墨帖、刻石以模之。	文389
9	卷13	資政殿大學士禮部尚書贈太子太師諡忠獻范公墓誌銘	<p>（前略）公諱雍、字伯純、其先太原人（中略）。舉進士、咸平三年春、御前積褐、補洛陽主簿、再調錢塘尉（中略）。遷禮部侍郎。時玉清昭應宮災、兩府簾封、章獻太后泣曰、先帝崇奉此宮、一旦至此、賴東北隅猶存一二小殿。公揣知有復興之意、因抗言曰、先朝極土木而成此宮、一夕為燼、豈天意耶。如因其所存、復欲興之、民將弗堪、不如焚之之盡也。諸公協其封、章獻意解、曰、不復勞人矣。上說、翌日下詔以論中外焉。又嘗繪尚書四代罔進之、以備中覽。居密府六載、參掌機務、知無不為（後略）。</p>	范（雍）公墓誌銘 又嘗繪尚書四代罔進之、以備中覽。	文390
10	卷14	樞三司鹽鐵判官尚書兵部員外郎王君墓表	<p>君諱糸、字敦素、會稽人也。晉右將軍逸少之後、世居蕭山（中略）。大中祥符八年春、擢進士第（中略）。改太常博士、通判衢州（中略）。時金華郡守闕、外台假君領之。衢之元老遮道于境上、謂婺民曰、我州一鑑、何奪之為。有詣外台乞還者。婺人薛惟簡、先有冤狀、父徒子黥、君雪除之。其家德君、以紫檀肖其象而祠之（後略）。</p>	〔書·彫刻〕 王（糸）君墓表 晉右將軍逸少（王羲之）之後 紫檀肖其象	文391

11	卷19	薦李觀并録進礼論等状	(前略) 臣伏見建昌軍草沢李觀、前成制科、首被召試、有司失之、遂退而隱、竭力養親、不復干祿、鄉曲俊異、從而師之。善講論六經、弁博明達、穠然見聖人之旨。著書立言、有孟軻、揚雄之風義、實無愧於天下之士。而朝廷未賜采收、識者嗟惜、可謂遺逸者矣(中略)。臣今取到本人所業礼論七篇、明堂定制図序一篇、平土書三篇、易論十三篇、共二十四篇編、為十卷、謹繕写上進。伏望聖慈當乞夜之勤、一賜御覽、則知斯人之才之學、非常儒也。其人以母老、不願仕宦、伏乞朝廷優賜、就除一官、許令侍養、亦可光其道業(後略)。	李觀 明堂定制図序一篇	文371
12	別集 卷1	送徐登山人(原本後四卷有送徐允升歸九華、詩典同止易五字、今附注于下)	重君愛(後作樂)詩書、孜孜不知老。白髮未理(後作未治)生、惟談(後作設)聖人道。愛君妙山水、所得是神氣。尺素写林巒、邈有千里意。今日江南行、孤雲無繫程。直指九華峰、去掃先君塋。却來華陽川、与(後作邀)我溪上盟。行歌紫芝秀、坐嘯清風生。鍊真變金骨、飄飄朝玉京。結成物外遊、忘此天下情。	尺素写林巒、邈有千里意。	詩168
13	別集 卷1	和龐醇之見寄	北樓千尺午猶寒、冉冉飛塵不可干。橫望滄溟了無際、貴人休向画図看。	橫望滄溟了無際、貴人休向画図看。	詩168
14	別集 卷4	竇諫議録	竇禹鈞、范陽人、為左諫議大夫致仕。諸子進士登第、義風家法、為一時標表(中略)。禹鈞生五子、長曰儀、次曰儼、侃、僖、儔。儀至礼部尚書、儼礼部侍郎、皆為翰林學士、侃左補闕、僖左諫議大夫、參知政事、僖起居郎。初、父禹鈞家甚豐、年三十無子、夜夢亡祖亡父聚、謂之曰、汝早脩行、緣汝無子、又壽算不永。禹鈞唯諾、禹鈞為人素長者。先、家有僕者、盜用過房廊錢二百千、僕慮事覺、有一女年十二三、自写券繫於臂上云、永壳此女、与本宅償所負錢。自是遠逃。禹鈞見女子券、甚哀憐之、即時焚券、收留此女、祝付妻曰、養育此女、及事日、當求良匹嫁之。及女笄、以二百千擇良匹、得所婦。後旧僕聞之婦、感泣訴以前罪、禹鈞不問。由是父子図禹鈞像、日夕供養、晨興祝壽(後略)。	図(竇)禹鈞像	文387

## 22 尹洙(1001~47)『河南集』二十七卷

字は師魯。河南府(河南省)の人。天聖二年(1024)の進士で、地方官から館閣校勘に召されたが、景祐三年(1036)に范仲淹が左遷されたのに座して監唐州酒税へ貶された。後、対西夏戦で范仲淹、韓琦とともに活躍した。柳開、穆修につづく古文復興の担い手として知られる。『宋史』295。『全宋詩』230。『全宋文』581~590。

1	卷1	書禹廟碑陰	唐劉公修禹廟碑、題云、補闕崔巨撰、段季展書。巨、他文尚見一二、季展、無聞者為。劉公領財賦、有大功、其所与皆天下善士、巨、季展必當時之知名者。今膳部員外郎周君越、嘗為三門發運判官、始以墨本伝京師。周君以書名於世、故季展書大為人愛重、四方競構之。伝本既多、字寢缺落。今發運判官、屯田員外郎左君瑾命工模刻於他石、且構字以實旧碑、又屬固焉。左君嘗謂予言忠州之功、巨之文、季展之書、皆當永其伝、不独其書為可宝也。予嘉左君真好事者、録其言附之新碑之末。宝元二年十一月二十日記。	〔書〕 禹廟碑陰	文587
2	卷1	題楊少師書後	周太子少師楊公凝式墨蹟、多在洛城仏寺中、今存者広愛、長寿、天宮、甘露、興教凡五处、皆題於壁(洛都有兩興教、此在延福坊。又集賢校理郭仲微嘉善新居有十余字、甘露致之)。公在洛、或与人為銘記、皆不自書、公之書無刻於石者、論書者以公之筆、其馳騁自肆、蓋得於己意、刻之其似可尽、其得意不可尽、豈其然哉。予非善書者、莫能知己。公所題壁、距今踰八十年、字頗欠落、不可弁者十三四。天王院僧繼明、慮公之書久遂無伝、命僧某挾字之最完者、得長寿、甘露兩壁、総八十七、模刻於石。宝元二年月日、尹某記。	〔書〕 楊公凝式墨蹟	文587

3	卷19	乞講求開宝以前用兵故事	臣聞太祖統御邊臣之略、輕其秩所以假其權、厚賜与所以惜名器。伏望聖慈延訪大臣、講求開宝以前用兵故事、則西鄙狂悖、不足可平。又聞陛下頃者多賜近臣飛白書、被賜者皆為榮寵。今近臣日有奏請、若事体当有更置者、望陛下賜手詔数十字、以示宸斷。則聖神威略、千里之外、如在目前、伝于軍中、孰不尽節。此兩事、乞留中省覽。	〔書〕 陛下頃者多賜近臣飛白書。	文581
4	卷23	按地圖	昔始皇之謀六国、銳求督亢之囟、充国之制西羌、首上金城之略。漢光武每議發兵、先按地輿、唐賈耽号為名相、亦以華夷著称。則知囟謀之興、歷代為重。国朝自繼遷之叛、棄磧西之地、享祀已遠、囟書亡逸。故其道里之迂直、山川之險易、世人罕有詳悉者。元昊以七州之地、兼党項之衆、計其兵不過十余万、而僭竊大号、敢抗天威、必須分兵境上、張攻城略地之勢、以備王師之誅討。今伝聞沿辺諸州、皆有賊兵抄掠。且北起天德、西尽儀、渭、合環十余郡、皆斥賊境、賊兵不十万、不能布列諸路、則其勢亦分矣。朝廷囟任詩書之將、調發精銳之卒、副以属国羌胡、辺城射士、塞上之兵、不下二三十万。然而限以流沙之阻、山川之遠、莫敢進軍、故未能拔朔方之城、誅元昊之首、使其游魂於疆場之外者、幾一年矣。近者王文恩、潘湜失利、皆以不知山川險易、為其邀擊。此不按輿地之失、非戰士材武之劣也。昨聞屯田員外郎劉渙曾進西鄙地圖、頗亦周備。平夏囟謀、秘府及民間当有存者、伏望博加求訪、命近臣參較同異、形於繪素、而頒之於辺將、俾其見利則按囟而出師、寇至則分兵而守險。此禦戎之急務也、惟陛下留意焉。謹上。	地圖 劉渙曾進西鄙地圖	文583

### 23 孫復 (992~1057) 『孫明復小集』 一卷

字は明復。晋州平陽 (山西省) の人。科学には及第せず、一時泰山に隠れ『春秋』を研究した。弟子に石介がいる。慶曆二年 (1042)、范仲淹、富弼の推薦で秘書省校書郎、国子監直講に任じられ、後に知長水県、簽書応天府判官事を経て、殿中丞に至った。『宋史』432。『全宋詩』175。『全宋文』401。

1	卷1	上孔給事書	月日、布衣孫復謹再拜獻書孔知府龍囟執事 (中略)。噫、自夫子歿、諸儒学其道、得其門而入者鮮矣、惟孟軻氏、荀卿氏、揚雄氏、王通氏、韓愈氏而已。彼五賢者、天俾夾輔於夫子者也 (中略)。近得友人石介書、盛称執事於聖祖家廟中、構五賢之堂像而祠之、且曰、孔侯之心至矣、吾輩不是之、而將何之也。復聞之、躍然而起、大呼張洞、李蘊曰、昔夫子之道、得五賢而益尊、今五賢之烈、由龍囟而愈明。龍囟公、聖人之後也、為宋巨賢、宜乎尽心於此矣。龍囟公其不尽心、則孰尽心哉。国朝自柳仲塗開、王元之禹偁、孫漢公何、种明逸放、張晦之景既往、雖來者紛紛、鮮克有議於斯文者、誠可悲也。斯文之下衰也久矣、俾天下皆如龍囟、構五賢之堂像而祠之、則斯文其有不興乎。吾輩得不奔走於牆藩之下、一拜龍囟公之賢哉。又且賀斯文將復也。接之拒之、惟執事之命。	(孔知府) 構五賢 (孟子、荀子、揚雄、王通、韓愈) 之堂像而祠之。	文401
---	----	-------	--	------------------------------------	------

### 24 石介 (1005~45) 『徂徠集』 二十卷

字は守道。兗州奉符 (山東省) の人。天聖八年 (1030) の進士。一時、喪に服するために帰郷し徂徠山で儒学を講じ、徂徠先生と称された。その後、国子監直講となり、慶曆の治が始まるとそれを讃える「慶曆聖徳頌」を作ったが、夏竦ら反対派の恨みを招いた。学問は孫復に師事し、韓愈の道統をつぎ、仏、道二教を批判した。また楊億らの西崑体にも反をとをえた。『宋史』432。『全宋詩』268~271。『全宋文』618~634。

1	卷4	嘉州寄左綿王虞部	江山如画望無窮、况属昇平歲屢豊。万樹芙蓉秋色裏、千家砧杵月明中。斷霞半著燕支木、零露偏留笙竹叢。只欠流杯曲水宴、風流未与左綿同 (左綿新創流杯)。	江山如画望無窮、况属昇平歲屢豊。	詩271
---	----	----------	---	------------------	------

2	卷4	燕支板浣花箋寄合州徐文職方	合州太守鬢將糸、聞說歡情尚不衰。板与歌娘拍新調、箋供狎客写芳辞。木成文理差差動、花映溪光瑟瑟奇。名得只從嘉郡樹〈燕支木嘉州出〉、樣成仍自薛濤時〈有薛濤箋〉。奇章磊磊馳声價、江令翩翩落酒卮。幾首詩成卷魚子〈有魚子箋〉、誰人唱罷泣燕支。紅牙管好同牀置、紫竹笙宜一處施。直助風流向樽席、杏花况是未離披〈司空圖有杏花辭、文頃在睢陽、多命唱之〉。	(文房具) 浣花箋 薛濤箋 魚子箋	詩271
3	卷7	画箴貽君子	吾家君子才敏、而少学為文字、辞句健跳、学為丹青、形物微妙。噫作無益而有害、古人所箴。不有博奕、言其飽食而無所用心。禹為聖人、又承堯、舜之緒、足以無為端居、猶汲汲惜乎寸陰。汝乃佚安嬉戲、不務功名之如前人、甘容身於牛蹄之涔、吾浪浪而沾襟。吁、爾有采章与其丹青草木、豈若丹青乃身、式昭金玉、爾有文藻。与其丹青馬牛、豈若丹青爾德、勉為騫、由。聖有周、孔、次有孟、韓。孝有曾子、忠有比干。清和夷、惠、德行閔、顏。周、呂、伊、召、其立桓桓、蕭、張、房、杜、饒峭直端。其人雖死、千載如存。想其行事、英風夏寒。容貌日月、德音琅玕。爾以筆伝人神、徒耳鼻衣冠、豈如心伝聖賢、高踏遠攀。爾以手写虫鳥、徒口啄羽毛、豈如筆写六經、往行前言。伝之於墨、墨久則昏、伝之於心、心久益丹。繪之於帛、帛裂則殘、繪之於身、身死不刊。女嗜於画、其名日削、女嗜於学、其德日完。嗟夫、易女嗜画之心、為嗜学之心、聖賢何難。女聽吾言、馨如芝蘭。擲膠折筆、無汚輕紈。	画箴 吾家(石)君子才敏、而少学為文字、辞句健跳、学為丹青、形物微妙。 易女嗜画之心、為嗜学之心、聖賢何難。	文633
4	卷12	上趙先生書	謹上書先生足下、介間居嘗讀唐文粹及昌黎集、觀其述作、炳然有三代兩漢遺風、殊不類今之文(中略)。愛而喜、前而聽、隨而和者、唯柳宗元、皇甫湜、李翱、李觀、李漢、孟郊、張籍、元稹、白樂天輩數十子而已(中略)。今天子繼明守成、道德高厚、功業巍然、直与唐並。今卿士大夫垂紳曳組、森森布列、行義超然、直与唐比。独斯文邈乎不可視於唐。居上者点画語言、組織章句、如彼画工不知繪事後素以為、質但誇其藻火之明、丹漆之多。如彼追師不知良玉不琢以為美、但誇其雕刻之工、文理之縟。載毫囊筆、窮山刊木、模刻其文字、布於天下、以為後進式。後進耳所習聞声名赫奕、位望顯盛者惟是、不知前人有孟軻、揚雄、董仲舒、司馬相如、賈誼、韓吏部、柳宗元之才之雄也。目所常見制作淫麗、文辭侈靡者唯是、不知前世有三代、兩漢、鉅唐之文之懿也。父訓其子、兄教其弟、童而朱研其口、長而組繡於手、天下靡然向風、寢以成俗。吁、無變之者、有以待先生也(後略)。	如彼画工不知繪事後素以為。	文619
5	卷13	上劉工部書	留守工部閣下、介前日從公入學中、公索觀仏氏画像、以為仏与老氏与吾聖人為三教、三教皆可尊也。明日從公政事厅、同公觀伏羲、神農、黃帝、堯、舜像、公讚三皇二帝之盛、稱所謂仏者、則伏羲也、神農也、黃帝也、堯也、舜也。介殊不曉公之旨、何為而為是言也、当日不敢面責公(中略)。中国一教也、無他道也。今謂吾聖人与仏、為三教、謂仏与老、伏羲、神農、黃帝、堯、舜俱為聖人、斯不亦駭矣乎。介不曉公之旨、何為而為是言也。前日公在学、觀書於東序、謂非聖人之書不可留、懼後生誑之惑且乱也。公之心可謂正矣。噫、非聖人書猶不可觀、老与仏反可尊乎(後略)。	觀仏氏画像。 非聖人書猶不可觀、老与仏反可尊乎。	文620

6	卷15	答歐陽永叔書	<p>同年永叔學士足下、猷臣過、駐舟上岸見訪、以永叔書為貺、且驚且愉（中略）。書中又言僕書自怪且異、古亦無、今亦無、為天下非之。此誠僕之病也（中略）。僕常深病之、實無可奈何。少時鄉里、拳禮須見在仕者、未嘗能自寫一刺、必倩能者。及為吏、歲時當以書記通問大官、亦皆倩於人。有無人可倩時、則廢其禮。或時急要文字、必奔走鄰里、祈請於人。此為之不能也、今永叔責我誠是（中略）。今天下為佞、老、其徒囂囂乎聲、附合應僕、獨挺然自持吾聖人之道、今天下為楊億、其衆曉曉乎、一倡百和、僕獨確然自守聖人之經。凡世之佞、老、楊億云者、僕不惟不為、且常力擯斥之。天下為而獨不為、天下不為而獨為、茲是僕有異乎衆者。然亦非特為取高於人、道適當然也。苟必欲取高於人、古之聖人莫如周公、孔子、古之大儒莫如孟軻、揚雄、古之賢聖莫如皋陶、伊尹。天下之所尊莫如德、天下之所貴莫如行。今不學乎周公、孔子、孟軻、揚雄、皋陶、伊尹、不脩乎德與行、特屑屑致意於數寸枯竹、半握禿毫間、將以取高乎。又何其淺也。且夫書乃六芸之一耳、善如鍾、王、妙如虞、柳、在人君左右供奉圖寫而已。近乎執杖以事上者。與夫皋陶前而伯禹後、周公左而召公右、謨明弼諧、坐而論道者、不亦遠哉。古之聖人大儒、有周公、有孔子、有孟軻、有荀卿、有揚雄、有文中子、有韓吏部、古之忠弼良臣、有皋陶、有伊尹、有蕭、張、有房、魏、皆不聞善於書。數千百年間、獨鍾、王、虞、柳輩以書垂名。今視鍾、王、虞、柳、其道其德孰與荀孟諸儒、皋夔衆臣勝哉。夫治世者道、書以傳聖人之道者也。能傳聖人之道足矣、奚必古有法乎（中略）。僕之書實不能也、因永叔言、僕更學之。永叔待我淺、不知我深、故略弁之云。余俟君子之教。不宣。介白。</p>	<p>〔書〕 （歐陽脩）書中又言僕書自怪且異（中略）。此誠僕之病也。 書乃六芸之一耳、善如鍾（繇）、王（羲之）、妙如虞（世南）、柳（公權）、在人君左右供奉圖寫而已。 古之聖人大儒（中略）、皆不聞善於書。</p>	文622
7	卷19	去二畫本記	<p>留守工部彭城劉公隨常親來視學於東庫、謂非聖人書宜悉去之、不可使學者誑之、惑亂其心也。公之心可謂正矣。噫、非聖人書猶不可觀之、況非聖人畫乎。且自伏羲至於神農、神農至於黃帝、黃帝至於堯、舜、堯、舜至於禹、湯、禹、湯至於文、武、文、武至於周公、周公至於孔子、中國猶一人治也。由一塗出也。有老子生、然後仁義廢而禮樂壞、有佞氏出、然後三綱棄而五常亂。嗚呼、老與佞、賊聖人之道者也、悖中國之治者也。公所謂非聖人之書者、也老與佞之書也。老與佞之書猶不可使學者見、況使學者見老與佞之像乎。書庫有舊存三教畫本、索觀之、則吾聖人與老氏、釈氏等、使學者趨老與佞、亦將同吾聖人也。讀其書猶懼惑亂其心、使趨老與佞同於吾聖人、豈知不易吾衣冠、棄吾父子、捨吾君親、廢吾祭祀、相與同歸於夷也。三教畫本獨存吾聖人、朝夕令學者拜事、庶幾知吾師之尊、吾教之一、吾道之正。所謂老與佞二者、吾令悉去之、後來者有謂吾不恭職、失二畫本、吾故書失以告。</p>	<p>劉公隨常親來視學於東庫。 書庫有舊存三教畫本。 所謂老與佞二者、吾（石介）令悉去之。</p>	文632

25 蔡襄 (1012~67) 『端明集』 四十卷

字は君謨、諡は忠惠。興化軍仙遊（福建省）の人。天聖八年（1030）の進士。知制誥、知開封府、翰林學士、三司使などを歴任し、端明殿學士、禮部侍郎に至った。書に優れ、北宋四大家の一人に数えられる。また様々な事物に興味を持ち、文房具や茶、荔枝に関する著作を残した。『宋史』320。『全宋詩』385~393。『全宋文』994~1024。

1	卷1	御筆賜字詩〈并序〉	臣襄。伏蒙皇帝陛下特降中使、賜臣御書一軸、其文曰御筆賜字君謨者。臣孤賤遠人、無大材藝、陛下親灑宸翰、推著經義、俾臣佩誦、以尽謨謀之道。事高前古、思出非常。臣感懼以還、謹撰成古詩一首、以敘遭遇、干冒聖慈、臣無任荷戴兢營之至。 皇華使者臨清晨、手開宝軸香煤新。沿名与字發深旨、宸毫灑落奎鉤文。精神高遠照日月、勢力雄健生風雲。混然氣質不可写、乃知学到非天真。緘藏自語備希代、誰顧四壁嗟空貧。臣聞帝舜優聖域、阜陶大禹為其鄰。吁兪敕戒成典要、垂覆後世如穹旻。陛下仁明如舜禹、豪英進用司鴻鈞。臣襄材智最駑下、豈有志業通經綸。独是丹誠抱忠樸、常欲贊奏上古珍。又聞孔子春秋法、片言褒貶賢愚分。考經内省不自称、但思至理書諸紳。乾坤大施入洪化、將罔報効無緣因。誓心願竭謨謀義、庶裨万一唐虞君。	〔書〕 御筆賜字	詩385
2	卷1	碧峰亭	虚亭城西隅、開檻俯臨北。青山正相向、万状呈峭格。落日涵紫翠、深春變顏色。雲石抱幽致、猿鳥自娛適。上窮林端寺、下見海内国。賢侯乘間來、四座揖佳客。歌吹有杯酌、筆研角文墨。雄談連今古、大笑一歛戚。嗟物亦時遇、曠久茲乃得。從知閩州囿、復記新名迹。	閩州囿	詩385
3	卷2	送楊渥赴西安主簿	余思去夏還甌閩、温風赤日争陶蒸。舟行夜寄浙江稜、江濤洶湧來相仍。雷電翕翕蛟螭騰、方牀竹簟寒生冰。上隴西去景色澄、青山兩向水一縵。猿鳥啼叫交酬応、晚樵出霧魚投罾。脱離滓濁躋陵兢、造託微波訊巖陵。清選可使貪者懲、山窮水尽乃攀登。爛柯巖岫孤峻嶒、幽邃闕矚崖陰憑。少留親愛喜莫勝、子官其間良足称。子材又美神粹凝、万象態度遭披凌。吟咏設写踰画縉、当有味者論淄澠。今予癡仕如秋蠅、飛塵滿耳汗浹膺。聞子大編行可乘、骨目森竦神慮興。子姑去嗟予未能、送子一念魂九升。	吟咏設写踰画縉。	詩386
4	卷2	北苑十詠 北苑	蒼山走千里、斗落分兩臂。靈泉出地清、嘉卉得天味。入門脱世氛、官曹真傲吏。	〔庭園〕 北苑	詩386
5	卷2	北苑十詠 造茶〈其年改造新茶十斤、尤極精好、被旨号為上品龍茶、仍歲貢之〉	屑玉寸陰間、搏金新範裏。龍鳳茶八片為一斤、上品龍茶每斤二十八片。規呈月正円、勢動龍初起。焙出香色全、争誇火候是。	〔茶〕 北苑 龍茶 龍鳳茶	詩386
6	卷2	觀宋中道家藏書画	宣猷業文學、嘗作調羹塩。藏書百千帙、伝世惟清廉。東堂得春和、花卉晨露霑。之君延賓從、当昼褰珠簾。朱函青錦囊、宝軸紅牙籤。大令至欧褚、屈玉聯鈞鈴。草行戰騎合、楷正中軍嚴。水墨固昏淡、骨氣猶深潜。江田亦名手、農野興鉏鎌。桑麻婦女喜、饅餉兒童覘。列女自幽間、明眸咽頸織。昔人何遥遥、意会相披瞻。南曹古貌醒、博士新詩炎。持杯屢属我、謂我毫錐銛。煤嫗浮醉細、研流泣秋蟾。放灑雲雷起、取余風浪恬。鄙芸豈足多、詫語誰能兼。因思左宣猷、載檄陪車轡。辱公知遇厚、表裏曾無嫌。問復請筆法、指病如投砭。今朝觀故物、惜已悲慚兼。層丘恩德重、素髮年華添。不能枉尺尋、况乃事飛箝。壯心久已衰、奇尚顧未厭。幸公有令子、辭源橫江灑。劇飲以自慰、後慶其人占。	〔收藏〕 宋（敏修）中道家 藏書画	詩386
7	卷3	瞻礼開師真像	輕瀾還故潯、墜軫無遺音。好在池边竹、猶存虚直心。往復二十年、每見唯清陰。覺性既自如、世味随浮沈。琅琅白雲姿、悵望空山岑。豈不悟至理、悲來難可任。	礼開師真像	詩387
8	卷3	甲辰閏月初伏快雨凉風昼眠初覺庭前小欄花木各有意效柏梁体	閏夏天地熱焔烘、崇朝快雨随清風。書軒夢覺開前櫳、画欄花草意氣雄。側枕遙問數異同、如子微物煩化工。盍各言爾之所從、繁葩富豔生朱紅（川海棠）。枯条大蕊千万重（絳桃）、修幹点綴赤日中（蜀葵）。觸去憂忿誰与功（萱草）、採摘烹煮祛煩胸（百合）。秋霜鉅实垂如薺（木瓜）、橫柯遠引交加叢（紅玫瑰）。葉抽綠劍端黃茸（山薑）、直立開弘泉貨通（金錢）。晷邊翠羽纒虬龍（薜荔）、誤入畦町非余公（頃麻）。助滌渴肺思匪躬（麥門冬）、物物自名詞不窮。願当我意乃汝容、負汝不飲慙衰翁。	〔園芸〕 庭前小欄花木	詩387



9	卷4	觀三聖御書應制	聖業存功德、宸毫冠芸文。勢開千里浪、光動九天雲。法駕乘時至、仙都与世分。皇心欽寶訓、求治益精勤。	〔書〕 三聖御書	詩388
10	卷4	群玉殿賜宴〈有序〉 臣蒙恩宣召、再至龍岡閣觀書、群玉殿曲宴。伏以數千年間無此盛事、臣忝職翰墨、榮遇非常、謹賦拙詩一首、備載本末、上干聖覽。無任戰越之至。	治道承炎歷、皇基巨万年。深仁涵海嶽、至德著坤乾。文物煇元首、臣鄰必巨賢。蓼蕭思及下、奕葉力追先。听色方群進、臚音忽四傳。衣冠紛雜選、台殿鬱蟪蛄。嘉祐七年十二月二十三日、詔宰臣以下龍岡、天章閣觀三聖御書。寶字崇三聖、瑤函秘九天。榮河祥氣徹、昭漢曉光旋。磊砢珠璣在、崢嶸歲月遷。家聲終卓越、上意益恭虔。書觀開鋪首〈父幸寶文閣作飛白字、召臣寮觀、人賜一軸、兼賜紙筆墨各有差〉、宸毫落彩箋。煙雲初不定、鸞鳳互相鮮。拜賜兼金重、珍藏尺璧全。人人皆自得、事事獨超先。睿藻敦風教〈賜御詩一首、令群臣次韻和進〉、冥梭出化權。來從玉山府、遠過柏梁篇。迴馭臨高館〈賜宴群玉殿〉、推恩錫廣筵。迷魂遊帝所、休心動星躔。申命嚴樽俎〈二十七日幸寶文閣、召宰臣以下觀太宗遊芸集瑞物十三種、仍賜御書、宴群玉殿、宣諭太平無事、令群臣尽醉〉、新章被管絃。千齡叨際會、曠古絕寅緣。大施難論報、精誠第祝延。唯應歌盛美、樂石可磨鐫。	〔書〕 龍岡閣 觀書 天章閣 三聖御書 飛白 寶文閣 太宗游藝集 瑞物十三種	詩388
11	卷4	西湖	湖上山光一筍青、仙宮高下裏崑崙。烟收水曲開塵匣、春送人家入画屏。竹氣更清初霽雨、梅英猶細欲殘星。吳船越棹知何處、柳挾長堤月滿汀。	入画屏	詩388
12	卷4	遊龍門香山寺	彩閣綦林軼、蒼崖隔水開。龕明千像日、波起一灘雷。綠淺春前草、香余臘後梅。背人驚鷺去、將雨好風來。雲氣隨衣袂、嵐光入酒杯。清遊知不屢、欲下更徘徊。	〔彫刻〕 龍門香山寺 千像	詩388
13	卷4	登三鄉寺閣	歷覽宜陽道、披軒臨朔風。地疑塵世外、人尽画圖中。巖曲疎鐘答、村前小徑通。水烟寒更白、山氣曉微紅。遊宦真浮梗、流年似轉蓬。長懷無所寄、尽日送歸鴻。	地疑塵世外、人尽 画圖中。	詩388
14	卷5	宿延平津	鳴籟蕭森万木声、濃嵐環合乱峰青。樓台蠹處双溪会、雷電交時一剑靈。曉市人煙披霽旭、夜潭漁火鬪寒星。画屏曾指孤舟看、今日孤舟在画屏。	画屏曾指孤舟看、 今日孤舟在画屏。	詩389
15	卷5	夢遊洛中十首〈有序〉 九月朔、予病在告、昼夢遊洛中、見嵩陽居士留詩屋壁、及寤、猶記兩句、因成一篇。思念中来、統為十首、寄呈太平楊叔武。 (第七首)	名花百種結春芳、天与穠華更与香。每憶月陂隄下路、便開图画覓姚黃〈月陂張家牡丹百多餘種、姚家黃為第一〉。	每憶月陂隄下路、 便開图画覓姚黃。	詩389
16	卷5	漳州白蓮僧宗要見遺紙扇每扇各書一首 (第二首)	野老尋山翦白雲、欲將清吹助南薰。不堪便面張京兆、恰称能書王右軍。	〔書〕 不堪便面張京兆、 恰称能書王右軍。	詩389
17	卷6	寄南海李龍岡〈兗〉求素馨含笑花	二草首觀嶺外圖、開時嘗与暑風俱。使君已自憐清分、分得新條過海無。	二草〔素馨、含笑花〕曾觀嶺外圖。	詩390
18	卷7	四月十七日奉安仁宗皇帝御容於景靈孝嚴殿是日舟次陳留感懷述事十六韻	先帝伝基固、真人嗣統平。余恩華夏在、高誼古今傾。漢法原為廟、仙居別有京。海中金闕見、天上玉樓成。睿意懷丕烈、宸豪薦大名。薦唯將舜擬、嚴亦与周并。龍向朝雲起、奎和晝日呈。流光俄滄歲、發号慶重明。令節千秋過、端儀万衆迎。謹呼山嶽動、馭扈鬼神驚。縹緲來佳氣、雍容下太清。旛旌多異制、歌吹自新声。琳館初停御、鑾輿始此行。盥孚通至感、福澤被羣生。往事時兼遠、孤臣淚獨橫。晨興西嚮久、悽断老年情。	仁宗皇帝御容 景靈孝嚴殿	詩391
19	卷7	段家堤西望晚山	月下西山千万重、日光山氣鬱葱籠。蛟綃數幅須移得、惆悵如今無画工。	蛟綃數幅須移得、 惆悵如今無画工。	詩391
20	卷8	画生李維予像今已十年对鑑觀之因題其側	清眸綠髮十年前、朴野風神不易傳。今日青銅莫相照、白髭垂頰面双顛。	画生李維 予〔蔡襄〕像	詩392
21	卷8	徐虞部以龍尾石硯邀予第品仍授來使持還書府	玉質純蒼理緻精、鋒芒都尽墨無声。相如問道還持去、肯要秦人十五城〈弁歛石以此法、若端石則不然〉。	〔文房具〕 龍尾石硯	詩392

22	卷8	人日立春舟行寄福州燕二司封	清溪潮上送行船、回望高城隔曉烟。景色似看名画展(前日君家尽出名画)、醉魂猶憶壽杯伝(君家世伝壽杯、行之侑酒)。春盤食菜思三九、人日書幡誦百千。南国逢君唯道旧、後時何處笑今年。	景色似看名画展。前日君家尽出名画。	詩392
23	卷8	宋宣獻公夫人畢氏哀詞二首(第二首)	国賦雖千乘、身期未百年。箴囑遺旧机、簫吹向新阡。行哭追前日、超生定幾天。寂寥原上樹、薄晚起寒烟。	宋(綬)宣獻公夫人畢氏箴囑遺旧机。	詩392
24	卷8	和楊龍圖蘆鴈屏	何事高堂秋思生、野蘆寒鴈画工精。風前挺立孤根老、雲外相從去意輕。不似丹青能借色、若逢霜月定聞声。研桑心術都無取、回望江鄉計未成。	蘆鴈屏	詩392
25	卷8	和楊龍圖獐猿屏	画莫難於工写生、獐猿移得上幽屏。相逢平野初驚顧、共向薰風適性靈。引子昼遊新草綠、嘯群時望故山青。可憐官省沈迷處、每到中軒頓覺醒。	獐猿屏	詩392
26	卷9	進黼辰箴狀	右、臣伏觀詔書宣諭三館臣僚、或朝廷大事、边防機宜、許令密陳章疏、或乞上殿敷奏者。臣竊聞太宗皇帝兵戎初定、乃作三館、購藏天下之書、精選四方之士。仍於館下旁設便門、或時臨幸、或即召對。故當時之得失、下民之利病、多所推究而施行之。真宗皇帝属世治平、游意文藻、詞臣之列、嘗預詢訪。於是天下之人知備官禁闈者、不独繙討蠹書、亦有以通上聽而裨国治矣。伏自陛下臨御以來嚮二十余年、未嘗一至、所增官属準前数倍、未嘗一召。今者特布德音、開誘言議、茲所以見陛下憂勤之至、人人自力、思竭智慮、以裨万分之一。臣愚不知陛下將以成好問之名歟。直欲挾至当之言而用之也。臣智識蒙陋、不敢广引古記、多属空文、輒求于今要急之務、而陛下之所欲知者、謹撰成黼辰箴一首、書為兩軸、每句之下條陳事实、別疏一通、各随狀上進。臣聞唐太宗、凡言事有益於政者、書之屋壁、以為警戒。伏惟陛下不以臣之狂直而棄之、幸置臣箴詞於户牖間、時賜省覽。原其所条事实終始、則今安危之勢可見矣。昔漢賈誼論及時事、以謂可為慟哭者、以臣今日之心、知古人之言不虛謬矣。干冒宸嚴、無任戰汗之至。謹具狀奏聞。謹奏。 黼辰箴 丕顯元聖、上奉天時。躋俗於礼、任材以宜。肅治家政、大隆本支。好問益广、去邪勿遲。利急思困、兵連慮危。法令必信、恩賞無私。威福是守、聽斷不疑。太平可致、決所施為。	〔書〕 黼辰箴	文1007
27	卷16	乞罷迎舍利一	臣切聞開宝塔為天火焚燒、因發塔基、取舍利入宮中。嬪嬙煉臂削髮者甚衆、喧伝滿街、無不驚駭。又聞以二十二日大具僧儀、迎舍利歸寺。臣聞救天下之患、必有濟時之術、施行之事、若憑依神靈、以要福利、是為非道也。今令僧徒迎舍利、自禁廷歷都市、万人瞻觀、衆口伝道、下惑民心、上虧聖德、取笑無窮、非細事也。所有迎引舍利、伏乞寢罷。宮嬪煉臂削髮、亦望嚴加禁止。	〔仏教〕 乞罷迎舍利 開宝塔	文1000
28	卷16	乞罷迎舍利二	臣昨日竊聞宮中因取塔基舍利入内、宮嬪煉臂落髮者甚衆。及擬二十二日大具僧儀、迎舍利歸寺。臣已具奏聞、乞賜寢罷、尚慮至誠未能上回聖意。臣聞治天下之道、匡生民於富壽、皆由教化刑政修舉、以臻太平、至於非礼之福、不可徵求。况奉仏無効、前世甚多。臣竊見唐文宗時、常令僧百人於宮中念誦、謂之内道場、每有西蕃入寇、令講仁王經。以至人事不修、羌戎犯闕、至今言大歷紀綱弛壞、皆由事仏之致也。舍利有光、前世有之、何足為靈。今天下生民困苦、四夷驕慢、陛下正当修人事、救時弊、若專信仏法、以徵福利、豈可得耶。陛下設置諫官、本為規正過失。今迎引舍利、事出於中、專損陛下聖德、臣終夕不寐、臣言為是、如能妄行威福、臣犬馬之軀、全当咎罪。所有開宝塔舍利、伏望指揮送還本寺、不令迎引。	〔仏教〕 乞罷迎舍利	文1000

29	卷16	乞罷迎舍利三	臣等今見左掖門外僧衆廣作威儀、迎引舍利、都人会集、甚駭物聽。臣甫、臣襄自昨夜二更至今日卯時、連入文字、乞賜寢停迎引舍利、免至有損聖德。即今却去外面廣作次第、臣等切慮必是僧徒交結陛下左右之人、張皇其事、誇惑都人、因此勢力、別圖財利。至于光怪之事、多是妖僧所為。若果神靈所憑、豈有天災可及。事理甚顯、不足信奉。伏乞陛下速賜指揮、寢罷迎引威儀、只令送還本寺。	〔仏教〕 乞罷迎舍利	文1000
30	卷16	乞罷修開寶寺塔	臣數日聞迎引舍利婦開寶寺、臣始疑之、必以為無有此事、屢以為言、乞賜寢罷、不蒙聽納。今又聞民間傳言、皆謂陛下欲重修開寶寺塔。伏念陛下必以迎事為憂、必以蒼生為意、豈肯枉費施于無用。然慮僧徒妄引靈怪、以惑聖聰。臣請悉推意而盡言之。或以舍利有光、引為靈驗。臣謂浮屠、舍利之所居、不能護惜、天火所焚、一夕而盡、豈可謂之神靈。枯久之物、灰燼之余、或有光怪、多亦妖僧之所為也。或以此塔太宗皇帝所造、理須修復。臣謂昭應宮、上清宮皆先朝所置、天火一空、已不復修、孰有非議。若有禁中共出資財、不費于官、不擾于民、臣謂一塔之費數百萬錢、一錢之資皆生民膏血、當此多事匱乏之時、豈可虛費。若施于木土、果有福利、以之助軍須、少寬民力、此豈獨無福利哉。况天災所焚、大示警戒、陛下當修人事以報之。今大興功役、是以人力而拒天意也。伏唯陛下聖喆聰明、必無此議。人言不已、臣實憂疑。所有開寶寺塔如有乞修復者、伏望陛下特加深罪、以絕欺妄。	〔仏教〕 乞罷修開寶寺塔	文1000
31	卷27	答歐陽永叔書	某啓、蒙書以集古錄序見託書之於石。集古之勤、且十八載、而得千卷、并包夷夏數千里、行歷周、秦、漢、魏以來數千百年。賢聖功業、賊亂事迹、往往史傳之外、証明偽謬。其於所得之多、雖勞有益、豈特比於犀珠金玉世人之所欲者。以永叔之文章與所趣尚、拳而行之、極於不泯、豈假書字之工而後傳哉。然古之碑銘柎表、亦有以書而傳者、觀其人莫不勤苦畢世、乃成其去、某之所能特淺淺者爾。鄉者得侍陛下清光、時有天旨、令寫御撰碑文、宮寺題榜。世之人豈遽知書、特以上之使令、至有勲德之家干請朝廷出勅令書。某謂近世書寫碑誌、例有資利、若朝廷之命、則有司存焉、待詔其職也。今與待詔爭利、其可乎。力亂乃已。某非以書自名而取高、誠以不相知者以利見臨也。蓋辭其可辭、其不可辭者不辭也。如公之文與所尚、誠得附名篇末、以永其傳、茲其幸也、其敢辭焉。不宣。再拜。	〔書〕 歐陽（脩）永叔 集古錄序	文1009
32	卷28	群玉殿曲宴記	嘉祐七年十二月二十七日、上幸天章閣、召輔臣近侍、出太宗游芸集、真宗文集以示之。又出瑞物、石之類五、一曰趙二十一帝、二曰真君王萬歲、三曰天下太平、石本如拳、皆隱起成字、四曰石佛像石、一面平、有黑理如浮屠像、五曰軟石、狀如界尺、可長五六寸、持其兩端而曲之。木之類一、不知何木、長一尺許、中分之、白質黑文、曰大連木。竹斷兩節、直剖之、雙絃屬其上下、命曰君臣合歡竹。龍鳳卵二、龍卵可容三升、鳳卵可一升、皆中空、以黃金飾之、為瓶狀。金珠之類四、生金山一、重七斤十四兩、嵌崑崙突、有山狀、丹砂一、重十二斤八兩、色黑若鉄、間有芙蓉頭、七星珠一、徑寸之四分、有北斗星文、旁出輔星、皆隆如粟粒、裏蹶金三、漢武帝詔所制以應祥瑞者。凡一十三種。既已、移幸寶文閣、親書飛白四十餘字、遍賜群臣、遂宴於群玉殿。是日、名香珍闕、金縷綵花、皆自中出。宣諭以太平無事、卿等盡醉。乃索鹿頭酒、易以大杯。丞相韓公得金蕉葉、一飲空杯。上舉醞以屬曰、可更飲否。又引一杯。上喜甚、左右顧、令盡飲、恩意隆厚。伏惟陛下臨御天下四十一年、宴享之勤、未有如群玉曲宴之盛。群臣感激際會、咸進詩歌、稱詠其事。明年正月八日、翰林尚書吏部郎中、知制誥、權三司使臣蔡某謹記。	〔文物〕 天章閣 太宗游芸集 真宗文集 瑞物 〔書〕 寶文閣 親書飛白四十餘字	文1017

33	卷28	賜御書記	天子即位之明年、建仁宗皇帝別廟於景靈宮、三司戶部副使張燾修奉。九月三日、御篆題榜曰孝嚴之殿、命燾謄摹、既成、即以其本賜之。伏惟陛下思慕孝烈、躬洒宸翰、豈特以字畫純厚、勢力端勁、高出前古以為美觀。蓋所以昭示孝誠於外、而令臣民瞻諦、知天子念親之深、追遠之謹如此其著、靡然而化者也。燾以戰事、首荷恩賜、雖丘山之冠無以喻其重、伝之子孫、為盛時之榮遇也。三司使、給事中蔡某記。	〔書〕 御書	文1017
34	卷28	謝公堂記	副閣舍人陽夏公天聖中通判府事、首議以河南天子西都、學館宜鑑唐故事、建名比上京、遂請易其名為國子監。延致舊儒、講解經術、以教學者。公雅以文重於時、又躬與諸生立程準、評辭章、每更品目、聲聞輒隨。而上下咸益奮厲、業成而登仕者比日加衆。自公捐世、諸生日相視嗟感、皆曰、孰從而求導予者。既又曰、逝者不作、而思者無窮。昔後魏劉道斌治常農、脩建學校、郡人追繪其像於孔子祠。唐楊瑒為國子祭酒、其徒即而立頌、稱載休德。今或因公像於學、以厭群慕、不為無所則。乃疏其說於府、而遂因之、以時靈焉（中略）。公諱絳、字希深、以寶元二年十一月終於鄧州、春秋四十六。其年十二月二十五日、留守推官、朝奉郎、試大理評事蔡某記。	謝公堂 繪其（劉道斌）像於孔子祠。 乃疏其說於府、而遂因之（謝絳）。	文1017
35	卷28	福州修廟學記	〈闕六字〉地險而壯、福州之治尤據其勝勢、為薰漬廟〈闕〉（中略）。本朝太平興國中、軫運使楊公克讓始立孔子廟、以〈闕〉春秋。景祐四年、通判謝君微權職郡治、遂表建州學、仍請賜田五頃、以久衆處。詔書報下謝適罷去。逮范公亢、許公宗壽更守此邦、參摺曹椽之能者（中略）、商工度材、歷五載而大備。公帑之泉、計費千萬、植字之楹、總數六十。中設孔子與其徒高第者十人像、又繪六十子及先儒以業伝於世者、皆傳之壁。曰九經閣、以藏舊所賜書、曰三礼堂、以因輿服之制、祭享之器。黌舍齋廬、旁翼兩序、庖次并飲、百用資給（後略）。	〔彫刻・画〕 福州修廟學 中設孔子與其徒高第者十人像、又繪六十子及先儒以業伝於世者、皆傳之壁。 曰三礼堂、以因輿服之制、祭享之器。	文1018
36	卷28	亳州永城縣廟學記	（前略）亳州永城縣孔子廟、居城西隅、庫廩不完。皇祐四年、大理評事杜君誼知縣事（中略）。明年、出奉泉、遷廟於東南、直汴之陽、作文宣王及兗國公而下十人像、籩簋之數、率拋典禮。又旁廟設學舍數十區、將以教育人材。於是縣人之為學者、各以其力相之。冬十二月廟學成、杜君錄其本末以來請文（後略）。	〔彫刻〕 亳州永城縣廟學 作文宣王及兗國公而下十人像。	文1018
37	卷29	御書碑序	皇祐五年秋、陛下以真宗皇帝奉神述再刻之碑、親謄篆額、勅臣模寫、終篇既成、奏御、蒙賜臣御書一軸。臣輒刊頌章、上述旨義、又辱獎詔。明年春、刊本上之、特賜臣母仁壽郡太君盧氏冠帔。臣歷考故事、未有列官侍從而宸毫賜字、不緣名品而象服及親、獨臣恩榮、前無比例。伏惟陛下性資孝誠、覆養万物、精通經誼、游適芸文、矜優高年、原本慈惠。每觀先帝睿文、若臨宗廟、志容必盡。親勒題額、恭記一十九字、念思勤勤。以臣得與翰墨之間、探春秋褒勸之法、稽虞書謨謀之義、神筆飛動、妙入無迹。敦尚老老、推及臣親、日月之光、下燭幽昧。蓋繇陛下根於仁厚而形於政事、豈愚者之慮所能誦道哉。竊念臣出入省闈、向余十年、其間居言諍、觸貴權、所以獲全而器使之、悉賴天聰。今茲忝冒重疊、莫知所為。謹摹御書及錄獎詔、鐫著於石、臣所獻詩并亦附見。伝之四外、垂之萬世、非特微臣之榮遇、抑亦興朝之盛舉也。至和元年六月二十四日、朝奉郎、起居舍人、知制誥、權同判吏部流內銓、上騎都尉、賜紫金魚袋臣蔡某謹序。	〔書〕 御書碑 皇祐五年秋、陛下以真宗皇帝奉神述再刻之碑、親謄篆額、勅臣模寫。	文1014

38	卷29	七石序	<p>雪山僧惟正渙然、其居淨土之西軒有七石、皆因物象而名之。其曰麒麟、俛趨而遊、曰仙鳧、渾礴自如、曰孤鶴、引吭開喙、若戾而遠視、曰蒼鷹、竦翼將擊、沈思而在、曰飛泉、碧玉瑩澈、素練斜落、曰屏風、高丈而半、廣又半之、曰四面、其東當楹、竅洞牙蘂、西南北亦如之。渙然極嗜而無厭、予嘗與寓觀焉、渙然指而語予曰、我為狄氏學、洗洋無羈、樂此居而留者今僅十年。以事入旁郡、中道思之、輒罷歸。石乎、其亦累我耶。然每至其側、叩之言、不聲而默、告之遊、不從而止、我亦默焉。鄰而居焉、忘彼之石、忘己之我、兩皆忘焉。石乎、亦何累於我哉。予於是知渙然甚自適也。乃臨石而問之曰、天巧神知而寓爾形耶。其亦概陶均冶而脫然耶。爾之淪踴將弗然耶。其亦莽不知其所以然耶。名爾以器以物、爾其真器且物耶。其亦不為器、不為物耶。盍為為礎乎、以支明堂太廟之楹、使長而不危。盍為砥乎、為礪豪曹鈇鉞之器、而使妖回沮屈。薦之闕乎、以序齊民之法、寘之梁乎、以利艱涉之病、剝而研乎、以修明乎旧則、伐而磬乎、以登合乎太和、瑱而紉之、以翳乎讒構、鏃而矢之、以殄乎驕諄。如是者、皆能為之乎。不然、徒以窪突刃銳喜人之目、何也。頃之、有為〈去聲〉石言者曰、無何也。始謾我以名、又誅我以用、名與用亦時遇爾。我自守而貴者天質也、異夫工者鑄磨鑿鑿之為之也。天成之質、可不貴乎。渙然能詩、善草書、猶是石之貴乎天成也。予甚愛其言。旧聞華亭有画工、年七十余、而筆愈適、能致其人囚此見遺、亦足為洛中燕居之一適也。景祐三年十二月日序。</p>	<p>〔石〕 七石 〔書〕 渙然能詩、善草書。 〔画〕 旧聞華亭有画工、年七十余、而筆愈適、能致其人囚此見遺。</p>	文1017
39	卷32	慈竹賦	<p>種植至多、強名万彙。物拔其萃、茲乃当天地之正氣。有美竹兮特稟、夫慈名而榮被。豈有懷於本根兮、何千千蔚然而瓌侍。若夫吳郡名園、王家新第。遠閣斜欄、橫塘靜水。或薰風昼來、或秋露宵墜。日遲留兮簷外陰移、人悽悄兮屏間籟起。方且濯峭格而清舉、足困樂之生意。或翹而舉者、若堂有高年兮、勤素風而講議、或亞而側者、若家有令子兮、聞話言而沈思。俛如出門而事遠遊兮、滋宿雨之清淚、雍如奉卮而介眉壽兮、霽春煙而怡醉。紫芽蟠聯、馨兒季稭。去者奔追、迎者嬉戲。疎者如招、並者如倚。雖復貫千狀於巧筆、曾莫形其放悲。借如秋晚霜重兮、万木林林而僵悴。隴楡尽兮塞月高、堤楓丹兮楚江紫。此君也東藍田之苗玉、刻炎州之稍翠。固節虚心兮、雖大鈞不能奪其志。於是揖三荆於堂下、結蔓藟於河涘。襲氣同根之豆、交驩承萼之棣。顧威鳳之時下、亦孝烏之來寄。設有用於律笛、天声發兮大和備。觀此芳物、悲哉遠人。昔我從軍兮南之海濱、今我辭家兮西游洛塵。暢然於旧国旧都、感莊生之論。恭止乎維桑與梓、諷周傳之陳。指白雲兮天遠、採幽蘭而露新。嗟碧鮮之得地、乃叢苑〈莫保反〉而相親。吾議爾德、豈止乎千畝之渭濱、當訂万石之封君者也。</p>	<p>〔竹〕 慈竹</p>	文994

40	卷33	觀天馬圖	<p>傲夫、寄尚者也、出古綉之画駿馬一者、尾鬣微楮、而身首文駁。馬與常馬甚不類、特立間逸、骨自稜瘦、精神爽毅。雖一鷗之橫塞雲、獨鶴之思崑嶺、莫之為也。於其旁標曰蒲梢云。安惠子曰、蒲梢馬、漢武帝伐大宛、於貳師城得之。年祀遠甚、宜無有是傳、豈近世好事者工其画而藉其目乎。傲夫曰、蓋嘗惑焉。然武帝威稜憚乎鬼方、教誥申乎絕域。以國珍而叩塞者得響龍虎之文、私自語為僥倖。大宛嘗有善馬、獨特介絕、而愛不來。於是連兵不至之微、殫饋悉臣之戶、旂鉦之師、戈胄之伍易乎膏介草莽、魂傑沙漠。重乎南目而視、旋蹀而步、然後宛王戮、而昔之善馬憚不敢有、故能宣懿金石、告休神明。武帝求卓異、其心不亦至乎。後之人迹想飛騾、加諸繪事、不亦美与。安惠子曰、地入民凋、物格財匱、豈御天下之計者耶。且馬也、冀野之北、曷世無之。駉驪驕皇、驪駉駉、動精月駉、矯首雲螭。或編之天棧、和以鸞鑣。懷風以足其食、大路以馴其性。居不驚猥、動不詭遇。雖虎脊之華、跼蹐之勁、未之加也。然瘠不能、振瘠不見取、嚮風悲鳴、垂耳於驚駘之後、豈少哉。吾知漢固有是、而武皇独甘心於貳師、豈所謂賤近而貴遠者耶。後之人不加意於求真視、而肖練遺骨、豈所謂貴耳而賤目者耶。何以言之。嘗聞昔武皇得狗監誦子虛賦、独恨不得与此人同時。及相如至、以賞為郎、官止使者、又頗優畜之。謂如相如、未可与道則已、而又有甚於相如者也。自秦滅漢興、綴文績學、德業彬然、独董仲舒而已。觀其制策延訪、將置英網傑、騰周躡虞、称古賢輔、志勤義篤。而仲舒官特於諸侯王相耳。之二人也、孰知其不嚮風悲鳴、垂耳於驚駘之後者乎。吾以是固知其賤近而貴遠也。抑又聞之、揚子雲者、殫思深湛、著符清淨、塊处天閣、絕与人事、而有尚白之嘲、覆瓿之誚。後數百年、其書出、至於如今如何也。蓋親見子雲祿位容貌不能動人、故輕其書耳。吾以是揣廟世態、乃知吾子亦貴耳而賤目也。吾子有輕綉方丈、腕丹塵黑、滕以巾箱、副以篋竹、一出乎人、德於顏面。儻有騰黃之骨、絕利之足、枯悴下皂、子將掩袂而不視矣。傲夫患其語之侵便已也、不待終、決而翔云。</p>	天馬圖	文1017
41	卷34	評書	<p>鍾、王、索靖法相近、張芝又離為一法。今書有規矩者王、索、其雄逸不常者皆本張也、旭、素尽出此流。蓋其天資近者、學之易得門戶。學書之要、唯取神氣為佳。若模象體勢、雖形似而無精神、乃不知書者所為耳。</p> <p>嘗觀石鼓文、愛其古質、物象形勢有遺思焉。及得原叔鼎器銘、又知古之篆文或多或少、或移之左右上下、唯其意之所欲、然亦有工拙。秦漢以來、裁得一体、故古文所見止此、惜哉。</p> <p>唐初、二王筆迹猶多、當時學者莫不依倣。今所存者無幾。然觀歐、虞、褚、柳為名書、其結約字法皆出王家父子。學大令者多放縱、而羲之投筆處皆有神妙。余嘗謂篆隸正書与草行通是一法。吳道子善画、而張長史師其筆法、豈有異哉。然其精粗繁性之利鈍、學之淺深、古人有筆塚墨池之說、当非虛也。</p> <p>近世家書好為奇特、都無古意。唐李監通於斯、氣力渾厚、可謂篆中之雄者。學者宜如此說、然後可与論篆矣。</p> <p>張長史正書甚謹嚴、至於草聖、出入有無、風雲飛動、勢非筆力可到、可謂雄俊不常者耶。</p> <p>長史筆勢、其妙入神、豈俗物可近哉。懷素处其側、直有僕奴之態、况他人所可擬議。</p> <p>智永草書千文蓋七百本、唐初尚有存者。太宗取其最精者模写勒石、云律呂調陽是也。</p> <p>顏魯公天資忠孝人也、人多愛其書、書豈公意耶。</p> <p>閩中無佳石、以堅木刊字、往往有予筆迹、模刻多或失真。自今年來眼昏、求書者一切謝絕。向時子弟輩多蓄字字、皆為人持去。余有澄心紙百幅、李庭珪墨数丸、皆人間罕見者、当作諸家体以伝子孫、其余非故人不能作手書。子弟輩得余書者、当自收之。</p> <p>每落筆為飛草、書但覺烟雲龍蛇、隨手運轉、奔騰上下、殊可駭也。靜而觀之、神情歡欣可喜耳。</p> <p>蘭亭模本、秘閣一本、蘇翁家一本、粗有法度精神、其余不足觀也。石本唯此書至佳、淡墨稍肥、字尤美健可愛。或云出於河北李學究家、今王公和所藏也。</p> <p>瘞鶴文非逸少字。東漢末多善書、唯隸書最盛(今八分)。晉魏之分、南北差異、鍾王楷書、為世所尚。元魏間尽習隸法。自隋平陳、中国多以楷隸相參(今存者李德林碑、褚書三龕碑是也)。瘞鶴文字有楷隸筆、当隋代書、世云逸少、殊無彷彿也。</p>	<p>[書]</p> <p>鍾(繇)、王(羲之)、索靖 張芝 (張)旭、(懷)素 石鼓文 二王(王羲之·王獻之) 歐(陽詢)、虞(世南)、褚(遂良)、柳(公權) 吳道子(玄) 張(旭)長史 李(陽冰)監 懷素 智永草書千文 顏(真卿)魯公 澄心紙百幅、李庭珪墨数丸 蘭亭模本 瘞鶴文 鍾(繇)王(羲之)楷書 李德林碑、褚書三龕碑</p>	文1016

42	卷34	文房四說〈一作雜評〉	<p>新作無池研、龍尾石、羅紋、金星如玉者佳。筆、諸葛高、許顛皆奇物。紙、澄心堂有存者、殊絕品也。墨、有李庭珪、承晏、易水張遇亦為獨步。四物、文房推先、好事者所宜留意。散卓筆心長、特佳耳。</p> <p>硯、端溪無星石、龍尾水心、綠紺如玉石、二物入用、余不足道也。墨、李庭珪為第一、庭寬、承晏次之、張遇易水次之、陳朗又次之。不獨造作有法、松烟自異、當弁是也。紙、李王澄心堂為第一。其物出江南池、歙二郡、今世不復作精品。蜀箋不堪久、自余皆非佳物也。筆、用毫為難、近宣州諸葛高造鼠鬚散卓及長心筆、絕佳。常州許顛所造二品亦不減之、然其運動隨手無滯、各是一家、不可一體而論之也。</p> <p>歙州續溪紙乃澄心堂遺物、唯有新也、鮮明過之。今世紙多出南方、如烏田、古田、由拳、溫州、惠州皆知名、擬之續溪、曾不得及其門牆耳。婺源石硯有羅文、金星、蛾眉、角浪、松文、豆斑之類、其要在堅密溫潤、天將陰雨、水脈自生、至可磨墨、斯可寶者。黃山松煤至精者造墨、可比李庭珪、然匠者多貧人、於以求利、故不逮也。近有道人、自能燒烟、遣令就黃山取煤、必得佳者。歙州此三物奇絕、唯好事以厚資可致之、若臨以官勢、莫能至也。</p> <p>李陳下於續溪、而優於由拳、與烏田相埒。循州藤紙微精細而差黃、他處以竹筋、不足道。房用之筆果可用、鋒齊勁健。今世筆例皆鋒長難使、比至鋒銳少損、已禿、不中使矣。</p> <p>余取歙州父子四世五人墨、超自易水來江南、為歙人、超之子庭珪、珪弟庭寬、寬子承晏、晏子文用。用之後墨無佞焉。有孫惟慶、今為墨務官。李氏墨、超始知名、珪或為邽、與寬最精好、承晏而下不能用法、無足取者。世之好奇者多借庭珪姓名、模仿形制以造之、有至好者、苟非素蓄之家不能弁之。備條數等、佞諸雅尚之士、或有未見、他日統其後。</p> <p>墨貴老、久而膠盡也、故以古為稱。世以歙州李庭珪為第一、易水張遇為第二、珪復有二品、龍之双脊者為上、一脊次之。遇亦二品、易水貢墨為上、供堂次之。近世兗州陳朗亦為精。庭珪弟庭寬、子承晏、晏子文用皆能世業、然差不逮也、近輒絕無有也。</p> <p>世有王君、得墨易水張遇、歙州李庭珪、庭寬、承晏、文用。又有柴珣、朱君德小墨、皆唐末五代以來知名者、然人間少得之、皆出上方。或有得者、是為家寶也。李庭珪墨為天下第一品、祥符治昭昭、用為染飾。今人間所有、皆其時余物也。其族庭寬、寬之子文用亦造墨、較之其祖、莫能及也。過睢陽倅車李侯、言有庭寬墨、遂得之。李氏墨余得其三者、可謂富矣。新安所作墨甚佳、然其名印以庭為廷、非是。又肌理不細、椎練不熟。使墨工得一見之、為語其未至、必能少進其藝。南方蒸濕、古墨尚寬有潤、况其新者、宜以漆匣密藏之、入秋冬間可用耳。</p> <p>欲求李庭珪墨、終難得、或庭寬、承晏、文用、皆其家法、易水張遇亦為精好。然庭珪門墨殊未觀矣。近得歙烟、令造墨、便有李庭珪風采、不為浮光。乃知木性隨其地土所異、予嘗有弁、信不誣矣。</p> <p>昔年洛下為留守推官事、宋公見遺李庭珪墨。自爾書笥中稍或益之、漸至知墨。墨之說尤為精微、唐彥猷殊通此理。沈立之見示盤溪木瓶、置水則碧色、宜墨。予按廣韻、樊規木可以漬水。蓋聲之誤也。造墨多用秦皮、亦此類。今日微雨差涼、尽出硯墨以觀之。京居少暇、被疾在告、因及之。</p> <p>唐彥猷作紅糸石硯、自第為天下第一、黜端巖而下之。論者深愛端巖、莫肯從其說。予嘗求其所以勝之理、曰、墨、黑物也、施於紫石則味曖不明、在黃紅自現其色、一也。研墨如漆、石有脂脉、助墨光、二也。硯必用水、雖先飲之、何研之差。故為天下第一。東州可謂多奇石、紅糸、黑角、黃玉、褐色凡四種、皆可作硯、而黑角尤精、出於近日、極有佳趣。端巖龍尾不得獨步於當世、其理然耶。</p>	<p>〔文具具〕</p> <p>（硯）</p> <p>新作無池研、龍尾石、羅紋、金星。端溪無星石、龍尾水心、綠紺如玉石。婺源石硯有羅文、金星、蛾眉、角浪、松文、豆斑之類。唐彥猷作紅糸石硯、自第為天下第一。</p> <p>東州可謂多奇石、紅糸、黑角、黃玉、褐色凡四種、皆可作硯。</p> <p>（筆）</p> <p>近宣州諸葛高造鼠鬚散卓及長心筆、絕佳。常州許顛所造二品亦不減之。</p> <p>（紙）</p> <p>李王澄心堂為第一。蜀箋不堪久、自余皆非佳物也。歙州續溪紙乃澄心堂遺物、唯有新也。今世紙多出南方、如烏田、古田、由拳、溫州、惠州皆知名。循州藤紙微精細而差黃。蜀箋惟白色而厚者為佳。常州強武賢造粉箋、殊精、雖未為奇物。</p> <p>（墨）</p> <p>李庭珪為第一、庭寬、承晏次之、張遇易水次之、陳朗又次之。歙州父子四世五人墨、超自易水來江南、為歙人、超之子庭珪、珪弟庭寬、寬子承晏、晏子文用。用之後墨無佞焉。有孫惟慶、今為墨務官。又有柴珣、朱君德小墨。</p>	文1016
----	-----	------------	---	---	-------

			<p>東州可謂多奇石、自紅糸出、其後有鵲金黑玉硯、最為佳物。新得黃玉硯、正如蒸栗。統又有紫金硯。其餘紅斑、黑斑、不堪作硯、造茶器亦大好。其下州郡、未見如此奇石也。東州固多奇石、始得紅糸硯、後又得黑角硯、黃玉硯、今得褐石硯。黑角石尤精好、如紅斑、黑斑、可作茶器、而不堪為硯。如〈闕〉州豆斑、青角、不足道也。向者但知有端巖龍尾、求之不已、遂極品類。僕之所好、有異於人乎。青州石末硯、受墨而費筆、龍尾石得墨遲、而久不燥、羅文石起墨、過龍尾。端溪龍窟巖紫石又次之。古瓦類石末、過此無足議也。</p> <p>蜀箋惟白色而厚者為佳、今上方有故時貢者、實可愛也。近歲利在薄而易售、以是絕不佳、此物乃可惜耳。常州強武賢造粉箋、殊精、雖未為奇物、然於当今好事亦難得耳。雲母粉不利人目、用者宜審之。吾嘗禁所部不得輒用竹紙、至於獄訟未決、而案牘已零落、况可存之遠久哉。</p>		
43	卷34	硯記	<p>端州崔生之才居端巖側、家蓄石工百人、歲入硯千、數十年無可崔意者。一旦、工者於後巖百丈阮剖石、得紫龍卵、其里人來觀者持羊酒賀。造成硯、長尺、廣減十之四、厚重寬平、開匣粹潤、若有德君子。上下眼各四、当中暈七里、又有文、表裏無有纖瑕、微不至、則潤沢可磨墨矣。崔抱硯輒忘寢食者久之、念奇宝不可私藏、其誰當之。不遠千里、授使者以來遺子。齋戒發封、諷吉日、以澄心堂紙、李庭珪墨、諸葛高鼠鬚筆為之記。皇祐癸巳十二月二十八日。</p>	〔文房具〕 硯	文1018
44	卷34	茶記	<p>王家白茶聞於天下、其人名大詔。白茶唯一株、歲可作五七餅、如五銖錢大。方其盛時、高視茶山、莫敢与之角。一餅直錢一千、非其親故不可得也。終為園家以計枯其株。予過建安、大詔垂涕為余言其事。今年枯槁輒生一枝、造成一餅、小於五銖。大詔越四千里特携以來京師見余、喜發顏面。予之好茶固深矣、而大詔不遠數千里之役、其勤如此、意謂非予莫之省也、可憐哉。乙巳初月朔日書。</p>	〔茶〕 王家白茶	文1018
45	卷34	墨弁	<p>曾君視余墨一丸、其面文曰新安上色香墨、幕〈音闕漫〉曰、歙州李庭珪。肌理光膩、與今之李庭珪墨形模不類也。其名字不同〈邽珪不同〉、形制復異、謂之真珪墨、其可乎。然李超與其子庭珪、唐末自易水度江至歙州、地多美松、因而留居、遂以墨名家。本姓奚、江南賜姓李氏。超墨世不復傳、某嘗侍仁宗群玉宴、輒賜得之。其面文、新安香墨、其幕、歙州李超造、與今所視形制切相類也。予謂超與珪始至新安、各出姓名、尚用珪字。超死而珪業益精、面有龍文、而其名亦用邽者、乃知名字不同、形制有異者、作之有先後也。或曰、何以決知之。曰、類其父超也。蓄藏於中、數百年、非偽効也。予既弁之、而墨遂歸我家、墨哉、可無恨矣。書其說以贈曾君、或墨之思、攬予說可以少解。嘉祐八年癸卯九月二十八日記。</p>	〔文房具〕 墨 歙州李庭珪	文1018
46	卷35	茶錄 序	<p>臣前因奏事、伏蒙陛下諭、臣先任福建轉運使日、所進上品龍茶、最為精好。臣退念草木之微、首辱陛下知鑑、若處之得地、則能尽其材。昔陸羽茶經不第建安之品、丁謂茶圖獨論採造之本、至於烹試、曾未有聞。臣輒條數事、簡而易明、勒成二篇、名曰茶錄。伏惟清閒之宴、或賜觀采、臣不勝惶懼榮幸之至。謹叙。</p>	〔茶〕 龍茶 丁謂茶圖	文1019
47	卷35	荔枝譜 第一	<p>荔枝之於天下、唯閩粵、南粵、巴蜀有之（中略）。白居易刺忠州、既形於詩、又因而序之。雖彷彿顏色、而甘滋之勝、莫能著也（中略）。閩中唯四郡有之、福州最多、而興化軍最為奇特、泉、漳時亦知名（中略）。予家莆陽、再臨泉、福二郡、十年往還、道由鄉國。每得其尤者、命工写生。稗集既多、因而題目、以為倡始。夫以一木之實、生於海濱岩險之遠、而能名徹上京、外被夷狄、重於當世、是亦有足貴者。其於果品、卓然第一、然性畏高寒、不堪移植、而又道里遼遠、曾不得班於盧橘江橙之右、少發光采。此其所以為之嘆息而不可不述也。</p>	〔荔枝·畫〕 白居易刺忠州、既形於詩、又因而序之。 （蔡襄）每得其尤者、命工写生。稗集既多、因而題目、以為倡始。	文1019



48	卷35	荔枝譜 第三	福州種植最多、延施原野。洪塘水西、尤其盛處、一家之有、至於萬株。城中越山、當州署之北、鬱為林麓。暑雨初霽、晚日照耀、絳囊翠葉、鮮明蔽映、數里之間、焜如星火、非名畫之可得、而精思之可述、觀覽之勝、無與為比（後略）。	〔荔枝·畫〕 數里之間、焜如星火、非名畫之可得。	文1019
49	卷37	太常博士致仕胡君墓誌	（前略）君其長子也、諱瑗、字翼之。少有氣節、顯意經學、兼通律呂之法（中略）。景祐中、范文正公仲淹上言君知古樂、召見論樂、拜試秘書省校書郎（中略）。泛恩改殿中丞、驛召會秘閣議樂、除大理評事、兼太常主簿、尋復解罷。歲余、授光祿寺丞、國子監直講、仍與議樂。樂成、改大理寺丞、賜緋魚（中略）。（嘉祐）四年六月六日終於杭州、享年六十有七（中略）。本朝承周用樂、其聲高、不合中和。太祖皇帝嘗詔下一律、而未遑制作。天子知樂、命李照等修之。君初得對崇政、廷弁照等所修樂非是、詔令改作。未幾報罷。及會秘閣議、按周禮以正鐘律。用上黨黍列為九等、彙其中者為尺。尺定而律成、驗之比旧下一律、於是徹前樂而新之。天子臨紫宸、鐘磬在廷、天子曰、學者能通典故而不能知聲、工者習其聲之傳而不知制器之理、斯難能也。先有議鐘當有大小、今與黃鐘一之、非古制、乃用倍半之法作應鐘。至是鐘成、特小小者不堪備宮鼎、諸儒侍從無異議者、天子可之、用於郊廟、又令作皇祐新樂圖記、布之天下、蓋積二十年而後成。其間同議論皆貴官老儒、相抵止者豈一二哉、然君未始恤之也（後略）。	胡（瑗）君墓誌 皇祐新樂圖記	文1020
50	卷38	贈殿中丞陳府君墓誌銘	府君之先、曾祖諱沆、本魏人、仕後唐、因官江東、為錢吳越王偽署朝散郎、知明州鄞縣。卒葬四明山下、子孫始為吳人（中略）。皇考諱處瑩、博學、於周易、楊雄太元尤雅悉其要。錢氏數以礼屈致、冀得為用、亦避不顧。及錢氏以地歸本朝、遂徙居京師。府君既長矣、佞解經術、尤工楷法、得善書、多手鈔之（中略）。以大中祥符四年八月十四日終、年六十四（中略）。府君諱光現、字晦之、以子登朝、累贈殿中丞。娶吳興范氏、追封本郡太君。以慶歷二年十一月二十七日葬河南緱氏唐興鄉蔣里、以吳興太君附焉（後略）。	〔書〕 陳（光現） 尤工楷法、得善書、 多手鈔之。	文1021
51	卷39	蘇才翁墓誌銘	蘇才翁、諱舜元（中略）。至和元年五月初二日、終於京師之祖第、年四十九（中略）。君善草隸、藏書數千卷、皆手自讎校（後略）。	〔書〕 蘇舜元 善草隸。	文1022
52	卷39	延安郡主李氏墓誌銘	延安郡主李氏、太宗皇帝之外孫、真宗皇帝之甥、齊國獻穆大長公主之女也。父為鎮國軍節度使、駙馬都尉、贈太師、中書令、尚書令、許國公、諡和文、諱遵最（中略）。（皇祐）四年正月四日終、春秋四十有三（中略）。主善書、能為五七言詩、居間、設烈女圖、誦書史以自娛（後略）。	〔書·畫〕 延安郡主李氏 善書 居間、設烈女圖、 誦書史以自娛。	文1022
53	卷39	內殿承制王君墓誌銘	王君諱翊、字輔之、兩浙都巡檢使。罷還、皇祐五年五月七日卒於京師、以其年七月二十四日葬於開封府開封縣褒親鄉。其孤號哭而杖、授書使者以來請銘、曰、我先君之先、錢塘人、後遷於汴、少孤家窶、以書芸補官、歷七任、終六十有一。今墓有期、且走公門下日久、固知其所為、幸或銘諸墓、使有關於後世、公之賜深矣（後略）。	〔書〕 王翊 以書芸補官、歷七 任、終六十有一。	文1022
54	卷40	司農少卿致仕王君墓誌銘	達夫諱益恭、姓王氏。其先居太原、徙潞州。曾祖諱崇、贈太師。曾祖妣周氏、齊國太夫人。祖諱景純、贈太師、中書令。祖妣祁氏、魯國太夫人。父諱慎、樞密使、吏部侍郎、同中書門下平章事、贈太師、中書令兼尚書令、魏國公。妣石氏、追封永嘉郡太君、寇氏、華原郡太君。自魏公始家河南、今為河南人。君於大中祥符間以蔭補右侍禁（中略）。治平二年三月十二日、終於西省思順里第、年七十四（中略）。晚年喜積氏、篤好華嚴經、日繙一帙、深通体用止觀之趣。家所藏書、雖子弟求閱、必手自檢授、出入甚謹。而於田產資利、隨所厚薄、視親疎急難賑濟之、不復會校。洛下多名園、時與其弟觴詠終日、陶然自娛。居間、古書真畫、間或展閱、其外紛綸過前、不吾接也（後略）。	王益恭 居間、古書真畫、 間或展閱。	文1023

26 強至（1022～76）『祠部集』三十五卷

字は幾聖。錢唐（浙江省）の人。慶曆六年（1046）の進士。地方官を務める間に韓琦に知られる、その推薦を受けるも大用されず、三司戸部判官、祠部郎中でおわった。『宋史』356（強淵明伝）。『全宋詩』587～598。『全宋文』1428～1456。

1	卷1	道旁松	何年澗底栽、移植俯官道。腹空蟻穴衆、枝瘦龍脊裹。斧斤須良材、霜雪豈終老。大有歲寒操、見尽桃李夭。	〔松〕	詩587
2	卷1	祠僊姑回馬上作	至和歲甲午、德音絕常軌。寬徭且有罪、外復講群祀。君言一朝發、人神共悅喜。今我官浦陽、距邑越十里。聞有僊姑祠、獨弗識何氏。按圖得本原、云是黃帝女。當年追僊遊、茲地倏輕舉。于今數千載、廟貌尚留此。幾欲私謁歎、吏事日勞止。遽會郡符降、奉行德音止。以廟隸邑境、俾我即祠所。詰朝叩庭下、牲體已夙庀。巋然重林間、楹桷極華美。姑一婦人焉、血食反無已。丹朱雖男兒、而又作堯子。生失四海位、沒同若敖鬼。大夫不自立、始信徒為爾。	按圖得（僊姑）本原、云是黃帝女。	詩587
3	卷1	野園移植小松	平生歲寒心、頗好歲寒色。一松如人長、慘淡窮山側。樵兒日過之、有意斧斤得。予心異爾意、野圃為移植。醉聽疎聲眠、吟到細陰息。落落巖澗姿、相對永朝夕。如言千載後、其長可千尺。人生雖百年、相期眇無極。且結無情游、汝固予何易。豈待百年外、人松兩殊迹。人為松下土、松化土上石。我生始踰壯、足以伴寒碧。	〔松〕 小松	詩587
4	卷1	公立煎茶之絕品以待諸友退皆作詩因附衆篇之末	造化于草木、所与有濃厚。茶生天地間、建溪獨為首。南土衆富兒、一餅千金售。公立須南官、好（去声）居衆富右。俸錢未到門、已入園夫手。買藏惟恐遲、秘之逾瓊玖。前日發箱篋、出以奉賓友。蒼玉碾底碎、浮雲盤面走。一飲睡魔竄、空腸作雷吼。茶品衆所知、茶德予能剖。烹須清冷泉、性若不容垢。味回始有甘、苦言驗終久。吁茶特不幸、而出三代後。不及余草木、盡掛詩人口。禹貢籍九州、瑣細登橘柚。古若有此茶、商紂不酤酒。	〔茶〕 煎茶	詩587
5	卷1	范鉞進士遺樓徵司馬庭石以質交樓作詩美之因邀某同作	樓君仕塗傑、范子儒林選。論文二人者、誠至不以勉。范也車將西、樓也酒以餞。胡然膠漆地、猶假外物顯。范子庭前石、千年立蒼蘚。移入樓君圃、重可載十輦。堅以示固交、此意豈云淺。怪不涉剗刻、險不至崖巘。坦然久要情、無向石間弁。其堅竟有泐、其重尚可輓。不若照以心、兩確乃吾善。永結忘形游、嵌巖君勿羨。	〔石〕 庭石	詩587
6	卷1	和施耕進士憶竹	夫子臥古屋、趣敵巖谷深。六籍環一身、口誦頭不簪。瘦碧久去眼、寂寞清風心。朝思蔭之醉、暮思繞以吟。秋空碧新弄、無處停幽禽。安得青玉枝、來作半畝陰。終朝對几榻、歲寒結知音。於焉傲富貴、追蹤晉賢林。	〔竹〕 憶竹	詩587
7	卷2	石亢之出銅雀台硯相示信筆題其後	銅台遺荒基、寂寞千載下。黃埃朽壤間、所得或片瓦。硯材世共珍、購金不論把。浪好味所別、往往亂真假。	〔文房具〕 銅雀台硯（瓦硯）	詩588
8	卷2	墨蟹	瑣瑣江湖中、忽在幽人壁。短螯利雙鉞、長跪生六戟。骨眼驚自然、熟視審精墨。初疑螻穴束、猶帶浮泥黑。橫行竟何從、躁心固已息。終朝牆壁間、頗有肥霜色。我來空持杯、左手莫汝食。誰奪造化功、生成婦筆力。	墨蟹	詩588
9	卷3	題惟晤師斑竹杖	蜀江濯錦含文漪、竹生江岸初綠滋。錦波一浸入竹肌、万洗不落斑在皮。又聞淚點灑舜妃、遺跡漸染伝今時。搯不受爪滑可持、隱起高節無屈欹。江神雖寶莫自私、煙根忽逐霜刀離。截而為杖得者誰、龐眉大士今一枝。編爛頗与壞衲宜、朝躋山巔暮江涸。山備兕虎江蛟螭、爾杖未折莫汝危。足力自健無險賊、安用童子兩肩為。當年常竹紋無奇、猶託變化神葛賊。况此已是斑龍兒、長恐一旦風雲隨。復整頭角還天遠、未必久為師有之。	〔竹〕 斑竹杖	詩589
10	卷3	題蘊忠上人歛硯	山僧有硯名龍尾、此石來從歛溪水。通明直可照髮毛、瑩滑不容安手指。案上長疑片月生、匣中自有浮雲起。蒼然顏色涵秋波、不學端州誇嫩紫。溪匠琢為寒瓦形、如從銅雀初飄零。只仍故狀不復改、独有乱点生繁星。高閣上人妙書劄、什襲藏來時一發。扞開輕霧磨烟煤、揮灑霜毫水紙滑。咄嗟此硯何為哉、世上別有潤色材。胡不往焉与徘徊、日濡大筆把詔裁、無久滯此空塵埃。	〔文房具〕 歛硯 硯名龍尾	詩589

11	卷3	予家畜狸花二猫一日狸者獲鼠未食而花者私竊之以去家人不知以為鼠自花獲也因感而作二猫詩	狸猫得鼠活未食、戲局之地或前後。猫欺鼠因縱不逐、豈防厥類忘其守。花猫狡計伺狸意、帖耳偷銜背之走。家人莫究狸所得、只見花銜鼠在口。予因竊覩見本末、卻笑家人反能否。主人養猫不知用、謬薄狸能服花厚。花雖利鼠乃欺主、竊狸之功亦花醜。人間顛倒常大此、利害于猫復何有。	〔猫〕 狸花二猫	詩589
12	卷3	泉上人画牡丹	芳樹不合生深堂、座上似已聞生香。乃知丹青逼造化、独有真假争毫芒。枝外霏微包雨露、筆跡淋漓濕縑素。遊蜂蛺蝶頻往来、今日經營知汝誤。蜀川趙昌妙花樹、前後無人昌独步。師今合昌成一人、画手紛紛那敢措。上人筆下如有神、一掃欲空西洛春。姚黃魏紫色憔悴、自覺筆低勝天真。天工栽花苦榮謝、画工運巧無冬夏。天工巧極誰論画、輪帛傾金只酬画。将令世俗尊造化、呼僮捲障不復掛。	泉上人画牡丹 蜀川趙昌	詩589
13	卷3	和樓志國范君武誥胡尉臨安所獲顏魯公書斷碑	書名唐世凡幾人、魯公運筆独有神。当年一字百金直、異代儻獲宜爾珍。公嘗道直不容内、江湖出走刺史輪。東南揮翰落幾郡、在処巨蹟刊堅珉。石堅字巨未忘泐、旋復五代遺荒屯。州鎮尋兵寺觀火、欠碑毀碣埋泥塵。乾坤豈亦愛字宝、不使久屈卒不伸。脰合陰假好事手、得此断石溪山峴。苔封土蝕初莫省、一洗爛若開三辰。不由名氏驗体法、氣質渾厚知顏筋。点端屹如泰山立、画勁森似長戟陳。寧同棗木浪伝刻、少陵尤惡肥失真。蒼茫疑聞地靈泣、為失此石后土貧。好事得之不自有、能廣墨本遺其倫。始從君武愜伝玩、大句感發驚儒紳。写公勲德無一欠、何必誥史勞吾唇。青衫志國繼高唱、首論書法詞逾新。未言公忠死賊刃、不覺憤淚霑予巾。昔人謂書乃心画、浮沈直撓皆相循。公心遠可此書鑑、体不姿媚一以淳。嚴嚴古氣自盤薄、宜汝希烈不得臣。雖云筆力奪元化、濟以忠誼重万鈞。後來忠誼弗公学、磨鈇臨帖虛終身。李斯篆隸豈不好、彰彰姦迹流自秦。乃知一芸不独善、所貴名節堅松筠。魯公之書以名貴、歷代共宝無沈埋。	〔書〕 顏（真卿）魯公書 斷碑	詩589
14	卷3	壳松翁	窮山老松幹百尺、縱有愛者勢難值。小松聳擢未及文、何亦冷落守巖石。由來世眼習繁侈、競事妖紅与爛白。往往破產聚名卉、未見有一号松癖。城中有客壳桃李、美侷高下隨意得。咄嗟彼叟何為者、浪負松本窮九陌。行求善佃吻欲燥、力弛還立朱門側。過之千百絕一顧、寧復肯許一錢直。音聲猶帶潤風洪、顏色尚染嵐煙黑。松材雖良人未見、其奈桃李有春色。嗟哉子計信疎矣、豈宜肩入芳菲域。速培旧土養松幹、待棟明堂柱帝宅。予疑叟非羈松者、無乃矯世為所特。衆趨時好逞穠艷、何独孑孑術皴碧。群雄馳騁尚譎詐、軻以仁義游六国。時乎积老肆分籍、愈以原道破群惑。叟乎叟乎予爾知、独行矯世難為力。	〔松〕 壳松翁	詩589
15	卷3	題可久上人房素屏	雕軒画室吳僧居、花草禽魚屏面集。豈如蕭爽大士堂、雪山數尺平頭立。滿齋虛白已自生、隔坐紛華不容入。霜毫一掃都無痕、独有淋漓粉光濕。好丹世上空紆紵、趣与師同百無十。常時吟客惟我来、共愛此屏微靜翕。日晴難駐手試捫、指下瑠璃無寸泐。願乘醉筆留幾行、為写高僧白雲什。	素屏	詩589
16	卷4	山中遇雨	馬上凉秋雨、隨愁入乱山。垂垂衣袖重、点点鬢毛斑。猿鳥寒声外、漁樵古画間。片時全嶺暗、急趁暮鐘還。	猿鳥寒声外、漁樵 古画間。	詩590
17	卷4	古劍	只因耕戰地、得此古龍泉。磨拭自今日、埋藏曾幾年。無將試蛟窟、宜待靜狼烟。寄語姦邪輩、当鋒莫向前。	〔工芸〕 古劍	詩590
18	卷4	庄書玉兔	白玉双蹲兔、工深刻楮勞。長疑奔月窟、渾欲動霜毛。似喜書成穴、猶驚筆有毫。案間誰汝待、自覺守株高。	〔工芸〕 玉兔	詩590
19	卷5	羽師院假山	累石作危峰、軒然曲沼中。山形在眉睫、人意自衡嵩。影駭魚蝦避、路疑猿鳥通。宦途尤巧險、匠手莫言工。	假山	詩591
20	卷6	若師院詠筍	戢戢新芽迸旧林、纔生有節便虚心。已隣佻界黄金地、更学仙家碧玉簪。失灌要須防倦僕、偷餐切莫聽饑禽。憑師養取成修竹、截管終令作鳳吟。	〔竹〕 筍	詩592

21	卷6	競渡	画鷁追風千楫動、錦標翻日萬人呼。驕龍戰水爭先後、采蠶橫川半有無。波底魚蝦愁破窟、峴傍車馬看盈塗。競心猶出功名下、吟倚扁舟為一呼。	〔競渡〕	詩592
22	卷6	謝純甫惠筆	管勁毫尖匠製宜、故人珍贈我何為。分殊定遠初投日、得似文通旧夢時。大手媿無才翰用、正心惟見友朋規。紛紛紙尾方勞署、辜負詞林視草詞。	〔文房具〕 筆	詩592
23	卷6	純甫出近郊以梅花未開成篇見貽因次元韻奉酬	朔吹鳴時萬葉黃、獨留瓊蕊擅幽芳。水辺野外開雖晚、臘後春前賞未忙。素豔若敷應雪妬、嫩心猶闕已風香。此花更是梅仙詠、消得花間飲百觴。	〔梅〕 梅花	詩592
24	卷6	次韻礼之淮上吟	泗上風宜旧俗存、邦人誰說貢鱗鮮。隔淮小市若古画、接楚遠山疑宿烟。民舍卑窪多困水、農疇磽瘠少逢年。顧予居里号繁勝、举目只為鄉思牽。	隔淮小市若古画、接楚遠山疑宿烟。	詩592
25	卷6	梅	牆邊幾樹玉參差、照眼幽花冷自宜。香陣晚交風破藥、粉花朝濕雪融枝。故人消息從誰寄、造物生成似我遲。且慰蹉跎尽詩興、江樓閑笛不須吹。	〔梅〕	詩592
26	卷7	和知府王給事官舍北軒新竹	子猷雅愛此君深、清白伝家直至今。有似致身憐勁節、更應待物並虚心。閑來点筆書新粉、醉後移牀傍細陰。分到渭川青玉種、巖公宅裏許同吟（杜甫有巖公宅同詠竹詩）。	〔竹〕 新竹	詩593
27	卷7	予官將滿婢子始植小柏於堂下因感而書	孤根初掘出巖隈、赤脚殷勤手自栽。翠葉未成官秩滿、清陰別待主人來。塔墀好養今朝操、梁棟須異日材。猶勝天桃清意薄、劉郎去後始花開。	〔柏〕 植小柏	詩593
28	卷7	寄題殊公禪老黃雲閣	大士當年密行成、山居黃色有雲生。黃雲已共斯人去、飛閣猶為此地名。欲到塵埃先擺落、縱觀氣象亦崢嶸。誰云瑞應難追復、禪老而今祖意明。人悅禪翁巧結廬、更營飛閣取幽虛。溪山雨後翠欲活、櫺檻風來清有余。龍象幾年成仏界、猿猱深夜雜僧居。還如夢得聞涵碧、誰写丹青復寄予。	還如夢得聞涵碧、誰写丹青復寄予。	詩593
29	卷7	会故人集崔侍郎園池	貳卿園沼压關西、上相篇章絶景宜。旧日宮牆流水過、至今苑地画圖知。孤花春去猶臨岸、野蔓晴來欲占籬。苟令鳳凰池更好、不須遊苑此遲遲。	旧日宮牆流水過、至今苑地画圖知。	詩593
30	卷8	文懿大師院假山	繞郭非無海上山、更収紫翠入禪間。竺峰飛過伝間後、蓬島移來想像間。草樹細含生意足、雲烟輕帶野情還。主人高臥嵩衡畔、応放幽尋杖履間。	假山	詩594
31	卷8	依韻和居方觀崔生画	古今画手得名人、一物纔工自出倫。字与丹青俱是絶、勢閑飛動不無神。浪伝誤筆成蠅点、那待青田写鶴真。侯鴈枯荷含遠意、江湖婦興劃然新。	崔生画 侯鴈枯荷含遠意、江湖婦興劃然新。	詩594
32	卷8	遊宝掌院	当年秘宝已無形、独有層峰似旧青。不許俗人留轍跡、却応神物護巖扃。山腰猿嘯孤煙暝、洞口龍歸暴雨腥。今日一來探絶賞、始知全勝考図經。	今日一來探絶賞、始知全勝考図經。	詩594
33	卷9	依韻和判府司徒待中雪霽登休逸台	環台雪後從公登、四顧乾坤表裏明。粉水半消池日薄、玉枝相戛竹風清。園林洒落人間世、樽酒逍遙物外情。写景不須搜画筆、詩參化匠自天成。	雪霽登休逸台 写景不須搜画筆、詩參化匠自天成。	詩595
34	卷9	依韻奉和判府司徒待中望宸閣雪後	雪中氣象但漫漫、雪後乾坤淨好看。零落瑤林晴照裏、參差銀闕暮雲端。疑開粉墨図新就、猶洒樓台筆未乾。万井都人蒙煦育、恩深不覺夜來寒。	望宸閣雪後 疑開粉墨図新就、猶洒樓台筆未乾。	詩595
35	卷10	元夕觀駕御端門詩	仙韶樓底弄春和、簾額隨風捲繡波。午夜九霄開宝扇、一声万寿徹明河。灯纏月影祥光動、酒入天顏喜氣多。侍從有班無籍去、花辺空聽太平歌。	〔行事〕 元夕觀駕御端門	詩596
36	卷11	依韻奉和司徒待中雪二十韻	瑤林紛有藥、玉海浩無津。蓋地都藏險、漫天不露垠。片輕消鑿落、光冷奪純鈞。賀笏庭前客、權盃隴上民。清輝交夜月、妙曲次陽春。兔苑誰伝簡、蠶崖自比銀。香沈宵蕪麝、烟濕晝炊薪。履没平三徑、窓明斷一塵。乘時飛更急、帶晚賞逾珍。酒合斟瓊液、巾宜頂白綸。分形雖各值、灑潤要皆均。滲野今豐魏、飄筵昔瑞秦。禽疑越貢雉、獸訝晋祥麟。巧剉枯株木、偏宜勁節筠。寒林図似展、粉筆掃初勻。嘗愛漆園美、寓言姑射神。如公詩具美、揣物意尤親。久作依劉客、難追訪戴人。幕中賡絶唱、席右媿嘉賓。不獨調元手、風騷敵孟醇。	寒林図似展、粉筆掃初勻。	詩597

37	卷12	李景初許借翦綵花數軸一觀累日不至戲成二絕督之	壺蜂蛺蝶日徘徊、只欠生香去復來。應是春風隨玉指、剪刀行處一花開。 翦綵茸茸細逼真、秋風堂上數枝春。為偷造化防天覺、却擬深藏不借人。	〔工藝〕 翦綵花數軸	詩598
38	卷12	漁家傲（梅影）	（前略）渾似玉人常淡竚。菱花相對盈清楚。誰解小窗先画取。天欲曙。恐隨月色雲間去。	〔鏡・画〕 菱花相對盈清楚。 誰解小窗先画取。	詞1
39	卷18	謝春盤幡勝狀	歲功邁起、春物滋榮。製妙飛幡、動縷花於剪綵、珍藜多品、錯糸菜於雕盤。併此拜嘉、惕然萃感。	〔工藝〕 春盤幡勝	文1434
40	卷23	代上梁職方与管御容皇城啓	伏審奉三后之粹容、降列真之秘宇、順浮齋舸、甫次敝封。拜德有涯、望風竊抃。恭以某官早逢熙旦、独映榮班。傾忠諒于端朝、密隆宸眷、肅表儀于禁列、增峻使聯。余遲趨承、併紆悃臆。	御容 三后之粹容	文1439
41	卷32	鉄漏壺銘	注之涓涓、弗舍晝夜。節數之正、差不容罅。作於熙寧、庚戌孟夏。	〔工藝〕 鉄漏壺銘	文1454
42	卷34	龍圖閣直學士朝散大夫給事中充同群牧使兼知審官東院權發遣開封府事上柱國隴西郡開國侯食邑一千二百戶食實封四百戶賜紫金魚袋李公行狀	（前略）公諱中師、字君錫、姓李氏。其先博平人、徙徙魏之內黃、又徙京師、今為京師人（前略）。中景祐元年進士第、類得補幕職（中略）。熙寧八年閏四月十四日也、享年六十一（中略）。筆札尤妙、得徐浩體、濟以清勁、遂自成一家。孝子之得銘先墓者、獲公書石、始以為慰幸（後略）。	〔書〕 李中師 筆札尤妙、得徐浩體、濟以清勁、遂自成一家。	文1455

## 27 釋契嵩（1007～72）『鐔津集』二十二卷

字は仲靈、号は潜子、俗姓は李。藤州鐔津（広西壮族自治区）の人。杭州の靈隱寺に居した。歐陽脩らの排仏論に対抗して『輔教編』を著し、儒教と仏教の融合を説いた。嘉祐六年（1061）には開封に行き、仁宗に著作を献上し、明教大師の号を賜った。『全宋詩』280～281。『全宋文』764～781。

1	卷9	万言書上仁宗皇帝	年月日、杭州靈隱永安蘭若沙門臣契嵩謹昧死上書皇帝陛下、某聞窮不忘道、學者之賢也、亡不忘義、志士之德也。於此有人、雖非賢德、而未始忘其道義也。今欲究其聖人之法之微、此所謂不忘道也。今憂虧損陛下之政治、是所謂不忘義也。某、其人也。某嘗以古今文興、儒者以文排仏、而仏道浸衰、天下其為善者甚惑。然此以閔陛下政化、不力救、則其道与教化失、故山中嘗竊著書以論世。雖然、亦冀佞奏陛下之丹墀。而微誠不能上感、嘗恐老死巖壑、与其志背。今不避死亡之誅、復抱其書、趨之殿下、誠欲幸陛下察其謀道不謀身、為法不為名、發其書而稍視、雖伏斧鑕、無所悔也。若今文者皆曰必拒仏、故世不用、而尊一王之道、慕三代之政、是安知仏之道与王道合也。夫王道者、皇極也、皇極者、中道之謂也。而仏之道亦曰中道、是豈不然哉。然而適中与正、不偏不邪、雖大略与儒同、及其推物理而窮神極妙、則与世相万矣。故其法曰隨欲、曰隨宜、曰隨對治、曰隨第一義、此其教人行乎中道之謂也。若隨欲者姑勿論、其所謂隨宜者、蓋言凡事必隨其宜而宜之也。其所謂隨其對治、蓋言其善者則善治之、惡者則惡治之。是二者、与夫王法以慶賞進善、以刑罰懲惡、豈遠乎哉。但仏心大公、天下之道善而已矣、不必已出者好之、非已出者惡之。然聖人者必神而為之、而二帝三皇庸知其非仏者之變乎。仏者非二帝三皇之本耶。詩曰、神之格思、不可度思、矧可射思。是蓋言神之所謂不可測也、苟有以其所宜而宜之。陛下乃帝王之真主也、宜善帝王之道也（中略）。契嵩之書、其前後臣之、其中名之者、亦有所云也。夫君臣之謂、蓋聖人以定在公者尊卑也、自古唯衣冠縉紳者歟。今為僧、祝髮隳形、儀範与人間雖異、而輒与衣冠所稱相濫、不乃失其事宜耶。孔子曰、必也正名乎。僧人預其人臣之謂其名、豈為正哉。儒有上不臣天子、下不事諸侯。昔王霸、嚴光不臣不名於漢、豈其然也。僧本蹈道世外、又敢冒其人臣之稱也。然僧而臣之者、善出近世不稽之例也。以其書前後稱臣者、表始終不敢違例、其中名之者、表不敢果以非其所宜者以見陛下也。干冒天威、不任皇恐之至。不宣。沙門臣契嵩昧死上書。	〔仏教〕 儒者以文排仏、而仏道浸衰、天下其為善者甚惑。	文764
---	----	----------	---	--------------------------------	------

2	卷9	再書上仁宗皇帝	<p>十二月日、杭州靈隱寺永安蘭若沙門賜紫臣僧某謹昧死上書皇帝陛下、臣聞事天者必因於山、事地者必因於沢。然所因高深、則所事者易至也。若陛下之崇高深大、則与夫山沢相万矣。適人有從事其道、者舍陛下而不即求之、雖其渠渠終身絕世、烏能得其志也。抑又聞物經曰、我法悉已付属国王大臣者、此正謂仏教損益弛張、在陛下之明聖矣。如此、則仏之徒以其法欲有所云為者、豈宜不頼陛下而自棄于草莽乎。臣忝仏之徒、實欲扶持其法。今者起巖穴、不遠千里、抱其書而趨闕下、願幸陛下大賜以成就其志也。臣嘗謂能仁氏之垂教、必以禪為其宗、而仏為其祖。祖者乃其教之大範、宗者乃其教之大統。大統不明、則天下学仏者不得一其所詣、大範不正、則不得質其所証。夫古今三学輩競以其所学相勝者、蓋由宗不明、祖不正、而為其患矣。然非其祖宗素不明不正也、特後世為書者之誤伝耳。又後世学仏者不能尽考經論而校正之、乃有束教者不知仏之微旨妙在乎言外、語禪者不諒仏之所詮概見乎教内。雖一円顛方服之属、而紛然自相是非、如此者古今何嘗稍息。臣自不知量、平生竊欲推一其宗祖、与天下学仏輩息諍疑、使百世知其学有所統也。山中嘗力探大藏、或經或伝、校驗其所謂禪宗者、推正其所謂仏祖者。其所見之書果繆、雖古書必斥之、其所見之書果詳、雖古書必取之。又其所出仏祖年世事迹之差訛者、若伝灯之類、皆以衆家伝記、以其累代長歴校之修之、編成其書、垂十余万言、命曰伝法正宗記。其排布状画仏祖相承之像、則曰伝法正宗定祖図。其推會宗祖之本末者、則曰伝法正宗論。総十有二卷。又以呉縑絵画其所謂定祖図者一面。在臣愚淺、自謂吾仏垂教僅二千年、其教被中国殆乎千歲、禪宗伝乎諸夏僅五百年、而乃宗乃祖、其事迹本末於此稍詳、可伝以補先聖教法万分之一耳。適當陛下以至道慈德治天下、天地万物和平安裕、而仏、老之教得以毗養大化。陛下又垂神禪悅、弥入其道妙、雖古之帝王更百代、未有如陛下窮理尽性之如此也。是亦仏氏之徒、際會遭遇陛下之一時也。臣所以拳拳懇懇不避其僭越冒犯之誅、輒以其書与図上進、欲幸陛下垂于大藏、与経律偕伝。臣螻蟻之生、已及遲暮、於世固無所待、其区区但欲其教法不微不昧、而流播於無窮、人得以資之而務道為善、則臣雖死之日、猶生之年也、非敢僥倖欲奈陛下雨露之渥澤耳。其所証捩明文、皆出乎大經大論最詳。其所謂伝法正宗論与其定祖図者、儻陛下天地垂察、使其得与大賜、願如景德伝灯録、玉英集例、詔降伝法院編入大藏、即臣死生之大幸。不惟臣之大幸、抑亦天下教門之大幸也。如陛下睿断、允臣所請、乞以其書十有二卷者特降中書施行。其伝法正宗記与其定祖図、兼臣旧著輔教編印本者一部三策、其書亦推會二教聖人之道、同乎善世利人矣、謹書上進。干黷冕旒、臣不任激切屏營之至。臣誠惶誠恐、謹言。</p>	伝法正宗定祖図	文764
3	卷10	上曾相公書（此書繫次富相後再致之書也）	<p>月日、沙門某謹獻書于集賢相公閣下、某雖不敏、平生輒以護法勸善為已。任每求搢紳先生之知円機、通乎天下之至理者、相与維持。故嘗以其書曰輔教編者、因崔黄臣太博而貢于下執事者、誠以閣下高識遠覽、知仏博大盛備、為古之聖人也、欲幸閣下推而勸之。尚不知其書果嘗達閣下之聽覽乎。而某今者西來、固欲以其禪書、祖図、願進之天子。至京師日、實先欲奉閣下教其去就可不之宜、而滯滯不能上進。數日前、幸得請于閣者、值客、盈門徒留刺、依然而還。然閣下相天下事固殷矣、恐不暇尽其山林所來之意、輒復書此、幸閣下垂察。然某所來、本以吾仏氏之教、其祖其宗、曖昧不甚、明適抱其書曰伝法正宗記十余万言、与其所謂定祖図者一面、欲頼聖明垂於大藏伝之、以正夫吾教三学仏子、使其万世知其所統也。其志止于是矣、匪敦他輩自為身名之計、僥倖欲苟所求耳。閣下儻以其誠不謬、教而成之、不惟自幸而已、亦乃天下教門之幸也。干冒台明、而罪無所道。不宣。某謹白。</p>	曾（公亮）相公定祖図	文765

4	卷11	蒼黃龍山南禪師〈次幅〉	某稽首、雖聞祖囑、宗記已辱采覽、而未奉評品、鄙心得無慊然。辱賜教墨、乃過形獎飾、豈大善知識為法欲有所激勸爾。且感且媿。某平生雖猥儒無大樹立、然亦勇聞清遠高識之士、三十餘載徒景服道素、不得一與勝會、此為眷眷。知復領大眾於龍山、其欽尚好善之誠、何書可盡。春煦、幸千萬為法自重。僧還、謹布區區。	祖囑	文766
5	卷12	伝法正宗定祖囑叙〈与囑上進〉	原夫菩提達磨、實仏氏之教之二十八祖也。与乎大迦葉、乃釈迦文如来直下之相承者也。伝之中国、年世積遠、譜牒差繆、而學者寡識、不能推詳其本真、紛然異論、古今頗爾。某平生以此為大患、適考其是非、正其宗祖。其書垂出、會領祖師伝法授衣之囑布諸天下、而學仏者雖皆榮之、猶聽瑩未論上意。某幸此、竊謂識者曰、吾仏以正法要為一大教之宗、以密伝受為一大教之祖。其宗乃聖賢之道、原生靈之妙本也、其祖乃万世学定慧之大範、十二部説之真驗也。自書伝乱之、曖昧漫漶、天下疑之幾千百載矣。今上大聖、特頒囑以正其宗祖。然聖人教道、必聖人乃能正之、是豈惟万世仏氏之徒大幸也、亦天地生靈之大幸也。某固不避其僭越愚妄之誅、敢昧死引其書之旧事、推衍上聖之意、仰箋於祖囑、亦先所頒祖師伝法授衣之謂也。然其始乱吾宗祖、熒惑天下學者、莫若乎付法蔵伝、正其宗祖、斷万世之諍者、莫若乎禪經。禪經之出、乃先乎付法伝六十二載、始終備載二十八祖、已見於晋之世矣。付法蔵伝乃真君魔教之後闕然、但謂二十四世方見魏之時耳。適以禪經驗、而付法蔵伝果其謬也。若如来独以正法眼蔵密付乎大迦葉者、則見之大涅槃經、智度論、禪經与其序也。以意求之、而仏之微旨存焉。上觀性高妙、独得乎言謂之外、是乃天資仏記也。故其發揮禪祖、雅与経合、宜乎垂之万世、永為定斷、三学仏子遵之仰之、天下不復疑也。其囑所列、自釈迦文仏、大迦葉至於曹溪六祖大鑑禪師、凡三十四位。又以儒釈之賢、其言吾宗祖素有証拠者十位、列於諸祖左右。謹隨其伝法正宗記詣闕上進。塵黷宸眷、不任惶恐震懼之至。謹叙。	伝法正宗定祖囑叙	文767
6	卷12	移石詩叙〈自此元別為卷〉	移石詩、君子之美移石也。始其棄於道傍、雖其瑰怪偉然可觀、而路人不顧。無習師思取而顯之、乃用工者計、不崇朝遂致於戶庭。巉崿嵌虛、若山聳洞壑、前瞰清沼、後蔭茂樹。左右益關三堂、曰石筵、曰照古、曰禪燕者、臨之使人悠然有幽思。自是誇者相告、觀者趨來、石之美一旦遂顯。無習復作詩以歌之、賢士大夫与方袍能詩者亦從而賦之、必欲余為叙。然人皆有所嗜之事、而有雅有俗、有滛有正、視其物、則其人之賢否可知也。若石之為物也、其性剛、其質固、其形靜、其勢方。方者似乎君子彊正而不苟也、靜者似乎君子不為不義而動也、固者似乎君子操節而不易也、剛者似乎君子雄銳而能立也。然移石之名益美乎是、其外峰峒似乎賢人嚴重而肅物也、其中空洞似乎至人虚心而合道也。今無習以吾道為禪者師、以翰墨与儒人游。取其石而樹之於庭、朝觀夕視、必欲資其六者以為道德之外獎、操修之默鑑也。及説其詩、求其所以為意者、則未始与此不合。然無習其心如此之遠也、而与世俗之虛玩物者固不足相望。諸君美而賦詩、不亦宜乎。其詩凡若干首、皆詩之豪者也、視之可見、豈卑論所能悉評。某歲月日、某序。	〔石〕 移石	文768
7	卷13	送潯陽姚駕部叙	駕部姚公將之潯陽〈亦謂潯州〉、道過鸞〈鸞乃余卿〉(中略)。今來出潯、潯故南方也、潛子南人、習知其山川風俗頗詳、姑為公言之。嶺外自邕管之東、潮陽之西、桂林之南、合浦之北、環數千里、国家政教所被、即其霜露雪霰霑洽已繁、瘴癘之氣消伏不發、秀民瑞物日出、其風土日美。香木桂林、宝花琦菓〈宝花琦菓、南人旧称〉、殊名異品、聯芳接茂、而四時不絶。若梧若藤、若容若潯、凡此數郡者皆帶江五戴山。山尤佳、江尤清、有神仙洞府、有仏氏樓觀、村郭相望、而人烟縹緲。朝暎夕陽、当天地澄霽、則其氣象清淑、如張画囑。然其俗質、其人淳、寡争訟、而浸知嚮方。吾知姚公治此民也、則其仁義之化易行、臨此景也、則其清明之志益得(後略)。	〔叙景〕 潯陽 則其氣象清淑、如張画囑。	文767

8	卷14	解独秀石名〈名或作志〉	<p>其既名独秀石、章表民以其名為未當、且以詩評之、更曰独恠石。表民能文、其取義必遠、然吾独秀之義、亦未始與人語、因得論之。世俗所謂恠石者、必以其詭異形狀類乎禽獸人物者也為之焉。如是、則屏山之石盈巖溢壑、無不如禽獸人物者也、何独一石謂之怪邪。夫独秀石、有拔數仞、巖然特立于山之東南隅、端莊不與眾石同趨附、頗似正人端士抱道自處、不以事勢為朋黨。大凡物稟秀氣而生成者、其所樹立必巖然超出其群。吾所謂独秀石者、意其鍾得秀氣、能自植立、不與其類相為附麗。要詩人譎以張之、蓋欲有所警耳。苟以恠石名之、彼眾入者自能命之、何待不腆而名之耶。無已、吾請從于独秀。</p>	〔石〕 独秀石	文780
9	卷14	漳州崇福禪院千仏閣記	<p>(前略) 崇福在漳南為大精舍、徒眾常五百人、聚居中申然、尊大比丘顯微為長老。微師統此方五年、其屋廬大小、治之以完。初、其居之東有隙地、微師意其形勝、可置之仏閣、乃引其州人王文渥謀始。居無何、客有來謂曰、今山中水大漲、尽浮其久積之材出乎江溪、是足成爾也。微師以其感會、遂大出其寺錢百余万、王文渥益施二十五万助之。其州之僧者俗者不啻三十人、因各相助、勸其閩里之樂善者出財合刻賢劫千仏与五百応真之像、并彩繪五百応真者。始至和甲午仲冬役土木工、適適日不稍輟。明年方秋而其閣成。巖然九間、陵空跨虛、飛橋危亭、甕湧旁出。其所造之像、繪事既竟、即迎而內之。釈迦、弥勒、薬師則位乎其中、千如来則列于前後左右也。閣之下亦以釈迦、文殊、普賢眾聖之像而位乎其中、五百応真与十六大衆則列其四向。嘉祐初、而龍巖人曰楊節者、益于其閣之南為大阿羅漢、浴室廊廡環之、備法事也。然其規模壯麗、閩人偉之、謂是閣者乃吾閩樓觀之冠也 (中略)。嘉祐四年己亥孟秋之晦日、靈隱之永安山舎記。</p>	〔彫刻・画〕 漳州崇福禪院千仏閣 合刻賢劫千仏与五百応真之像、并彩繪五百応真者。 釈迦、弥勒、薬師則位乎其中、千如来則列于前後左右也。閣之下亦以釈迦、文殊、普賢眾聖之像而位乎其中、五百応真与十六大衆則列其四向。	文780
10	卷14	旧研銘〈并敘〉	<p>余在故郷時、亡友道士馬知章出端溪硯為贈。及遊四方、硯且俱行、于今十有四年矣。知章不幸早死、嗚呼、知章為人有信義、好學問、耿潔務持高節。未果其志、而天奪之壽。視硯往往想見其人 (或無想字)、故持之而未嘗棄置。是歲康定記元之冬季也。為之銘曰、若人云亡、道交已矣。金石而心、視此宝此。</p>	〔文房具〕 旧研銘	文780
11	卷15	杭州武林天竺寺故大法師慈雲式公行業曲記〈石刻本見天竺山〉	<p>法師諱遵式、字知白、本姓葉氏、臨海郡寧海人也 (中略)。師處宝雲更十有二載、未嘗持謁与俗人往還。自幸得觀音幽贊、命匠氏以栴檀為大悲之像、刻已像而載之、益撰十四大願之文。其後工有誤折像所執之楊枝者、法師敬且恐、即自以接之、不資膠膠而脗合如故 (中略)。咸平五年、法師復歸于台、欲東入屏居、而徒属愈繁。乃即其西陽益宏精舍、捩經造無量寿仏大像、相率修念仏三昧、著浄土行法之說。其邑先有淫祠者、皆為考古法正之、濫饗者徹去 (中略)。逮王文穆公罷相撫杭、聞其高風、因李明州 (夷庚) 要見于府舍。既見、王公奇之 (中略)。会乾元節、王公以其道上聞、遂錫号慈雲。自是相与為方外之遊益親、形于詩書者多矣。若其所著円頓十法界觀心図、注南岳思師心要偈之類、皆為王公之所為也 (中略)。明年 (天聖十年) 十月之八日示微疾、不復用医薬、命取嘗和晋人劉遺民晦迹詩、改其結句云、翔空迹自絶、不在青青山。使磨厓刻之。翌日之晚、復曰、吾報縁必尽、敢忘遺訓乎爾曹耶。益說法以勗其属。及後日之晚、使請弥陀像以正其終。其徒尚欲有所禱、且以觀音像命。法師即炷香瞻像而祝之曰、我觀世音前際不来、後際不去。十方諸仏、同住實際。願住此實際、受我一炷香 (云云)。或問其所歸者、猶以寂光浄土對之。至其夕之三鼓、奄然坐終。先此、法師自製其櫬曰遐榻而銘之。學者務奉其師之前志、必臥其靈体于遐榻。更七日、其形貌完潔如平昔。其寿六十有九、臘五十 (後略)。</p>	〔彫刻・画〕 以栴檀為大悲之像。 捩經造無量寿仏大像。 円頓十法界觀心図。 弥陀像	文781



12	卷16	唐段太尉伝賛	<p>段太尉秀実先為用事者奪去兵權而無怨、及是、毅然奮笏擊殺朱泚、不顧一死、囚存王室、古所謂社稷之臣也。又曰殺身以成仁、又曰臨難無苟免、惟段氏皆得之矣。説者或云、段太尉小弱、動不注物、頗類儒者、及其奮擊反虜、罵声掉厲而氣慄万夫、白刃交前而卒不變色、又何壯哉。猛如飄風、烈如疾雷、慷慨雄偉、卓出古今。太史公疑田侯于画図、信有之矣。嗚呼、大凡古今人情、得權勢之盛、不振主則驕時、及失之、則怨望不能自存、往往謀為不軌。如段秀実太尉者、得之不為幸、失之不為怨、成之与敗在未決間、而以死循王室。擬淮陰侯韓信、則其賢遠矣。</p>	<p>唐段太尉不顧一死、囚存王室。太史公疑田侯于画図、信有之矣。</p>	文768
----	-----	--------	---	--------------------------------------	------

## 28 釋重顯 (980~1052) 『祖英集』 二卷

字は隱之、俗姓は李。遂州（四川省）の人。隋州、池州、蘇州を経て、明州の雪竇山賢聖寺に住し、皇祐中、朝廷より明覺大師の号を賜った。『全宋詩』147~149。『全宋文』326。

1	卷上	晦跡自貽	<p>図画当年愛洞庭、波心七十二峰青。如今高臥思前事、添得盧公倚石屏。</p>	<p>図画当年愛洞庭、波心七十二峰青。</p>	詩147
2	卷下	兎角柱杖	<p>少室伝来兎角杖、千聖護持為頂相。虎踞龍蟠勢未休、雲影山形冷相向。有時間倚在虚堂、寥寥匝地凝秋霜。有時大作師子吼、德嶠臨際何茫茫。今日提来還不惜、分明普示諸知識。解拈天下任横行、高振風規有何極。</p>	<p>〔工芸〕 兎角柱杖</p>	詩148
3	卷下	永豊莊新植徑松忽二本鄰僊抒辭紀之	<p>双偃松何似、螺文結数遭。清声雖競發、寒影不相高。対客円分蓋、孤禪翠滴袍。若教図画得、争奈有蕭搔。</p>	<p>〔松〕 新植徑松 若教図画得、争奈有蕭搔。</p>	詩148
4	卷下	和陸軫学士夏日見寄	<p>良牧婦詩匠、雅風消鬱蒸。官清難滯爵、吏散遠同僧。棠樹非煙合、仙槎碧浪乘。因思窮万化、使君早製円明鑑、冠之序引。或聞或見、令人曠達、千古更無能。</p>	<p>円明鑑図</p>	詩148